

# 常総環境センター最終処分場検討会

## － 検 討 書 －

(案)

平成 25 年 11 月

## 目 次

### ○ はじめに

1. 圏域の概要	1
2. ごみ処理事業のあゆみ	2
3. ごみ処理の現状	5
(1) ごみ処理体系	5
(2) ごみ処理の状況	6
(3) 最終処分の状況	7
4. 減量化施策の取り組み	10
(1) ごみの減量化・資源化の施策	10
(2) ごみの減量化・資源化施策の実施状況	11
(3) 施策の効果	21
5. リサイクルの検討	23
(1) リサイクル対象物の種類	23
(2) リサイクル対象物量及び埋立量	24
(3) 同規模施設におけるリサイクル・埋立状況	27
(4) 対象物のリサイクル	29
6. 最終処分場の整備状況	33
7. 総コストの比較	38
8. 放射能の影響	39
9. 圏域住民の意向	41

10. 広域圏における最終処分場のあり方	4 3
(1) リサイクルの可能性及び最終処分量の削減	4 3
(2) 圏域における最終処分場の必要性	4 5
11. 最終処分場候補地の選定に向けて	4 7

#### 添付

- ・常総環境センター最終処分場検討会設置要綱
- ・常総環境センター最終処分場検討会委員
- ・常総環境センター最終処分場検討会協議経過

#### 別添

- ・地域内の最終処分場のあり方に関するアンケート調査結果

## ○ はじめに

常総地方広域市町村圏事務組合では、一般廃棄物の処理について排出から処分まですべて圏域内で行う「自区内処理」を基本として、これまで圏域内に一般廃棄物最終処分場の整備計画を推進してきた。

組合設立当時、ごみ処理で発生する灰等は、圏域内の自らの地域に備えた最終処分場で埋立処分してきたが、昭和52年、国から浸出水による水環境の汚染を防止する措置を求める共同命令が出されたことで、水処理施設を備えたいわゆる管理型処分場での埋立処分が求められ、以降、管理型処分場を有する圏域外の民間最終処分場に委託して最終処分をしている。

組合では、これまで圏域内に処分場候補地を選定して自らの地域に最終処分場の整備を推進してきたが、住民合意形成が得られず一般廃棄物最終処分場は未だ整備されていない。

そこで、組合では、平成23年7月に、圏域の最終処分のあり方等について検討するため、専門家で構成する「最終処分場検討会」を設置した。検討会では、広域圏における最終処分場のあり方や、排出物のリサイクルの可能性を探るため、組合におけるこれまでのごみ処理の経緯をはじめ、ごみ処理や最終処分の現状、排出物のリサイクル等の検討などについて、一つひとつ慎重に協議を重ねてきた。

本検討書は、常総環境センター最終処分場検討会設置要綱第6条に基づき、専門的見地から多面的な検討を行い、今後の常総広域圏における最終処分のあり方に係る方向性を報告するものである。

## 1. 圏域の概要

本圏域は、関東平野のほぼ中央、茨城県の南西部に位置し、東西 15 km、南北 35 km、総面積 264.4 k m<sup>2</sup>の南北に長い比較的平坦な地形である。

圏域は、常総市、取手市、守谷市、つくばみらい市の 4 市をもって構成され、全域が首都 50 km 圏内にあり、東はつくば市に接し、南は利根川を挟んで千葉県に接している。

交通網としては、圏域の南部を JR 常磐線が通り、並行して国道 6 号線が東西を走っている。また、中央部をつくばエクスプレスと常磐自動車道が東西に走り、都心へ直結しており、さらに、圏域のほぼ中央を関東鉄道常総線及び国道 294 号線と常総ふれあい道路が南北に縦断している。

これらの沿線においては、住宅地などの開発が進み、また、都市化の波が押し寄せている一方でその他の地域は鬼怒川、小貝川流域の肥沃な土地を利用した田園地帯となっている。

圏域内のごみ処理は、収集・運搬を各市が行い、処理・処分は常総環境センターが行っている。

今後、本圏域は首都圏中央連絡道路などの交通ネットワークの整備やつくばエクスプレス沿線等での開発が進み、都市化が進むことで、大きく発展することが見込まれる。併せてごみ量も増加することが予測され、圏域では循環型社会を推進するために、より一層のごみ減量化施策の推進に取り組んでいく必要がある。



## 2. ごみ処理事業のあゆみ

常総地方広域市町村圏事務組合は、昭和 47 年 3 月にごみ処理事業を共同で効率的に行う広域行政機構の一部事務組合として設立された。

ごみ処理施設に関しては、組合設立と同時に建設に着手し、昭和 49 年に日量 150 t の焼却施設、日量 50 t の破碎施設を有する第一次ごみ処理施設が、平成 2 年 4 月には日量 351 t の焼却施設、日量 90 t の粗大ごみ処理施設を有する第二次ごみ処理施設が稼働した。

平成 12 年には、第三次ごみ処理施設の設置に向け、第三次ごみ処理施設基本計画を策定し、更新事業を進めてきた。平成 15 年に常総環境センター検討委員会を設置し、地元住民と協議を重ね、平成 19 年 3 月に第三次ごみ処理施設更新事業の同意締結を経て、平成 20 年 3 月に日量 258 t の焼却施設、日量 127 t の資源化施設の建設工事に着手し、平成 24 年 8 月に稼働した。

圏内では、人口の増加に合わせてごみ量の増加が予想されることから、これまでごみの分別、資源化及び減量化施策に取り組み、昭和 49 年から 2 種 2 分別収集、昭和 58 年から 3 種 3 分別収集、昭和 60 年から 4 種 4 分別収集、平成 6 年度からは、さらに資源物の回収とごみの減量化のための 5 種 9 分別収集や統一指定ごみ袋制をスタートさせ、平成 12 年度には容器包装リサイクル法の完全施行に合わせ、5 種 13 分別収集を実施した。また、平成 20 年度からは可燃ごみ中の生ごみを堆肥にする事業を試験的に行うなどしている。平成 21 年 5 月には、今後、さらなるごみの増加に対応するため、ごみ減量化プロジェクトを発足させて生ごみ堆肥化や有料化施策など具体的な減量化施策について検討を経て、平成 24 年 4 月から第三次ごみ処理施設の稼働に合わせ、5 種 16 分別収集を開始した。

－ ごみ処理事業の経過 －

昭和47年 3月	常総地方広域市町村圏事務組合設立
昭和49年 7月	常総環境センター第一次ごみ処理施設稼働 ・焼却施設（処理能力：日量150t） ・不燃ごみ処理施設（処理能力：日量50t） ごみの2種2分別収集スタート（可燃・不燃）
昭和58年 4月	ごみの3種3分別収集スタート（可燃・不燃・粗大）
昭和60年 4月	ごみの4種4分別収集スタート（可燃・不燃・粗大・有害）
平成 2年 4月	常総環境センター第二次ごみ処理施設稼働 ・焼却施設（処理能力：日量351t） ・粗大ごみ処理施設（処理能力：日量90t）
平成 6年 4月	ごみの5種9分別収集スタート （資源物・可燃・不燃・粗大・有害）
平成12年 4月	ごみの5種13分別収集スタート
平成16年10月	あきビンのコンテナ収集スタート
平成24年 4月	ごみの5種16分別収集スタート
平成24年 8月	常総環境センター第三次ごみ処理施設稼働 ・焼却施設（処理能力：日量258t） ・資源化施設（処理能力：日量127t）

最終処分に関しては、組合では当初、昭和 49 年から埋立処分基準に従い、圏域内において自ら埋立処分していた。しかし、昭和 52 年に管理型処分場相当の構造を有する施設への埋立が義務付けられ、従来のままの埋立処分を継続することが困難となった。そこで、新たな処分場の立地候補を選定するなどして整備につとめてきたが、事業実施までに至らなかった。そのため、圏域外の管理型処分場に、最終処分を委託している状況で、組合圏域内に最終処分場がない状態である。

－ 最終処分の経過 －

区分		昭和								平成																	
		49	51	53	55	57	59	61	63	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24						
圏域内	組合処分場	■																									
	A社	■																									
圏域外の管理型処分場	B社									■																	
	C社									■																	
	D社									■																	
	E社													■													
	F社																	■									
	G社																	■									
	H社																	■									
	I社																									■	

### 3. ごみ処理の現状

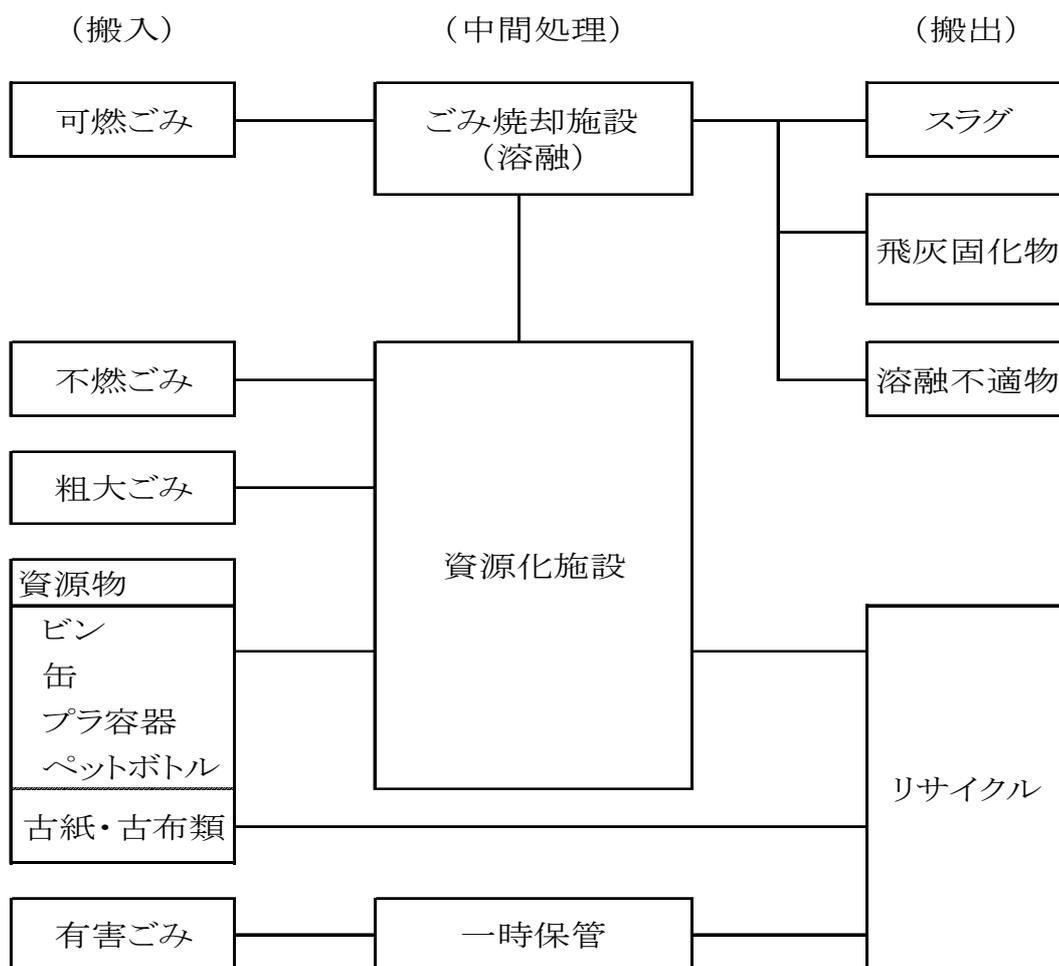
#### (1) ごみ処理体系

循環型社会構築を図るため、施設更新に合わせて、平成 24 年 4 月から、「資源物」にプラスチック製容器包装（プラ容器）、ペットボトル、「有害ごみ」に蛍光管を加えた 5 種 16 分別体制に移行した。

「資源物」のうち缶やビン、「有害ごみ」は、これまでと同様、リサイクル先に運ばれ、また、新たに加えられたプラスチック製容器包装、ペットボトルも資源化施設で資源化されている。古紙・古布類は、引き続き、各市により各々古紙問屋等に運ばれリサイクルしている。

ごみ焼却施設での中間処理によって発生するものは、スラグ、飛灰固化物、溶融不適物となる。

－ ごみ処理フローチャート －

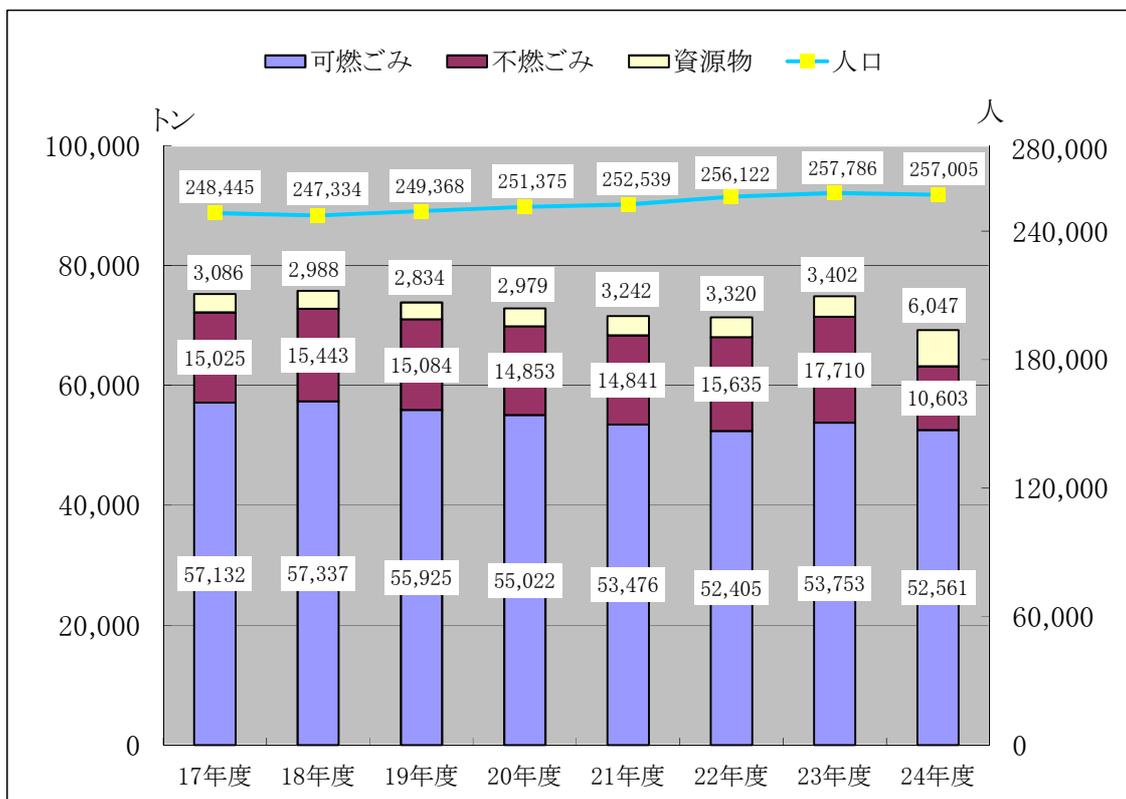


(2) ごみ処理の状況

圏域内のごみ搬入量は、過去8年間の推移を見ると平成18年度から平成22年度までは、減少傾向を示しているが、平成23年度は、平成24年度からの粗大ごみの有料化を控えていることで、駆け込み排出により一時的に増加している。

圏域内人口は、平成17年度が248,445人に対し、平成24年度は、257,005人と8,560人増加している。

－ 人口と資源物及びごみ搬入量の推移 －



(単位:t)

年度	17	18	19	20	21	22	23	24
搬入量	75,243	75,768	73,843	72,854	71,559	71,360	74,865	69,211

(3) 最終処分の状況

① これまでの最終処分状況

過去8年間の最終処分量の推移は、次のとおりである。

ごみの搬入量は、多少の増減はあるもののほぼ横ばいであるが、不燃ごみ中の廃プラ類を処理する廃プラスチック類固形燃料化事業が平成19年度に固形燃料物から圧縮梱包物に性状が変更になったことで約2,000t増加した。また、廃プラスチック類固形燃料化事業の廃止に伴う最終処分方法の変更により、平成22年度から、最終処分量は増加したが、平成24年度は新施設の稼働により焼却システムが変わり、平成20年度以降18,000t程度の最終処分量が約10,000t減少し、8,000t程度となった。

－ 最終処分量の推移 －

(単位:t)

区分	焼却残渣	不燃・粗大残渣	廃プラ類	合計
17年度	7,546	1,654	6,194	15,394
18年度	7,525	1,760	6,127	15,412
19年度	7,032	2,363	6,620	16,015
20年度	6,483	3,018	8,593	18,094
21年度	6,427	3,074	8,405	17,906
22年度	6,344	12,204	—	18,548
23年度	6,591	11,623	—	18,214
24年度	6,693	1,181	—	7,874

※平成21年度に、廃プラスチック類固形燃料化事業を廃止

※平成24年度に、焼却システムを変更

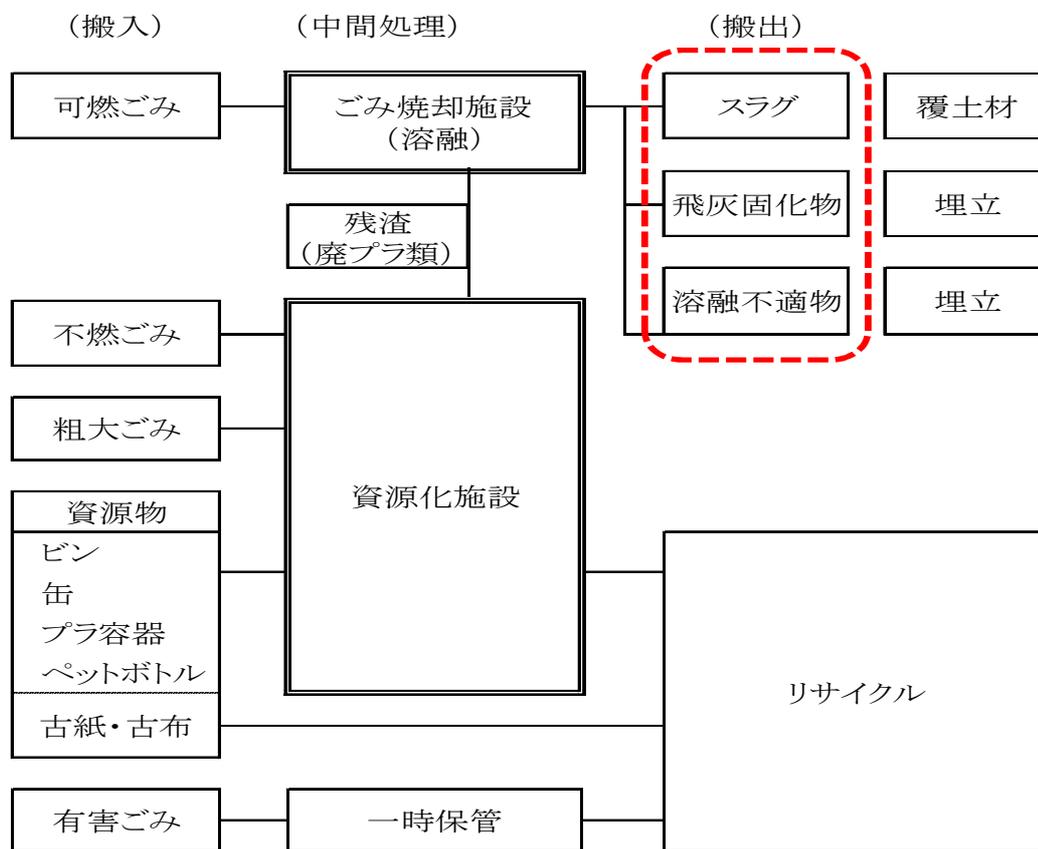
② 現在の最終処分状況

平成 24 年 8 月に稼働した新施設において、可燃ごみは焼却施設で熔融した後に排出されるスラグ、飛灰固化物や熔融不適物を民間委託で覆土材としての活用または埋立処分を行っている。

なお、資源化施設からの残渣はすべて焼却施設で処理している。

平成 24 年度は、年間ベースで当初、最大 10,990 t が発生するものと計画していたが、試運転以降の実績から試算すると 6,700 t 程度と見込まれ、計画量より 4,000 t 程度減少する。

－ 平成 24 年度ごみ処理フローチャート －



－ 平成 24 年度排出量 －

(単位：t)

区分	計画量	実績量 (11ヶ月)	年間換算量
スラグ	6,400	3,264	3,600
飛灰固化物	4,130	2,392	2,700
熔融不適物	460	324	400
合計	10,990	5,980	6,700

③ 最終処分先

施設からの排出物は、すべて圏域外の民間施設に委託処分している。

区分	排出物	備考
C社	スラグ・飛灰固化物・熔融不適物	
F社	スラグ	
I社	スラグ	覆土材

#### 4. 減量化施策の取り組み

##### (1) ごみの減量化・資源化の施策

当圏域では、循環型社会を構築するため、各種施策について検討、実施し、ごみの減量化・資源化を推進している。

##### － 平成 24 年度ごみ減量化事業 －

区分	その他	各市共通
常総市	<ul style="list-style-type: none"> <li>ごみ減量化パンフレットの作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資源回収報奨金制度の実施</li> <li>生ごみ処理容器(EM容器、電動処理機を含む)購入時補助金制度の実施</li> </ul>
取手市	<ul style="list-style-type: none"> <li>ごみ減量化パンフレットの作成</li> <li>牛乳パック回収ボックスの設置(市内19ヶ所)</li> <li>廃棄物減量等推進員を置き廃棄物の再利用の促進を指導</li> <li>事業系ごみの減量化の指導</li> <li>空き缶プレスカーによる集団回収への巡回、デモンストレーション</li> <li>資源物(古紙、古着)の行政回収の実施</li> <li>集団回収の活性化への支援</li> <li>ごみ減量化に関する学習会(生涯学習課と連携)を実施</li> <li>レアメタル回収を目的とした小型家電製品回収ボックスの設置</li> <li>インクジェットプリンターの使用済みカートリッジ回収事業</li> <li>給食センターから排出される廃油リサイクル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>庁舎内資源物の分別回収の実施</li> <li>リサイクル推進店(エコショップ)登録制度の実施</li> <li>ごみ処理場の見学会を実施</li> <li>環境センター生ごみ堆肥化事業への参加</li> <li>広報紙及びホームページによるごみ減量化のPR</li> </ul>
守谷市	<ul style="list-style-type: none"> <li>片面使用済みコピー用紙の再利用の実施(公共施設)</li> <li>牛乳パック回収箱の設置(市内4ヶ所)</li> <li>資源物抜き取り防止パトロールの実施</li> <li>廃棄物減量等推進員による減量と再利用の促進を指導</li> <li>学校給食の生ごみ堆肥化事業の実施(給食センター)</li> <li>コミュニティコンポストモデル事業の実施(県営住宅)</li> <li>リサイクル伝言板の設置(中央図書館、ホームページ掲載)</li> <li>市内小中学校シュレッダーごみ回収(各校月2回)</li> <li>生ごみ減量キャンペーンの実施</li> <li>ペットボトルの拠点回収(市庁舎及び公共施設)</li> <li>利用可能な粗大ごみのリサイクル市開催</li> <li>レアメタル回収を目的とした小型家電製品回収ボックスの設置</li> <li>インクジェットプリンターの使用済みカートリッジ回収事業</li> </ul>	
つくばみらい市	<ul style="list-style-type: none"> <li>片面コピー用紙の再利用の実施、再生紙の利用</li> <li>ごみステーションパトロールの実施</li> <li>買い物時のマイバック持参の啓発</li> <li>市内一斉清掃の実施</li> <li>小貝川、鬼怒川周辺の空き缶、空きビン回収等の実施</li> </ul>	

(2) ごみの減量化・資源化施策の実施状況

当圏域では、ごみの減量化・資源化を推進するため、各種施策について検討、実施している。

① 分別区分とごみの出し方のPR

これまで5種13分別体制で実施していた分別区分は、平成24年度より分別区分を5種16分別に変更し、さらにごみの減量化・資源化を図っていく。

[実施状況]

当圏域の分別区分は、これまで段階的に体制を変更し、ごみの中から新たに資源物となる品目を抽出してきた。平成24年度からは、5種16分別に細分化してごみの減量と資源化を進めている。

－ 分別の経過 －

昭和49年度	2種2分別	可燃、不燃
昭和58年度	3種3分別	可燃、不燃、粗大
		追加 粗大
昭和60年度	4種4分別	可燃、不燃、粗大、有害
		追加 有害
平成6年度	5種9分別	可燃、不燃、粗大、有害、資源物(あき缶、あきビン、新聞紙、雑誌・コピー紙、ダンボール紙)
		追加 資源物(あき缶、あきビン、新聞紙、雑誌・コピー紙、ダンボール紙)
平成12年度	5種13分別	可燃、不燃、粗大、有害、資源物(あき缶、無色ビン、茶色ビン、その他色ビン、新聞紙、雑誌・コピー紙、紙パック、ダンボール紙、古布)
		追加 資源物(無色ビン、茶色ビン、その他色ビン、紙パック、古布)
平成24年度	5種16分別	可燃、不燃、粗大、有害(乾電池・体温計、蛍光管)、資源物(あき缶、無色ビン、茶色ビン、その他色ビン、プラスチック製容器包装、ペットボトル、新聞紙、雑誌・雑紙、紙パック、ダンボール紙、古布)
		追加 有害(蛍光管)、資源物(プラスチック製容器包装、ペットボトル)

平成24年度からの分別区分の変更にあたっては、住民周知が重要不可欠であり、今回「ごみの分け方出し方DVD」や「分別の手引き」を作成し、住民の方々に広く周知して分別排出の徹底を図っている。

「ごみの分け方出し方DVD」は、映像による新しい分別の仕方を分かりやすく説明したもので、各市の住民説明会で活用している。また、「分別の手引き」では、品目別のごみ種について網羅したもので、住民に配布している。さらに、新しい分別の仕方について、各市、組合のホームページ及び広報紙に掲載して周知を図っている。

－ 5種16分別導入の状況 －

区分	広報等	住民説明会等周知状況	備考
常総市	平成23年11月 広報 平成24年 2月 分別の手引き配布 平成24年 3月 個別チラシ配布	平成23年2月広報で「出前講座」として周知 平成24年2月 外国人団体、坂手地区(午前・午後) 豊岡細野中地区 平成24年3月 豊岡浜・砂原、小谷地区、菅生・中郷地区 要望に応じて各公民館等に出向いて講座を開催 市役所ロビーでの周知	ホームページ 掲載中
取手市	平成23年11月 広報1089号 平成23年12月 広報1090号、広報1091号 平成24年 2月 ポスティングで分別の手引き配布	平成23年12月 公民館単位で説明会を実施(延べ8日間 14箇所 参加者約400名) 平成24年2月 出前講座(小堀地区計6箇所)	ホームページ 掲載中
守谷市	平成23年10月 広報おしらせ版 平成23年12月 広報 平成24年 2月 分別の手引き(カレンダー、Q&A含)を配布	平成23年10月 区長・廃棄物減量推進員を対象とした説明会を市役所で実施(延べ2日間、全6回開催、約200名) 平成24年1月:2回、2月:1回、3月:3回個別に開催 要望に応じて個別に説明会開催	ホームページ 掲載中
つくばみらい市	平成23年12月 広報 平成24年 1月 広報 平成24年 2月 分別の手引きを配布	平成24年1月「お知らせ版」を配布し、説明会の開催について周知 平成24年2月 板橋(門前)地区 3月松並地区、山王新田八期住宅 広報で周知しながら、要望に応じ説明会を開催	ホームページ 掲載中
組合	平成22年11月 第45号 平成23年 5月 第46号 平成24年 1月 第47号 平成24年 5月 第48号 平成24年12月 第49号	2面 ごみ減量化への取組み(ごみ分別方法) 1面2面 ごみの新たな分別と出し方の流れ 4面 不燃ごみの分け方出し方の変更 4面 新たな分け方の質問と回答 2面 ペットとプラ容器の処理状況	ホームページ 掲載中

② 補助制度強化、拡大

集団回収、生ごみ処理容器に対する補助を継続・強化する。

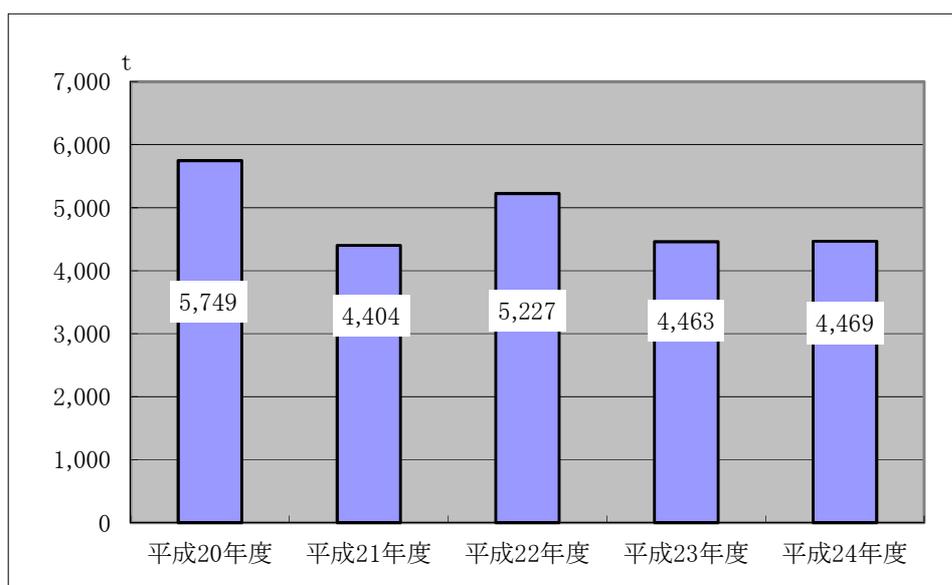
〔実施状況〕

ごみ減量、資源化を推進するため、新聞紙、ダンボール紙等の集団資源回収を実施している。平成23年度が4,463 t、平成24年度は4,469 tの資源物が回収され、毎年増減している状況である。

－ 集団資源回収実績 －

(単位:t)

区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
常総市	1,103	1,016	1,846	1,023	1,009
取手市	3,045	1,807	1,794	1,871	1,865
守谷市	1,104	1,041	1,066	1,058	1,093
つくばみらい市	497	540	521	511	502
合計	5,749	4,404	5,227	4,463	4,469

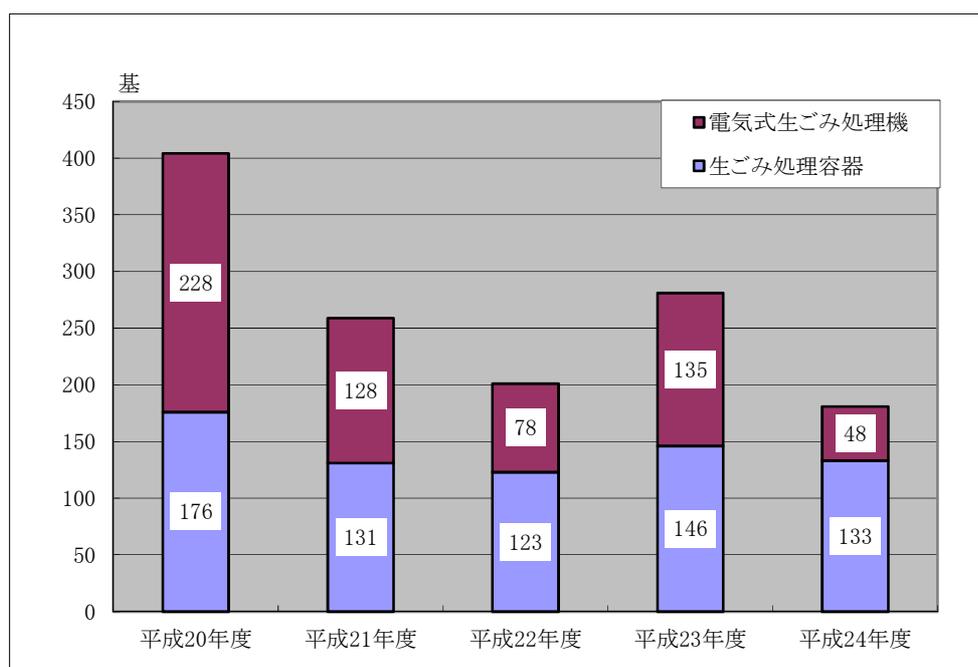


また、生ごみ処理機の購入に関しては、平成 23 年度が 281 基、世帯比率 0.3%であり、平成 24 年度は 181 基、世帯比率 0.2%で毎年減少している状況である。

－ 生ごみ処理機購入実績 －

(単位:基)

区分		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
生ごみ処理容器	常総市	49	49	42	45	44
	取手市	83	51	56	79	59
	守谷市	31	16	10	12	13
	つくばみらい市	13	15	15	10	17
	計	176	131	123	146	133
電気式生ごみ処理機	常総市	19	14	14	5	7
	取手市	136	55	33	114	20
	守谷市	47	39	14	8	9
	つくばみらい市	26	20	17	8	12
	計	228	128	78	135	48
合計		404	259	201	281	181



一方、組合では平成 20 年度から生ごみ堆肥化事業を実施しており、平成 23 年度が守谷事業所 4,713 世帯、取手事業所 1,735 世帯の 6,448 世帯、世帯比率 6.8%に対し、平成 24 年度は守谷事業所 5,100 世帯、取手事業所 1,808 世帯の 6,908 世帯で、460 世帯増加し、世帯比率 7.1%となっている。

－ 生ごみ堆肥化実績 守谷事業所 －

(単位:t)

区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
生ごみ回収量	243	454	575	661	715
製造量	58	130	174	193	208
協力世帯	1,530	3,458	4,240	4,713	5,100

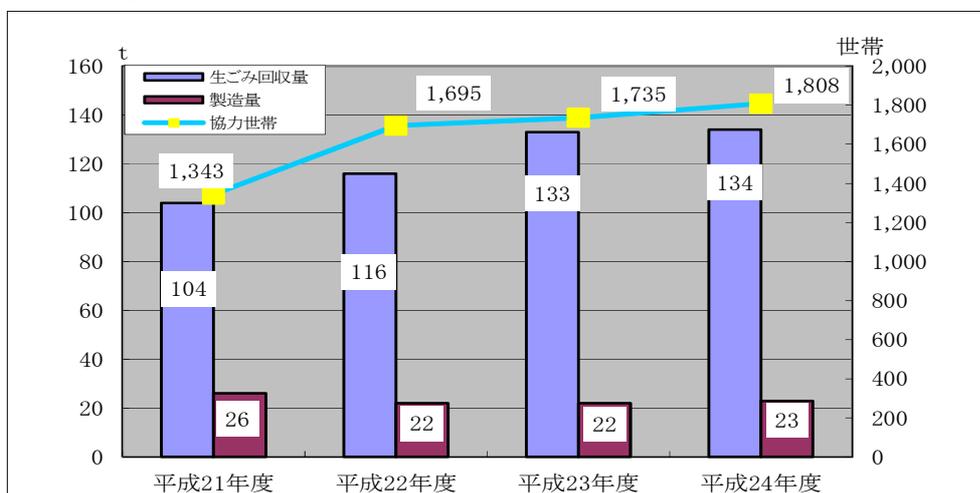


－ 生ごみ堆肥化実績 取手事業所 －

(単位:t)

区分	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
生ごみ回収量	104	116	133	134
製造量	26	22	22	23
協力世帯	1,343	1,695	1,735	1,808

平成21年度より取手市から移管



③ 行政資源回収量実績

各家庭から出される新聞紙、雑誌、ダンボール、牛乳パック、古布については、集団資源回収の他に各市で独自のルートで資源化を図る行政回収を行っている。

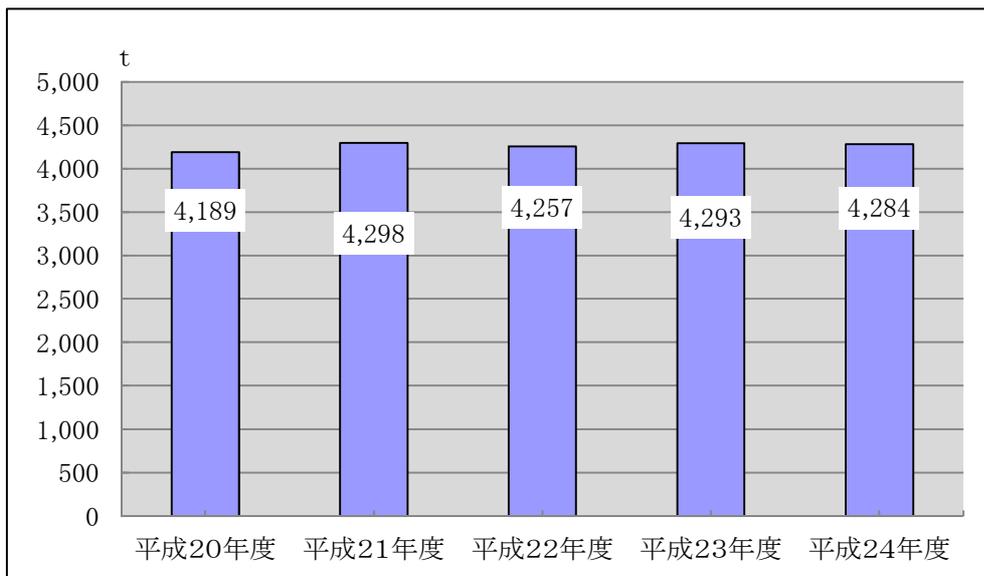
〔実施状況〕

平成23年度が4,293 t、平成24年度は4,284 tの資源物が回収され、横ばいで推移している状況である。

－ 行政資源回収量実績 －

(単位:t)

区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
常総市	163	135	227	265	291
取手市	2,247	2,071	1,854	1,764	1,875
守谷市	1,078	1,295	1,377	1,463	1,397
つくばみらい市	701	797	799	801	721
合計	4,189	4,298	4,257	4,293	4,284



④ 環境学習の推進

学校、地域、事業所に対し、施設見学等の環境学習や情報提供等を行う。

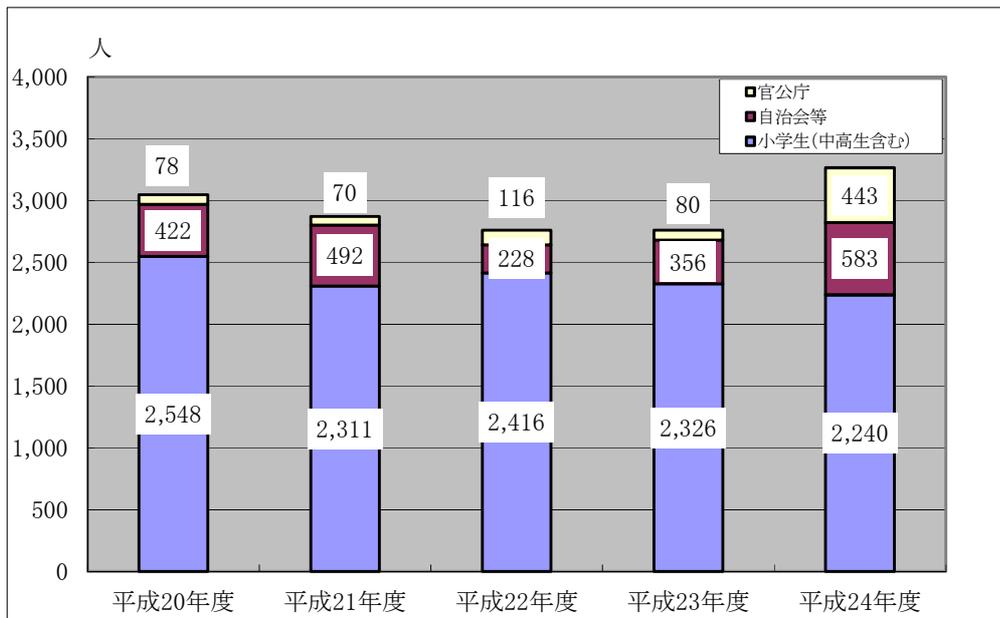
〔実施状況〕

毎年約 2,500 人以上の見学者があり、過去 5 年間では、社会科授業の一環で行われる小学生の来場者は横ばいにあったが、新施設の稼働により、見学者の増加が予想され、引き続きごみの減量・資源化の推進について意識の向上を図っていく。

－ 見学者の推移 －

(単位:人)

区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
小学生(中高生含む)	2,548	2,311	2,416	2,326	2,240
自治会等	422	492	228	356	583
官公庁	78	70	116	80	443
合計	3,048	2,873	2,760	2,762	3,266



⑤ 分別の徹底、不法投棄対策

廃棄物減量等推進員による分別指導、パトロール等による不法投棄防止策の検討、実施。学校、町内会等による清掃活動の実施。

〔実施状況〕

分別の徹底を図るため、各市の集積所において分別指導を実施している。また、合わせて各市と共に集積所に出されたごみの分別状況の調査などを実施し、分別の徹底について広報などでの周知を予定している。

また、各市では、廃棄物減量等推進員や協力企業などに不法投棄の状況確認を依頼するなどの対策を実施している。さらに、市内一斉清掃や河川敷のクリーン作戦などで清掃活動を実施している。

今後も、平成 24 年度からのごみ分別区分の変更による分別の徹底を図るため、分別指導やパトロールを実施して住民意識の向上を図っていく。

⑥ 粗大ごみの有料化

ごみ減量化を推進するため、粗大ごみの有料化を平成 24 年度から実施している。

〔実施状況〕

ごみ減量化を推進するため、平成 21 年にごみの有料化を検討した結果、「粗大ごみ」のみ実施することになった。「粗大ごみ」は全ての住民から定期的に排出されるものではなく、受益者負担という観点等によるものである。平成 23 年度は、平成 24 年度から粗大ごみの有料化を始めることで粗大ごみの駆け込み排出が増加し、反動で平成 24 年度は、ごみ処理基本計画 3,559 t に対し 1,600 t と大きく減少した。

⑦ 不用品の再利用の場の提供

守谷市の不用品交換制度の実施

〔実施状況〕

守谷市では、既に市独自で不用品交換制度を実施しており、リサイクル伝言板を市役所に設けて住民同士で不用品の交換を行っている。

⑧ 常総環境センターふれあいデーの開催

〔実施状況〕

組合では、地元との交流を図りながら地域住民にごみ処理事業の現状を知ってもらうことを目的に「暮らしとごみを考えよう」をテーマに常総環境センターふれあいデーを地元住民代表、構成市住民代表、構成市及び組合で構成する常総環境センターふれあいデー実行委員会が主催となって開催している。

－ 常総環境センターふれあいデー実施状況 －

年月	会場	主な内容	来場者
平成19年11月	常総環境センター 常総運動公園 老人福祉センター「白寿荘」	環境活動展示、PR 刃物とぎ、紙すき、ガラス細工の実演 ペットロケット飛ばし 等	約3,000人
平成20年11月	常総環境センター 搬入路:歩行者専用道路 老人福祉センター「白寿荘」	環境活動展示、PR ごみ処理施設、生ごみ堆肥化施設PR 刃物とぎ、紙すき、ガラス細工の実演 等	約1,900人
平成25年 2月	常総環境センター 生ごみ堆肥化施設 守谷事業所 常総広域地域交流センター「いこいの郷 常総」	ごみ処理施設見学、出前講座 もったいない市 刃物とぎ、ペットボトル工作 等	約1,100人

⑨ 施設の有効利用

啓発棟に、工房機能や情報発信機能等を備え、環境教育を推進していく。

〔実施状況〕

新施設の啓発棟には調理器具を備えた住民の活動室を設けており、エコッキング教室等の開催、石けん作りや包丁とぎなど、住民が楽しみながら環境や資源の大切さを学んでいけるような事業を検討している。

－ 啓発事業 －

区分		内容	場所
学習機能	施設見学	小学生等を対象にごみ処理の流れを説明し、ごみ減量に関心を持たせる。	見学通路 大会議室
工房機能	紙すき体験	回収された牛乳パックなどを用い、紙すきを行う。団体に対し、場所を提供する。	啓発活動室
	石けん作り体験	廃食用油を用い、石けん作りを行う。団体に対し、場所を提供する。	啓発活動室
	飛行リング体験	回収されたペットボトルを用い、飛行リング作りを行う。団体に対し、場所を提供する。	啓発活動室
	エコクッキング教室	各種住民団体等からの要請があった際、場所を提供する。	啓発活動室
	包丁とぎ実演	各種住民団体等からの要請があった際、場所を提供する。	啓発活動室
情報発信機能	研修等	環境に関する住民団体等による会議や講演会等に活用してもらう。	大会議室 啓発活動室
	不用品のリサイクルの情報発信	各市が保管する不用品(家具、自転車、おもちゃなど)を案内する。	展示ホール

⑩ スラグ等再生利用ルートの確保  
施設の排出物であるスラグ等の有効利用

〔実施状況〕

スラグを再利用している団体の事例を調査し、新たに再利用を計画している事業者とも協力して、適切なリサイクル方法を検討している。

### (3) 施策の効果

圏域の人口は、平成 24 年度は 256,813 人で、計画人口は、平成 32 年度が 261,925 人で増加傾向にある。

一方、平成 23 年度のごみ排出量は、平成 24 年度からの有料化導入前のかげ込み排出等で 74,000 t 台に増加したが、これまで当地域の排出量は年間約 70,000 t 台前後で推移しており、減量化施策の検討・実施により、人口の増加があるにもかかわらず、その原単位は 700 g 台で推移している。

また、資源化率については、平成 20 年度以降 20% 台後半で推移していたが、平成 22 年度の資源化処理システムの変更による不燃ごみ中の廃プラ類の固形燃料化事業の廃止に伴い平成 22 年度からは減少している。今後は、平成 24 年 8 月に稼働した施設からのスラグ等のリサイクルを行うことで、資源化率の向上を目指している。

今後も、引き続き、施策の検討を行いながら、減量化・資源化を推進していく。

#### － 人口の実績・計画 －

(単位:人)

区分	実績					計画	備考
	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成32年度	
常総市	40,047	41,019	40,802	40,384	39,897	40,258	コーホート推計値 (水海道地区按分)
取手市	109,555	109,414	109,309	108,184	107,562	103,862	公共施設マネジメント白書
守谷市	59,908	61,664	62,854	62,950	63,313	70,083	人口推計
つくばみらい市	43,029	44,025	44,821	45,487	46,041	47,722	つくばみらい市総合計画
合計	252,539	256,122	257,786	257,005	256,813	261,925	

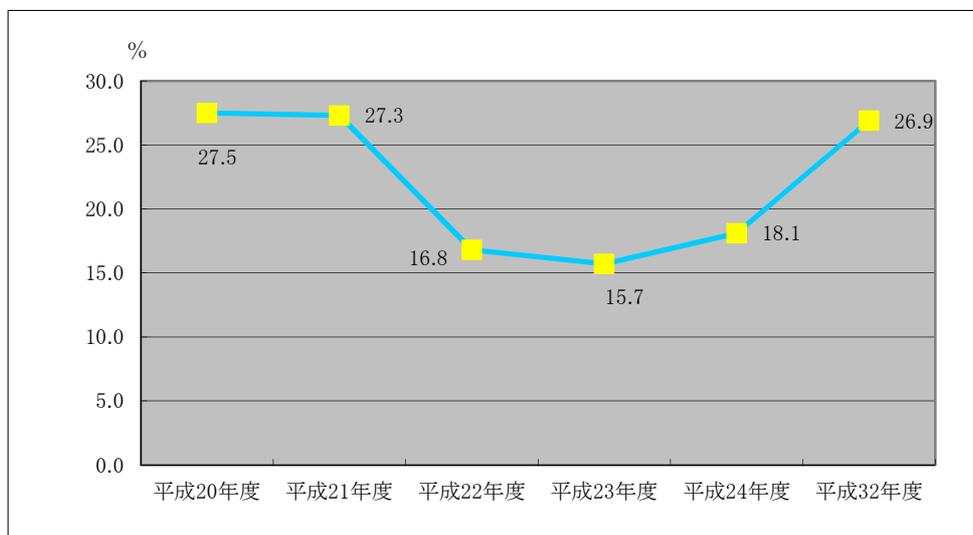
－ 排出量等の実績・予測目標 －

区分		実績					予測目標
		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成32年度
人口(人)		252,539	256,122	257,786	257,005	256,813	261,925
排出量 (t/年)	家庭系ごみ	61,559	61,044	60,747	63,402	57,492	61,889
	事業系ごみ	11,295	10,515	10,613	11,463	11,719	9,423
	計	72,854	71,559	71,360	74,865	69,211	71,312
原単位 (g/人・日)	家庭系ごみ	667.8	653.0	645.6	675.9	613.3	647.4
	事業系ごみ	122.5	112.5	112.8	122.2	125.0	98.6
	計	790.3	765.5	758.4	798.1	738.3	746.0
処理量 (t/年)	焼却量	56,746	56,207	54,518	56,390	62,922	61,977
	廃プラ	11,611	11,479	12,204	11,623	1,181	0
	合計	68,357	67,686	66,722	68,013	64,103	61,977

－ 資源化率の推移 －

(単位: %)

区分	実績					予測目標
	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成32年度
資源化率	27.5	27.3	16.8	15.7	18.1	26.9

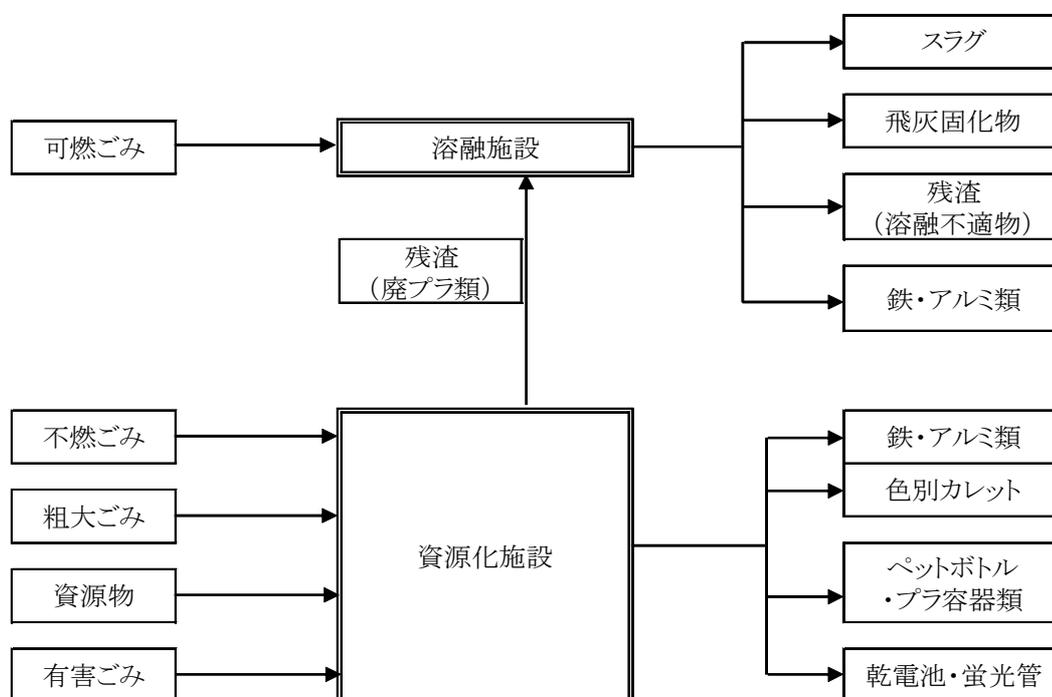


## 5. リサイクルの検討

### (1) リサイクル対象物の種類

資源化施設で破砕、選別した後、発生した廃プラ類の残渣は、これまで圏域外の施設で委託処理していたが、平成 24 年 8 月に稼働した施設では、ごみ焼却（熔融）施設に転送して可燃ごみと共に熔融し、施設からはスラグ、飛灰固化物、熔融不適物、鉄・アルミ類が発生する。ここでは、スラグ、飛灰固化物、熔融不適物の 3 種類をリサイクル対象物として検討する。

－ ごみ処理フローチャート －



－ リサイクル対象物の性状 －

区分	性状
スラグ	ごみを高温で熔融した後、熔融物を冷却し固形化した砂状のもの
飛灰固化物	ごみを高温で熔融したときに発生する燃焼ガス中の細かい灰を薬剤で固めたもの
熔融不適物	ごみを蒸し焼きにした後に発生する資源化が困難な金属類、セトモノ類

(2) リサイクル対象物量及び埋立量

当圏域では、平成12年度以降、排出段階で5種13分別で収集していたが、施設の更新に合わせ、平成24年度からは、それまで不燃ごみとして排出していたプラスチック製容器包装、ペットボトル、蛍光管を新たに住民が分別する5種16分別体制となった。

① 5種13分別

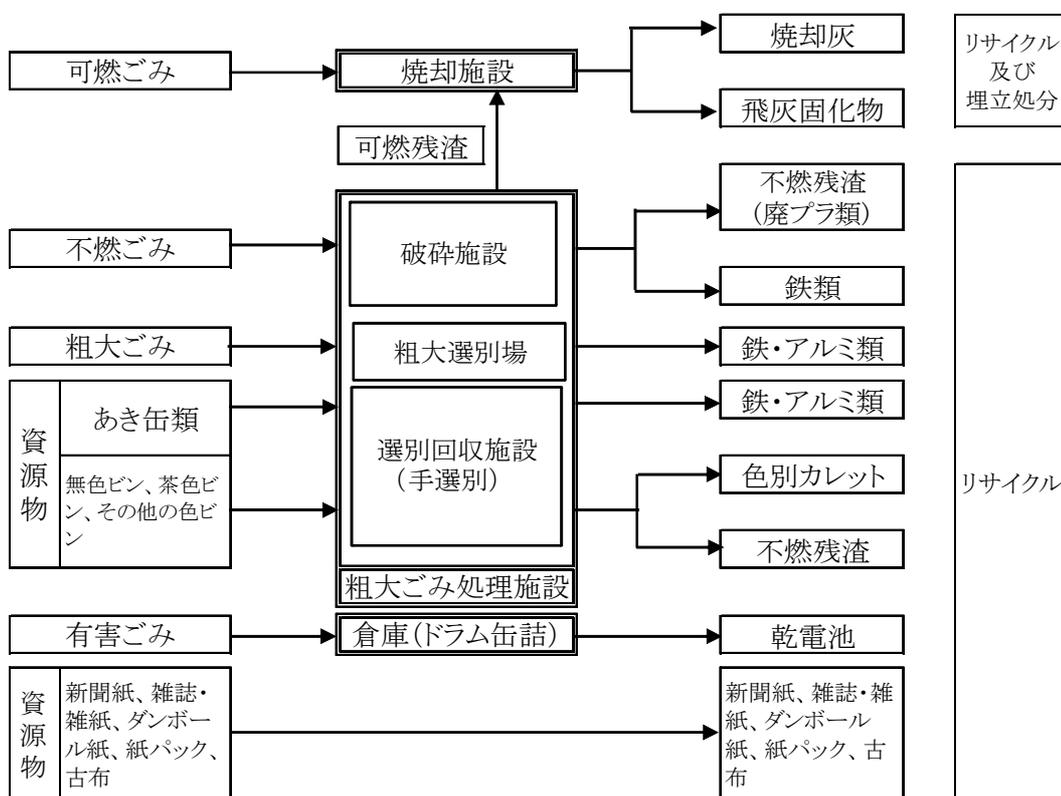
・焼却施設

搬入した可燃ごみや不燃ごみ・粗大ごみから選別した布類、木材等の可燃残渣は焼却炉で燃やされ、焼却灰、飛灰固化物が発生した。排出するこれらの灰は、平成23年度には最終処分場で年間4,345tが埋め立てられ、また灰を原料にしたリサイクル施設で年間1,465tを資源化した。

・粗大ごみ処理施設

不燃ごみ、粗大ごみ、あき缶類やあきビン類は、粗大ごみ処理施設で破碎・選別し、鉄類・アルミ類の金属、色別カレット、不燃残渣(廃プラ類)を排出した。排出したこれら金属やカレット等は、4,334tを資源化し、また廃プラ類を含む不燃残渣11,623tは委託処分した。

－ 5種13分別フローチャート －



－ 平成23年度排出量 －

(単位:t)

区分	リサイクル	埋立	備考
焼却灰	1,465	4,345	
飛灰固化物	—		
不燃残渣	11,623	—	外部処理
金属・カレット等	4,334	—	
小計	17,422	4,345	
合計	21,767		

※金属・カレット等には生ごみ堆肥配布量含む。

② 5種16分別

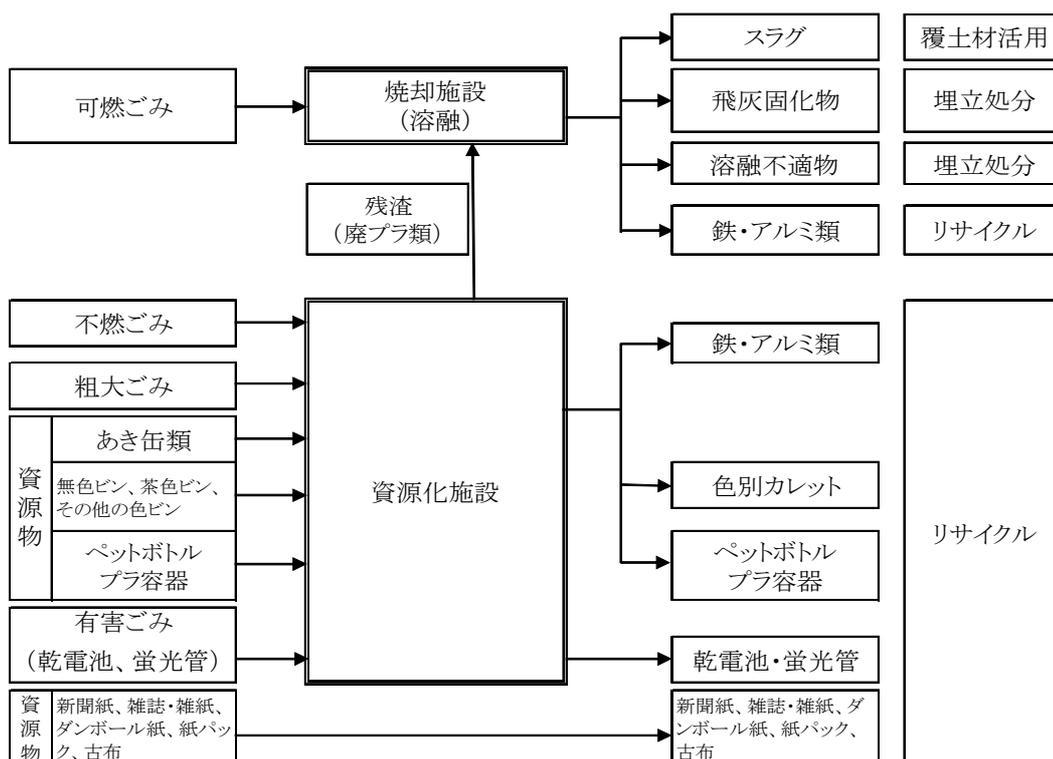
・焼却(溶融)施設

搬入した可燃ごみ、資源化施設から転送している不燃ごみ・粗大ごみ中の布類、木材、プラスチック類及びリサイクルに適さないプラ容器・ペットボトル等は焼却施設で溶融し、スラグ、飛灰固化物及び溶融不適物を排出する。ここでスラグは 3,600 t、飛灰固化物及び溶融不適物は 3,100 t 程度発生した。

・資源化施設

不燃ごみ、粗大ごみ、あき缶類、あきビン類、ペットボトル、プラ容器類は、資源化施設で破碎、選別し、鉄類・アルミ類の金属、色別カレット、ペットボトル、プラ容器類を排出する。金属やカレット等は、焼却施設で発生する金属を含み、5,396 t 排出した。

－ 5種16分別フローチャート －



－ 平成24年度排出量 －

(単位:t)

区分	計画量		排出量		
	リサイクル	埋立	リサイクル	覆土材	埋立
ス ラ グ	6,400	－	－	3,600	－
飛 灰 固 化 物	－	4,130	－	－	2,700
溶 融 不 適 物	－	460	－	－	400
金 属 ・ カ レ ッ ト 等	6,432	－	5,396	－	－
小計	12,832	4,590	5,396	3,600	3,100
合計	17,422		12,096		

※金属・カレット等には生ごみ堆肥配布量含む。

※排出量のうち覆土材・埋立は、平成24年度の実績(11ヶ月)を基に年間量を試算した。

### (3) 同規模施設におけるリサイクル・埋立状況

常総環境センターが排出するスラグ等の取扱いについて、当センターと同規模、同処理量、同方式の他施設のリサイクル及び埋立状況の実態を調査した。

#### 1) 同規模等団体

表1は、年間処理量、処理方式は違うが、常総環境センターの規模 258 t と同等規模の 3 団体を抽出し、また近隣 2 団体を加えた 5 団体中、回答を得られた 4 施設の状況である。

同等規模施設の総排出量の割合は、焼却量に対し 6%～12%であり、スラグはリサイクルし、飛灰と残渣は埋め立てられていた。

スラグは、全量又は需要に応じた量がリサイクルされ、1 トン当たり 1 円～150 円で売却していた。一方、飛灰、不適物については、当該団体所有の最終処分場で、全量埋め立てられていた。

#### 2) 同焼却量団体

表2は、施設規模や処理方式が違うものの、常総環境センターの計画処理量 65,000 t 程度に近い 2 団体を抽出したものである。

総排出量の割合は、焼却量に対し 10～14%であり、スラグはリサイクルし、飛灰と残渣については一部が山元還元でリサイクル、または埋め立てられていた。

スラグは全量を 1 トン当たり 150 円で売却している団体と、覆土材として活用及び埋立てていた団体があった。

飛灰については山元還元によりリサイクルしている団体があったが、全量埋立ての団体もあった。

残渣については、一部山元還元としてリサイクルしていたが、当該団体所有の最終処分場で大部分が埋め立てられていた。

#### 3) キルン式ガス化熔融方式採用団体

表3は、キルン式ガス化熔融方式を採用する 3 団体の状況である。

総排出量の割合は、焼却量に対し 8%～11%であり、スラグはほぼリサイクルしていた。

スラグは不良品を除き、1 トン当たり 10 円～200 円で売却されていた。

飛灰と残渣については一部団体を除き、当該団体の処分場や民間処分場への委託により埋め立てられていた。

表1〔同規模団体〕

区分	可燃ごみ搬入量 (t)	焼却量 (t)	総排出量		資源化						埋立			最終処分場容量 (m³)			
			(t)	(焼却量に対する割合)	スラグ (t)		飛灰 (t)		残渣 (t)		スラグ (t)		飛灰 (t)		不適物 (t)		
J	42,830	45,000	5,398	12.0%	1,800	(150円/t) アスファルト骨材として使用	0		0		0		1,732	(処分場所有)	1,866	(処分場所有)	125,000
K	58,547	60,073	4,156	6.9%	1,959	(100円/t) 路盤材等に使用	0		/		1,585	需要残	612		/		—
L	40,457	41,400	3,720	9.0%	2,919	(100円/t) 路盤材等に使用	0		/		0		801	(処分場所有)	/		25,000
M	50,233	48,736	5,711	11.7%	4,313	(1円/t) 公共工事に使用	0		0		0		1,354	(処分場所有)	44	(処分場所有)	1,300,000

※平成22年度実績

表2〔ガス化溶融方式採用団体(同焼却量)〕

区分	可燃ごみ搬入量 (t)	焼却量 (t)	総排出量		資源化						埋立			最終処分場容量 (m³)			
			(t)	(焼却量に対する割合)	スラグ (t)		飛灰 (t)		残渣 (t)		スラグ (t)		飛灰 (t)		不適物 (t)		
N	54,068	61,243	6,246	10.2%	1,809	覆土材 最終処分場 (305,800m³)	1,879	(山元還元)	51	(山元還元)	422	(処分場所有)	11	(処分場所有)	2,074	(処分場所有)	472,200
O	71,294	75,662	10,868	14.4%	7,570	(150円/t)	0		/		0		3,298		/		—

※平成22年度実績

表3〔キルン式ガス化溶融方式採用団体(同方式)〕

区分	可燃ごみ搬入量 (t)	焼却量 (t)	総排出量		資源化						埋立			最終処分場容量 (m³)			
			(t)	(焼却量に対する割合)	スラグ (t)		飛灰 (t)		残渣 (t)		スラグ (t)		飛灰 (t)		不適物 (t)		
P	28,380	28,525	2,578	9.0%	1,256	(200円/t) 管巻材、埋戻材	0		0		160	不良品 (構成市処分場)	1,063	(構成市処分場)	99	(構成市処分場)	—
Q	36,764	37,060	3,893	10.5%	1,858	(10.5円/t) 路盤材等に使用	0		129	(2.1円/kg) 金属を抽出	0		1,906		0		—
R	32,225	33,454	2,719	8.1%	1,339	(55円/t) 路盤材等に使用	0		0		0		1,175	—	205	—	—

※平成22年度実績

区分	平成24年度	規模	可燃ごみ搬入量 (t)	焼却量 (t)	総排出量		スラグ (t)	飛灰 (t)	残渣(溶融不適物) (t)
					(t)	(焼却量に対する割合)			
常総環境センター	計画量	258t/日	53,000	65,518	10,990	16.8%	6,400	4,130	460
	年間換算量		53,000	65,000	6,700	10.3%	3,600	2,700	400

注) 計画量における搬入量、処理量は平成24年度ごみ処理計画書から、各排出量は、施設設計値より設定

注) 年間換算量は、平成24年度の実績(11ヶ月)の平均値から12ヶ月値を算出。

#### (4) 対象物のリサイクル

##### 1) リサイクルの検討

従来、焼却施設で焼却した後に排出する灰等は主に最終処分場で埋立てられていたが、現在は高温処理で、ごみや灰を溶融する方法により、リサイクルするようになってきている。

##### ① リサイクル技術

新施設では、可燃ごみや資源化施設から転送する廃プラ類の残渣は溶融処理した後、スラグ、飛灰固化物及び溶融不適物を排出するが、リサイクル（資源化）する場合、次のような用途がある。

なお、飛灰は原灰のままの状態が求められる。

##### － リサイクル用途 －

区 分	用 途	具体例
スラグ	土木資材 道路用資材 二次製品	埋め戻し材 アスファルト混合材 コンクリートブロック
飛灰原灰	山元還元	亜鉛、鉛等金属の回収
溶融不適物	二次製品	ケーソン

##### ② リサイクル先の状況調査

新施設から発生するスラグ、飛灰原灰、溶融不適物を扱う事業者へのヒアリングでは次のとおりであった。

##### [スラグ]

県内の取扱業者は、溶融処理施設と最終処分場を併設しており、溶融処理したスラグは自己所有の最終処分場の土木資材（覆土材）として活用している。現在、直接埋立物を含め年間 90,000 m<sup>3</sup>程度埋め立てしており、平成 23 年度末時点の残余容量は 1,788,296 m<sup>3</sup>で、約 20 年の残余年数があった。

〔飛灰原灰〕

福島県内の取扱業者は、銅精鉱や飛灰などから銅等を抽出し、主に電気銅を年間 26 万 t 程度生産しており、その処理能力は月間最大 1,500 t、通常 500 t である。

これまで 4 カ所の地方公共団体から飛灰を受け入れ、年間 6,000 t 処理してきた。設備能力としては、運転時間の延長で年間 12,000 t の受け入れが可能であった。

〔溶融不適物〕

県内の取扱業者は、焼却灰や不燃残渣等を溶融してスラグ、メタルを生産しており、その処理能力は年間 60,000 t である。

生産したスラグは土木資材等に再利用され、メタルは売却している。

現在、4 団体からの不燃残渣を受け入れ、年間 500 t 処理しているが、すでに余力がなく受け入れ困難な状況であった。

③ リサイクル単価の調査

対象物毎のリサイクル単価は、事業者や先進団体へのヒアリングによると、スラグは、1 トン当たり 19,740 円、飛灰原灰は、1 トン当たり 79,900 円、溶融不適物は 1 トン当たり 53,500 円であった。

－ リサイクル単価 －

(単位：円/t)

区 分	内 容	リサイクル単価等	備考
スラグ ※覆土材活用	単価	16,065	単価、運搬費 は、組合の H 24 年度契約額
	運搬費 (80 k m)	3,675	
	計	19,740	
飛灰原灰	単価	60,000	単価、運搬費 は、近隣先進 団体の実績
	運搬費 (160 k m)	19,900	
	計	79,900	
溶融不適物	単価	50,000	単価、運搬費 は、事業者ヒ アリング
	運搬費 (80 k m)	3,500	
	計	53,500	

④ リサイクル量

スラグ等種別毎の排出物について事業者へのヒアリングによると、スラグは「覆土材」としての活用、飛灰は山元還元によるリサイクルが可能であるものの、溶融不適物は余力がなく実現性が乏しい状況であった。

ここでは、リサイクル対象物やリサイクル量及び埋立対象物や埋立量をはじめ、リサイクル先、埋立処分先も未定だが、年間排出量をスラグ 3,600 t、飛灰固化物 2,700 t、溶融不適物 400 t の約 7,000 t を基に、他団体の実例などの背景を踏まえながらリサイクル量をケース別に設定し、試算する。

なお、飛灰をリサイクルする場合は、添加材を加えない状態が求められるため、飛灰は、原灰とする。

試算では、スラグ、飛灰を全量リサイクルする場合のケース 1 では、年間約 6,000 t、スラグ、飛灰を発生量の 50% リサイクルする場合のケース 2 では年間 3,000 t、スラグ、飛灰を発生量の 30% リサイクルする場合のケース 3 では年間約 2,000 t とする。

－ ケース別リサイクル量の設定 －

(単位：t/年)

区分		年間排出量	ケース 1	ケース 2	ケース 3
スラグ		3,600	3,600	1,800	1,200
飛灰	原灰	—	2,300	1,200	700
	固化物 (参考)	2,700	2,700	1,350	810
溶融不適物		400	0	0	0
合計		6,700 ≒7,000	5,900 ≒6,000	3,000	1,900 ≒2,000

※原灰は、飛灰固化物の約 83% で按分した。

⑤ リサイクルに係る費用

ケース別リサイクル量から係る費用を試算する。なお、飛灰は、法令上、「特別管理一般廃棄物」に該当し、飛散防止対策を施した運搬方法とすることが必須であるため、密閉型車両による運搬を想定して、そのコストを試算する。

試算では、1年間当たりのリサイクルコストは、スラグ、飛灰を全量リサイクルする場合のケース1では、約2億5千5百万円、スラグ、飛灰を発生量の50%リサイクルする場合のケース2では約1億3千百万円、スラグ、飛灰を発生量の30%リサイクルする場合のケース3では約8千万円となった。

また、20年間の総計では、スラグ、飛灰を全量リサイクルする場合のケース1では、約51億円、スラグ、飛灰を発生量の50%リサイクルする場合のケース2では約26億円、スラグ、飛灰を発生量の30%リサイクルする場合のケース3では約16億円となった。

－ ケース別リサイクルコストの試算 －

(単位：百万円/年)

区分	ケース1	ケース2	ケース3
スラグ	71	35	24
飛灰原灰	184	96	56
溶融不適物	0	0	0
合計	255	131	80
20年の総計	5,100	2,600	1,600

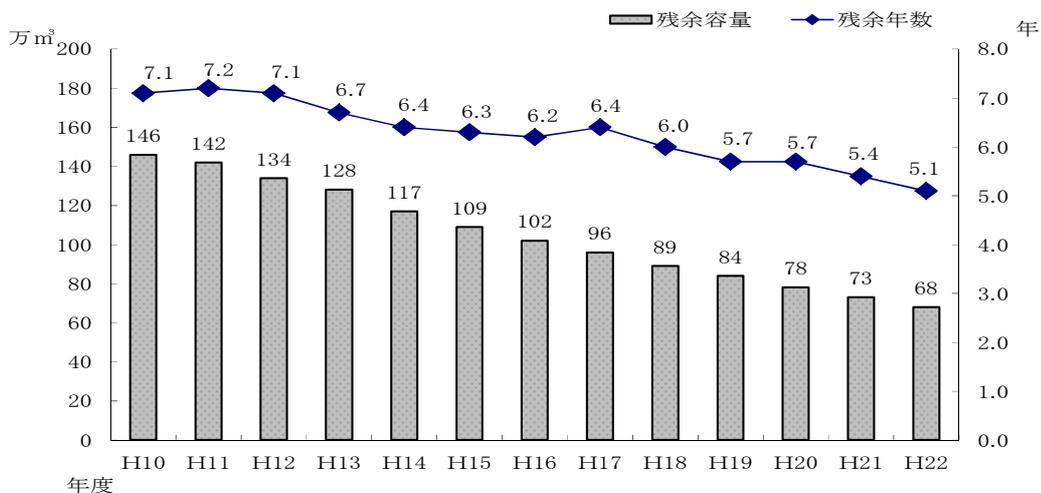
※単価は、スラグは覆土材活用を想定し 19,740 円/t、飛灰原灰は他団体の実績額により 79,900 円/t で試算。

## 6. 最終処分場の整備状況

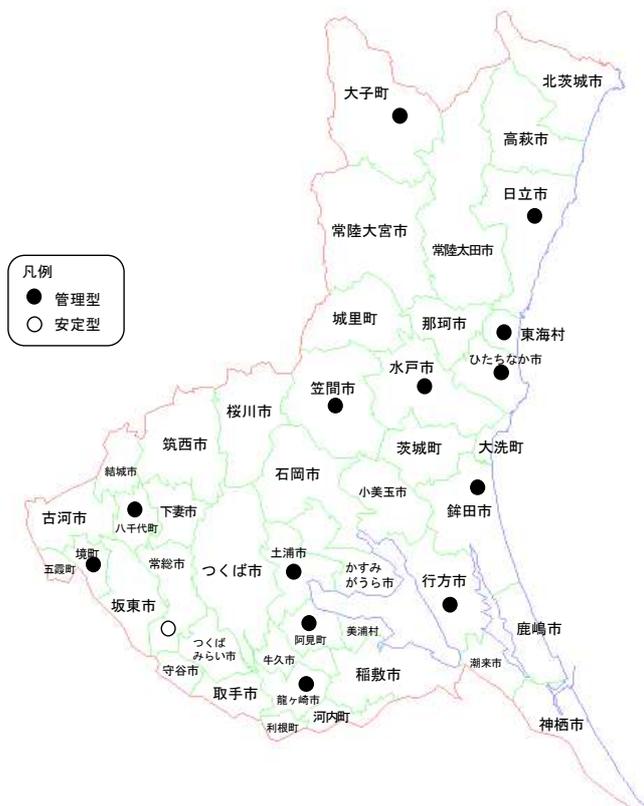
### ① 県内最終処分場の整備状況

平成 22 年度末現在の茨城県内の公共団体が備える最終処分場は、14 施設となっている状況である。その残余容量の合計は 684 千 $\text{m}^3$ で年々減少傾向にあり、新たな最終処分場が整備されない場合、残余年数は、5.1 年となる。

－ 茨城県の市町村最終処分場の残余容量と残余年数の推移 －



－ 県内の最終処分場の分布図 －



※平成 22 年度版 茨城県の一般廃棄物処理事業年報より引用

② 最終処分場の状況

最終処分場を備える5団体の状況を調査した。

年間埋立量は約 2,600 t～8,000 t の範囲で、最終処分場の全体面積の平均は約 49,000 m<sup>2</sup>、埋立地面積の平均は約 20,000 m<sup>2</sup>、埋立深さは約 10m であった。また、イニシャルコストは約 12～47 億円で、ランニングコストは 1 年間当たり平均約 1 億 2 千万円であった。

－ 最終処分場の状況 －

区分	処理対象	年間埋立量	面積		埋立有効深さ	容量(覆土除く)	イニシャルコスト	ランニングコスト(運搬費を除く) ※H23年度
			全体	埋立地		埋立地		
		t/年	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m	m <sup>3</sup>	千円	千円/年
S	・焼却残渣(主灰) ・焼却残渣(飛灰固化物) ・処理残渣(不燃残渣)	2,630	47,800	17,400	9	66,200	1,283,000	25,100
T	・焼却残渣(主灰、飛灰) ・不燃残渣	4,681	86,676	18,600	10	113,000	3,719,291	329,972
U	・焼却残渣 ・不燃残渣	7,939	46,803	30,200	10	101,862	4,700,000	45,654
V	・焼却残渣(主灰、スラグ) ・焼却残渣(飛灰固化物) ・覆土材(真砂土)	5,003	18,030	14,150	14	125,000	1,717,350	64,018
W	・スラグ ・ダスト固化物(溶融飛灰固化物) ・処理残渣(不燃物破碎残渣)	3,709	47,895	19,800	約10	118,400	—	—

③ 最終処分場の必要規模

ケース別リサイクル量から最終処分量を算出し、各団体の実例をもとに算出した埋立重量、埋立容量から必要となる最終処分場の規模を試算する。

なお、ここでは、全量埋立処分となる場合も合わせて試算する。試算の結果は、37 ページのとおりである。

【ケース別埋立処分の割合】

ケース 1 : スラグ、飛灰固化物は発生量の 0%、溶融不適物のみ全量

ケース 2 : スラグ、飛灰固化物は発生量の 50%、溶融不適物は全量

ケース 3 : スラグ、飛灰固化物は発生量の 70%、溶融不適物は全量

ケース 4 : スラグ、飛灰固化物、溶融不適物とも全量

【算出条件】

- ・埋立年数は、最大 20 年間とする。
- ・比重は、スラグ 1.4、飛灰固化物 1.0、残渣〈溶融不適物〉0.3 とする。
- ・埋立地の有効深さは、10m とする。
- ・最終処分場全体の内、埋立地本体の面積の割合は、0.7 とする。
- ・調整池は、埋立各対象物の限界保水量から最大浸出水発生量の 60 日分とする。

試算では、溶融不適物のみ全量を埋め立てる場合は、8,000 m<sup>2</sup>、スラグ・飛灰固化物の発生量の 50% 及び溶融不適物全量を埋め立てる場合は、21,000 m<sup>2</sup>、スラグ・飛灰固化物の発生量の 70% 及び溶融不適物全量を埋め立てる場合は 26,000 m<sup>2</sup>、スラグ・飛灰固化物・溶融不適物の全量を埋め立てる場合は、34,000 m<sup>2</sup>の全体面積となった。

－ ケース別必要面積 －

区 分	ケース別			
	ケース 1	ケース 2	ケース 3	ケース 4
埋立重量 (t/年)	400	3,550	4,690	6,700
埋立容量 (m <sup>3</sup> /年)	1,400	4,000	5,000	6,700
全体面積 (m <sup>2</sup> )	8,000	21,000	26,000	34,000

④ 最終処分場のケース別整備管理コストの比較

ケース別埋立量や全体面積から、イニシャルコスト及び20年間のランニングコストの整備管理コストを試算する。試算の結果は、37ページのとおりである。

【算出条件】

- ・イニシャルコストは、最終処分場を備える4団体の全体面積割から平均1㎡当たり66,350円とした。
- ・ランニングコストは、最終処分場を備える4団体の年間実績額から平均1年間で1㎡当たり1,065円とした。
- ・用地費、周辺対策費及び計画費は除く。

試算では、最終処分場を整備し20年間管理する場合、処分場全体面積が8,000㎡で11億1千万円、21,000㎡で31億円、26,000㎡で38億4千万円、34,000㎡で50億8千万円の整備管理コストとなった。

－ ケース別整備管理コスト －

区 分	ケース別			
	ケース1	ケース2	ケース3	ケース4
全体面積 (㎡)	8,000	21,000	26,000	34,000
イニシャルコスト (百万円)	540	1,400	1,730	2,260
ランニングコスト (百万円)	570	1,700	2,110	2,820
合計 (百万円)	1,110	3,100	3,840	5,080

最終処分場ケース別比較一覧表

試算基礎：スラグ3,600 t/年、飛灰固化物2,700 t/年、残渣（溶融不適物）400 t/年、合計排出量6,700 t/年

区分		重量（単年）					比重			容量（単年）					
内容 (対象物別等)		スラグ	飛灰固化物	残渣 (溶融不適物)	合計	期間	20年間の重量	スラグ	飛灰固化物	残渣 (溶融不適物)	スラグ	飛灰固化物	残渣 (溶融不適物)	合計	
単位		t	t	t	t	年	t	—	—	—	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	
基本設定値		3,600	2,700	400	6,700	20	—	1.4	1.0	0.3	—	—	—	—	
記号		イ	ロ	ハ	①=イ ~ハの計	—	②=① ×20年	イ'	ロ'	ハ'	ホ=イ/イ'	ヘ=ロ/ロ'	ト=ハ/ハ'	③=ホ ~トの計	③'
ケース別 ※（ ）内は、埋立 するスラグ、飛灰固 化物、溶融不適物の 各割合	ケース1 (0、0、100%)	0	0	400	400	20	8,000	1.4	1.0	0.3	0	0	1,333	1,333	1,400
	ケース2 (50、50、100%)	1,800	1,350	400	3,550	20	71,000	1.4	1.0	0.3	1,286	1,350	1,333	3,969	4,000
	ケース3 (70、70、100%)	2,400	1,890	400	4,690	20	93,800	1.4	1.0	0.3	1,714	1,890	1,333	4,937	5,000
	ケース4 (100、100、100%)	3,600	2,700	400	6,700	20	134,000	1.4	1.0	0.3	2,571	2,700	1,333	6,604	6,700
備考		平成24年度実績 (年間換算)				性能指針 より準用		ヒアリング			重量/比重			端数整理	

区分		容量（20年間）						深さ	面積						
内容 (対象物別等)		スラグ	飛灰固化物	残渣 (溶融不適物)	期間中 容量	中間覆土	最終覆土	合計	有効深さ	埋立地	利用率*1	処分場	調整池*2	合計	
単位		m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m	m <sup>2</sup>	—	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>					
基本設定値		—	—	—	—	—	—	—	10.0	—	平地：0.7	—	—	—	
記号		④=ホ ×20年	⑤=へ ×20年	⑥=ト ×20年	⑦=④~⑥ の計	⑧	⑨=⑦ ×20%	⑩=⑦ ~⑨の計	—	⑪=⑩ /10m	—	⑫=⑪ /0.7	⑬	⑭=⑫+⑬	⑭'
ケース別 ※（ ）内は、埋立 するスラグ、飛灰固 化物、溶融不適物の 各割合	ケース1 (0、0、100%)	0	0	26,660	26,660	2,666	5,332	34,658	10.0	3,466	0.7	4,951	2,256	7,207	8,000
	ケース2 (50、50、100%)	25,720	27,000	26,660	79,380	0	15,876	95,256	10.0	9,526	0.7	13,609	6,716	20,325	21,000
	ケース3 (70、70、100%)	34,280	37,800	26,660	98,740	0	19,748	118,488	10.0	11,849	0.7	16,927	8,356	25,283	26,000
	ケース4 (100、100、100%)	51,420	54,000	26,660	132,080	0	26,416	158,496	10.0	15,850	0.7	22,643	11,177	33,820	34,000
備考						ケース1は⑦の 10%とし、他 ケースはスラグ で代用			近郊4団体の 平均深さ						端数整理

区分		イニシャルコスト				ランニングコスト				整備管理コスト		
内容 (対象物別等)		処分場 面積	単価	整備費		期間中 の容量	単価	年間コスト	期間	20年間の維持管理費		イニシャルコスト + ランニングコスト
単位		m <sup>2</sup>	千円/m <sup>2</sup>	千円	百万円	m <sup>3</sup>	千円/年/m <sup>3</sup>	千円	年	千円	百万円	百万円
基本設定値		—	66.35	—	—	—	1.065	—	20	—	—	—
記号		⑭'	—	I = ⑭' × 66.35	I'	⑦	—	⑮=⑦× 1.065	—	Ⅱ = ⑮ ×20年	Ⅱ'	Ⅲ = I' + Ⅱ'
ケース別 ※（ ）内は、埋立 するスラグ、飛灰固 化物、溶融不適物の 各割合	ケース1 (0、0、100%)	8,000	66.35	530,800	540	26,660	1.065	28,393	20	567,860	570	1,110
	ケース2 (50、50、100%)	21,000	66.35	1,393,350	1,400	79,380	1.065	84,540	20	1,690,800	1,700	3,100
	ケース3 (70、70、100%)	26,000	66.35	1,725,100	1,730	98,740	1.065	105,158	20	2,103,160	2,110	3,840
	ケース4 (100、100、100%)	34,000	66.35	2,255,900	2,260	132,080	1.065	140,665	20	2,813,300	2,820	5,080
備考			近郊4団体の 単位面積当た りの平均額		端数整理		近郊4団体の 廃棄物容量割 平均単価	主に浸出水処 理設備運転費 用			端数整理	

※1 利用率とは、処分場面積における埋立地の占有割合をいい、圏域の地域特性を踏まえ、平地：0.7とした。

※2 調整池容量は、対象物の限界保水容量に応じて算出した最大浸出水発生量の60日分で想定した。

## 7. 総コストの比較

排出物について20年間処理するために要する費用について、ケース別総コストを試算し比較する。また、ここでは自ら最終処分場を設置せずに全量委託する場合も含め、合わせて比較する。

20年間の総コストは、ケース1では、62億1千万円、ケース2では、57億円、ケース3では、54億4千万円、ケース4では、50億8千万円となった。なお、従前のおり、全種全量委託処分の場合、33億7千万円となり、経済的には、全種全量委託の場合が最も安価で圏外の最終処分場に委託して最終処分を行った方が有利であるが、ごみ処理の安定性、将来性を考慮した場合は、自区内処理も含めて検討する必要がある。

### － ケース別総コストの比較 －

(単位：百万円)

区 分	ケース別				全種全量 委託の場合
	ケース 1	ケース 2	ケース 3	ケース 4	
リサイクルコ スト	5,100	2,600	1,600	—	スラグが、3,600 t ／年、19,740 円／ t、飛灰固化物及 び熔融不適物が、 3,100t / 年、 31,500 円 / t で 試算
	スラグ・飛 灰固化物全 量	スラグ・飛灰 固化物の発 生量の 50%	スラグ・飛灰 固化物の発 生量の 30%	—	
整備管理コス ト	1,110	3,100	3,840	5,080	
	熔融不適物 全量	スラグ・飛灰 固化物の発 生量の 50% 熔融不適物 全量	スラグ・飛灰 固化物の発 生量の 70% 熔融不適物 全量	スラグ・飛 灰固化物・ 熔融不適物 全量	
処分委託コス ト	—	—	—	—	3,374
合 計	6,210	5,700	5,440	5,080	3,374 ≒3,370

## 8. 放射能の影響

平成 23 年 3 月、東北地方太平洋沖を震源地とするマグニチュード 9.0 の地震が発生し、地震に伴って発生した津波によって東京電力福島第一原子力発電所から放射性物質が漏出する事故が起き、当地域も放射性物質に汚染された。

放射性物質の漏出事故により、ごみとして搬入した落葉や草の根に付着していると考えられる放射性物質の影響を受け、ごみの焼却処理で発生するスラグ等からも放射性物質が検出された。

国では、廃棄物を建築資材等に再生し利用するものについては、日常生活の中で使われても安全な原子炉等規制法に基づくクリアランス基準として、

100 ベクレル / k g 以下

と定めている。

また、原子力発電所の事故に伴って環境に放出された放射性セシウムに汚染された廃棄物を埋立処分する場合には、放射性物質汚染対策法特措法に基づく指定基準として、

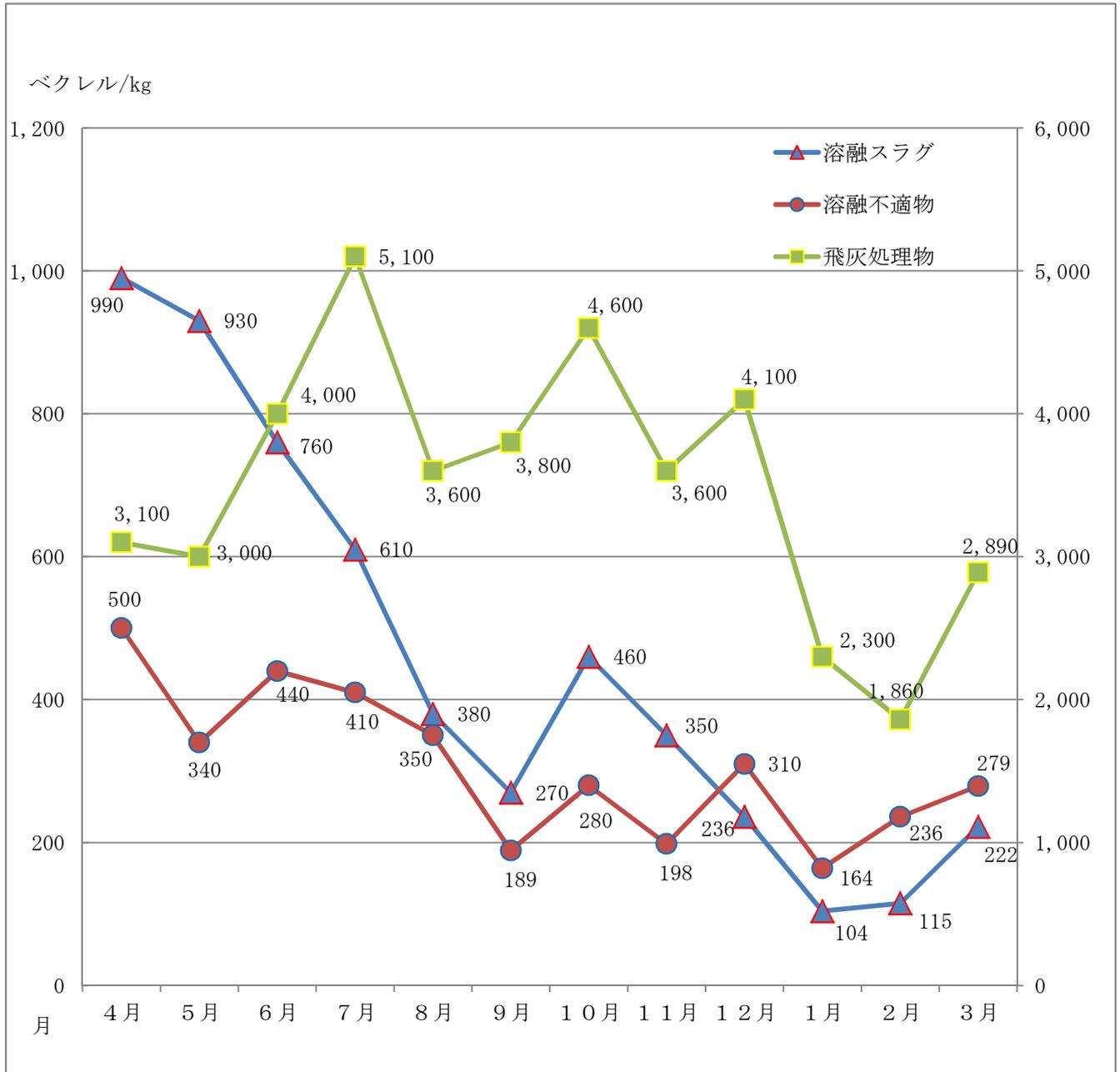
8,000 ベクレル / k g 以下

と定めている。

平成 24 年度の放射能濃度測定結果は次ページのとおりである。

スラグは 1 kg 当たり 990 から 222 ベクレルに、飛灰固化物は 1 kg 当たり 3,100 から 2,890 ベクレルに、熔融不適物は 1 kg 当たり 500 から 279 ベクレルといずれも減少傾向にあるが、再生利用する場合の安全基準値 1 kg 当たり 100 ベクレル以下に達していない。一方、埋立処分とする場合は、基準値 1 kg 当たり 8,000 ベクレルを下回っており、処分が可能である。

－ 放射能濃度測定結果(平成24年度) －



(単位:ベクレル/kg)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
溶融スラグ	990	930	760	610	380	270	460	350	236	104	115	222
溶融不適物	500	340	440	410	350	189	280	198	310	164	236	279
飛灰処理物	3,100	3,000	4,000	5,100	3,600	3,800	4,600	3,600	4,100	2,300	1,860	2,890

## 9. 圏域住民の意向

当検討会では、圏内住民から、自分たちの地域内で最終処分まで行う「自区内処理」について率直な意見を伺い、圏内の最終処分場のあり方を検討するうえで、アンケートを実施した。なお、アンケート調査結果の詳細は、別冊による。

- ①〔調査方法〕 郵送によるアンケート調査
- ②〔調査時期〕 平成 24 年 12 月 28 日～平成 25 年 1 月 21 日
- ③〔対 象〕 常総広域圏構成市住民 2,000 名
- 【内訳】
- ・常総市（旧水海道地区） 500 名
  - ・取手市 500 名
  - ・守谷市 500 名
  - ・つくばみらい市 500 名
- ④〔抽出方法〕 無作為抽出（20 歳～）
- ⑤〔回答数及び回答率〕 全体 790 名（39.6%）
- 【内訳】
- ・常総市（旧水海道地区） 187 名（37.5%）
  - ・取手市 205 名（41.2%）
  - ・守谷市 193 名（38.6%）
  - ・つくばみらい市 203 名（40.8%）

### ⑥〔調査結果〕

アンケートの結果は、2,000 名中、790 名の回答があった。

回答者の属性としては、男女別では約半数ずつで、年代別では、60 歳以上の方々からの回答がほぼ半数を占め、年代が下がるにつれ構成比が低下したが、構成市別では 500 名中、187～205 名、37.5～41.2%の回答が得られた。

回答の傾向としては、まず、常総環境センターの所在地や焼却後の残渣を知っている人は、70%以上であったが、残渣の処分方法を知っている人

は9%にとどまった。

また、スラグ、飛灰固化物及び溶融不適物のリサイクル又は埋立処分についての処理方法としては、全量または一部を合わせると90%がリサイクルするを選択し、一方で、「自分たちの最終処分場は必要」を選択した人が60%を超えた。最終処分場を必要と思う人はその理由として、80.2%が、「自分たちの地域内での処分が必要」を、32.1%が「受入れを拒まれる可能性がある」を選択した。

「最終処分場を必要と思わない」理由としては、48.1%が「費用を払って常総広域圏外に埋め立てた方がよい」を、33.8%が「リサイクルするのでも埋め立てるものがない」を選択した。

最終処分場などの施設が家の近くに建設される場合の受入れについては、「わからない」が最も多かったものの、26.5%が建設を受入れることができると回答した。一方、受入れることができない理由は、84.9%が排ガスや水質被害の公害面を理由に挙げた。

次に、常総環境センターや残渣の理解度をはじめ、スラグ、飛灰固化物や溶融不適物のリサイクル、あるいは埋立処分とする選択肢等について多面的な意向を分析するため、総合的な分析を試みた。

常総環境センター及び残渣の認知度は、全体の8.7%にとどまり、ここで、スラグ、飛灰固化物や溶融不適物の残渣が残ることを理解された方を抽出したところ、「全量または一部をリサイクルする」は65.9%に上った。また、「費用に応じて可能な部分をリサイクルする」を選択した方で、「最終処分場は必要」は41.3%で、「リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする」を選択した中にも15.2%が「最終処分場は必要」を選択した。

さらに、「全量または一部をリサイクルする」も含め、全ての方に、家の近くにごみ処理施設が建設される場合の回答をみると、「わからない」が43.8%、「受け入れることができない」が28.5%であったが、26.5%が「受け入れることができる」と答えた。

最後に、自由意見では、最終処分の自区内処理に係る意見をはじめ、建設場所に係るもの、最終処分場の公害に係るもの、残渣のリサイクルに係るもの等、幅広い意見が示された。

アンケートでは、残渣はコスト面を踏まえリサイクルを優先させながらも、自分たちのごみは自分たちの地域で行なえるように最終処分場は必要と思う一方で、家の近くにあってほしくないことを望んでいることが伺えた。

## 10. 広域圏における最終処分場のあり方

### (1) リサイクルの可能性及び最終処分量の削減

常総環境センターは、旧施設では、焼却後に焼却灰、飛灰固化物、不燃ごみからの廃プラ残渣を排出し、それぞれ圏域外の民間の最終処分場や処理施設に委託して埋立処分またはリサイクルを行ってきた。平成24年8月、新センターが稼働して処理システムが変わり、排出物は、焼却後に発生するスラグ、飛灰固化物、熔融不適物となり、一部は覆土材として活用しているものの、最終的には圏域外の民間処分場に委託し埋立てしている状況である。

今回、排出物のリサイクルの可能性を探るため、全国から当センターと同様な日量258t規模の4団体、焼却量が年間65,000t程度の2団体、キルン式ガス化熔融方式を採用する3団体の計9団体を抽出し、その実態を調査した。調査の結果、スラグは、道路路盤材としてリサイクル、あるいは覆土材として活用していたが、一部の団体では発生量に対し需要がないことで半分程度を埋立てていた。一方、飛灰固化物や熔融不適物の残渣は、それぞれ1団体を除き、埋立てしているのが実態であった。

近年では、今まで埋立てられていたものが、部分的に資源化されるようになってきている。しかし、排出者にとっては、リサイクル事業者側の受入可能枠だけでなく、多くの製品流通先があり、景気などの社会情勢に左右されずに廃棄物処理が安定的に行えることを望むものである。将来的には、スラグは土木資材として地域における道路整備や国土強靱化事業などの公共事業での活用も考えられることから、大口需要を見越した品質確保と保管計画をたてておくことも肝要である。

また、リサイクルの方向性を含め自区内処理について地域の意向を調べるため、圏域内2,000人を対象に「地域内の最終処分場のあり方に関するアンケート」を実施した。自由記述を見ると、分別の細分化に係るものが多くあり、住民の減量化や資源化の推進意識が高いように見受けられた。また、スラグ等の扱いについては、「残渣がリサイクルできるのであれば、現在行っている埋立処分費以上の費用をかけてもリサイクルの方がよいと思いますか、それとも埋立処分が適切であると思いますか」の質問に対し、「リサイクル費用に応じて可能な部分をリサイクルする」と回答した方が71.4%とコスト面を考慮しながらリサイクルを

優先させることを望む傾向にあった。

しかし、平成 23 年 3 月の東日本大震災で起きた東京電力福島第一原子力発電所事故は、関東近郊にも広く影響を及ぼし、当圏域のごみ処理で発生するスラグ等からも 1 kg 当たり 100 ベクレルを超える放射能が検出され、予定したスラグのリサイクルは困難な状況である。また、将来的に放射能濃度が基準値を下回っても、ごみ処理に伴う残渣は発生し続ける中、スラグのリサイクルはその時々々の社会情勢や経済情勢にも大きく左右されることになる。

これらから当検討会としては、当初予定していた排出物のリサイクルは困難であり、さらに全量資源化の可能性はかなり低いと判断せざるを得なく、事実上、排出物を最終処分するための施設は必要不可欠と思われる。圏域ではこれまで行ってきた減量化・資源化の推進と共に最終処分量の削減を図りつつ、ごみ処理で発生するスラグ、飛灰固化物等のリサイクルについては、今後も引き続き放射能濃度の推移を見ながら、リサイクル可能なルートや市場の流通状況及びリサイクルに要するコストを追跡調査して総合的に勘案し、財政計画と連動を図りながらリサイクルを進めるのが望ましいと考える。

## (2) 圏域における最終処分場の必要性

ごみの減量化・資源化を推進するため、構成4市では、資源回収や生ごみ処理容器購入費の助成等を実施し、ごみの減量を図りながら、あき缶、あきビン、ペットボトルやプラスチック製容器包装の資源物、乾電池や蛍光灯などの有害ごみなどに分別し、ごみの減量に努めている。

常総環境センターでは、住民がごみを種別に分けたものをリサイクルルートに適合するように異物や不適合品を選別し回収するなど、住民と共に資源化を進め最終処分量の減量にも努めている。

これまでの施設からは焼却灰、飛灰固化物や廃プラの残渣を排出し、圏域外の複数民間施設にそれぞれ分散して最終処分まで委託してきた。平成24年8月、建設を進めてきた常総環境センターが稼働し、処理システムが新たになり、スラグ、飛灰固化物、熔融不適物の残渣を排出するようになった現在でも、圏域外の複数民間施設に頼った委託処分を行っている。複数施設に分散することでごみ処理の停滞リスクを低減させているが、委託先の受入れ状況によっては最終処分を行うことが制限されるリスクを抱えていることに変わりはなく、将来にわたって安定的なごみ処理には至っていない状況である。

全国的には、中間処理施設から最終処分場までの施設を自らが所有し、安定したごみ処理を行っている団体がある一方で、地域特性等から最終処分場のみならず中間処理施設も未設置で、一連のごみ処理を他団体に委託している団体もあり、団体間でごみの受入れ制限が生じた場合、即時ごみ処理停滞のリスクを抱えることになる。

全国から当センターと同様な排出物を排出する団体の最終処分の状況等も合わせて調査したところ、中間処理後に発生するスラグ等は、リサイクルルートを活用しつつ、飛灰固化物等の残渣は一部団体を除き、ほぼ埋立てしているのが実態であった。

また、近隣のリサイクル事業者へのヒアリングでは、スラグについては覆土材としての活用は可能であったものの、飛灰については埋立処分単価が3万2千円程度のところ、リサイクル単価は8万円程度を要し、熔融不適物については、すでに受入能力に達している状況であった。

中間処理後に発生するこれら灰等の残渣は、山元還元等によりリサイクルされているものもあるが、最終処分量をゼロにすることは不可能である。

さらに、今回、圏域内住民を対象に実施した「地域内の最終処分場の

あり方に関するアンケート」で、最終処分場を含めた自区内処理について意向を調べたが、「残渣のリサイクル」と「最終処分場の必要性」について総合的に分析したところ、コスト面を考慮しながらリサイクルを優先させつつも自分たちの最終処分場は必要であると答えている。

また、前節でも述べたように東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う放射能放出を発端に、計画で進めようとしたスラグの資源化は事実上困難であり、覆土材としての活用にとどまっている状況である。現在、ごみ処理で発生するスラグ等は圏域外の複数民間処分場に委託して最終処分を行っているが、委託先である民間処分場周辺の地域住民からも「自分たちのごみは自分たちの地域で処理してほしい」と発せられている。自ら最終処分場を所有することは、委託先処分場の地域住民の期待にも応えるとともに、圏域内において社会・経済情勢などの外因に左右されない安定的なごみ処理が行えるという大きな利点がある。

ごみ処理行政は、排出物を自己施設または外部委託によりリサイクルや最終処分するなど多様な選択肢があるが、最終処分まで一連の処理責任がある。県内では、平成24年5月に竜巻による被害を受け、最終処分場を所有していないため、大量の廃棄物処理に時間を要し、復旧に影響があったことから、自然災害への備えも考えるべきである。

これらのことから、当圏域では、より安定的に、かつ長期的に自分たちの地域内でごみ処理を行なえる自立したシステムを目指し、必要な規模の最終処分場を設置することが最適と考えられる。

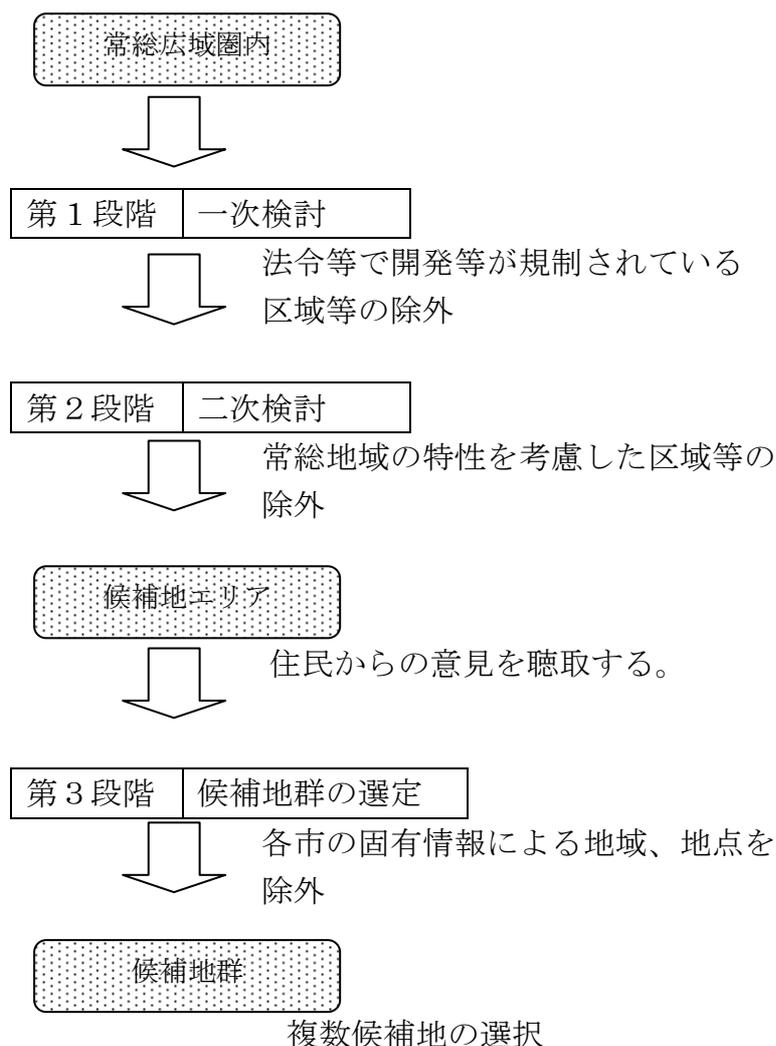
## 11. 最終処分場候補地の選定に向けて

最終処分場の設置計画にあたっては、複数候補地の様々な特性を考慮し、住民の意見を踏まえながら段階的に候補地を選定することが肝要である。

第1段階は、一次検討として、圏域内で防災面をはじめ、自然保護面等で関係法令により開発が規制されている区域等を除外し、第2段階の二次検討では、圏域特有の特性を考慮した区域等を除外し候補地エリアを設定して、住民からの意見を聴取する。

第3段階では、住民意見を踏まえ、さらに構成各市の固有情報から適切ではない地域、地点を除外した候補地群とし、それぞれの候補地群の比較検討を行い、候補地を絞り込んで選択していくのがよい。

### －複数候補地選定の流れ（全容）－



○法令等で開発等が規制される区域

区分	項目(除外区域)
防災関係	河川区域
	地すべり防止区域
	急傾斜地崩壊危険区域
	砂防指定地
自然保護関係	国立(国定)公園区域
	県自然公園区域
	茨城県自然保護保全区域
鳥獣保護関係	特別保護区域
文化財保護関係	埋蔵文化財
	国指定文化財
	茨城県指定文化財
都市地域関係	用途区域
	特別用途地区
	風致地区
	都市公園
農業地域関係	農用地区域
森林地域関係	保安林
	国有林

○各市の固有情報による地域

区分	項目(除外区域)
周辺の状況	住民合意形成
	排水放流先
	搬入道路、取付道路の経路
	付近の騒音、振動、悪臭等の状況
	学校、病院等との位置関係
	電力、電話、水道施設等
地形・地質	軟弱地盤や不等沈下
	地下水への浸透
災害に対する安全性	樹木の伐開、伐根に伴う雨水流出対応 (防災調整池の設置)
	地すべり、がけ崩れの恐れ
	地震、水害への対応
敷地利用計画	埋立完了後の跡地利用計画
関連施設との位置関係	収集、運搬、処理及び最終処分の各施設間の距離

## 常総環境センター最終処分場検討会設置要綱

### (目的)

第1条 最終処分場事業において、処分場の在り方や最新のリサイクル技術等について調査、検討するため、「常総環境センター最終処分場検討会」（以下「検討会」という。）を設置する。

### (所掌事項)

第2条 検討会の所掌する事項は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 最終処分場の在り方に関すること
- (2) 灰等のリサイクルの検討
- (3) その他管理者が必要と認める事項

### (組織)

第3条 検討会は、3名以内の前条についての学識経験を有する委員をもって組織する。

2 検討会の委員は、管理者が委嘱する。

### (任期)

第4条 委員の任期は委嘱の日から目的達成するまでの期間とする。

### (会議の招集)

第5条 検討会は、管理者が招集する。

### (検討書の作成)

第6条 検討会は、第2条に規定する事項についての検討書を作成し、管理者へ報告する。

### (事務局)

第7条 検討会の事務局は、常総環境センター内に置くものとする。

### (委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、検討会の運営に必要な事項は管理者が定める。

### 付 則

この要綱は、公布の日から施行する。

最終処分場検討会委員

所 属	職 名	氏 名	備考
(元)筑波大学大学院	生命環境科学研究科持続環境学専攻教授	田 瀬 則 雄	委員長
(現)筑波大学	名誉教授		
(元)東京工業大学大学院	総合理工学研究科環境理工学創造専攻助教	秋 山 貴	
(現)独立行政法人国立環境研究所	資源循環・廃棄物研究センター特別研究員		
独立行政法人国立環境研究所	資源循環・廃棄物研究センター主任研究員	石 垣 智 基	

最終処分場検討会の開催経過

区 分		会 議	内 容
平成23年	8月25日	第1回	①最終処分場の状況 ②計画地案内 ③今後のスケジュール
	11月8日	第2回	①ごみ減量化の取組状況及びごみ処理実績・計画 ②最終処分場の在り方
平成24年	1月24日	第3回	①協議の方向性 ②現状 ③その他(放射能の状況)
	3月15日	第4回	①ごみの減量化・資源化の推進 ②同規模施設の処理状況比較 ③排出物のリサイクル及び埋立量 ④その他(放射能の状況)
	6月5日	第5回	①排出物のリサイクル及び埋立量 ②最終処分場の規模 ③その他(アンケートの実施)
平成25年	2月21日	第6回	①アンケート調査結果(案)の協議
	3月26日	第7回	①検討書(案)の作成
	11月12日	第8回	①検討書(案)の確認

# 地域内の最終処分場のあり方に関するアンケート 調査結果

常総地方広域市町村圏事務組合

## 目 次

1	目的	.....	1
2	調査方法	.....	1
3	調査時期	.....	1
4	調査対象	.....	1
5	回答数及び回答率	.....	1
6	構成市別集計		
	各市別集計表	.....	2
	常総市		
	結果	.....	常総-1
	単純集計	.....	常総-2
	問9、問10、問12のその他記述集計表	.....	常総-6
	クロス集計	.....	常総-7
	問13自由記述の区分別集計表	.....	常総-9
	取手市		
	結果	.....	取手-1
	単純集計	.....	取手-2
	問9、問10、問12のその他記述集計表	.....	取手-6
	クロス集計	.....	取手-7
	問13自由記述の区分別集計表	.....	取手-9
	守谷市		
	結果	.....	守谷-1
	単純集計	.....	守谷-2
	問9、問10、問12のその他記述集計表	.....	守谷-6
	クロス集計	.....	守谷-7
	問13自由記述の区分別集計表	.....	守谷-9
	つくばみらい市		
	結果	.....	つくばみらい-1
	単純集計	.....	つくばみらい-2
	問9、問10、問12のその他記述集計表	.....	つくばみらい-6
	クロス集計	.....	つくばみらい-7
	問13自由記述の区分別集計表	.....	つくばみらい-9
	全市集計		
	結果	.....	全-1
	単純集計	.....	全-2
	問9、問10、問12のその他記述集計表	.....	全-6
	クロス集計	.....	全-8
	問13自由記述の区分別集計表	.....	全-10

巻末 「地域内の最終処分場のあり方に関するアンケート」用紙

## 1 目的

常総広域圏内には、残渣の最終処分場がなく、圏外の最終処分場に埋立てをお願いしている状況です。このため、ひとたび委託先等から受入制限が出されたり、受入れを拒まれた場合、最終処分ができなくなる恐れがあります。常総広域圏内で発生したごみの処理は、本来は圏内で最終処分まで行うことが地域の役割と考えられます。

このアンケートは、圏内にお住まいの方を無作為で抽出させていただき、自分たちの地域内で最終処分まで行う「自区内処理」について住民のみなさんに率直な意見を伺い、圏内における最終処分場のあり方を検討するうえで、参考にさせていただくことを目的としています。

## 2 調査方法

郵送によるアンケート調査

## 3 調査時期

平成24年12月28日から平成25年1月21日まで

## 4 調査対象

常総広域圏構成市住民

・常総市(旧水海道地区)	500名	} 合計2,000名
・取手市	500名	
・守谷市	500名	
・つくばみらい市	500名	

無作為抽出による(20歳～)

## 5 回答数及び回答率

構成市別

・常総市(旧水海道地区)	187名(37.5%)	} 合計790名(39.6%)
・取手市	205名(41.2%)	
・守谷市	193名(38.6%)	
・つくばみらい市	203名(40.8%)	
・無回答	2名	

## 各市別集計表

問1「あなたの性別は？(1つに○)」

選択項目	総計		常総市		取手市		守谷市		つくばみらい市		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
男	378	47.8%	101	54.0%	92	44.9%	95	49.2%	90	44.3%	0	0.0%
女	406	51.4%	85	45.5%	112	54.6%	97	50.3%	111	54.7%	1	50.0%
無回答	6	0.8%	1	0.5%	1	0.5%	1	0.5%	2	1.0%	1	50.0%
合計	790	100.0%	187	100.0%	205	100.0%	193	100.0%	203	100.0%	2	100.0%

問2「あなたの年齢は？(1つに○)」

選択項目	総計		常総市		取手市		守谷市		つくばみらい市		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
20～29歳	82	10.4%	20	10.7%	12	5.9%	26	13.5%	24	11.8%	0	0.0%
30～39歳	103	13.0%	18	9.6%	24	11.7%	34	17.6%	27	13.3%	0	0.0%
40～49歳	122	15.4%	27	14.4%	20	9.8%	44	22.8%	31	15.3%	0	0.0%
50～59歳	127	16.1%	36	19.3%	33	16.1%	26	13.5%	32	15.8%	0	0.0%
60～69歳	193	24.4%	41	21.9%	55	26.8%	46	23.8%	51	25.1%	0	0.0%
70歳以上	161	20.4%	45	24.1%	61	29.8%	17	8.8%	37	18.2%	1	50.0%
無回答	2	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	1	50.0%
合計	790	100.0%	187	100.0%	205	100.0%	193	100.0%	203	100.0%	2	100.0%

問4「家庭から出された可燃ごみは、常総環境センターで焼却していますが、常総環境センターは、どこの市にあるかご存知でしたか？(1つに○)」

選択項目	総計		常総市		取手市		守谷市		つくばみらい市		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
はい	637	80.6%	157	84.0%	159	77.6%	167	86.5%	153	75.4%	1	50.0%
いいえ	148	18.7%	30	16.0%	46	22.4%	25	13.0%	47	23.2%	0	0.0%
無回答	5	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	3	1.5%	1	50.0%
合計	790	100.0%	187	100.0%	205	100.0%	193	100.0%	203	100.0%	2	100.0%

問5「最初に書きましたように、可燃ごみ等は焼却された後、最終的に灰などの「残渣」が残ることはご存知でしたか。(1つに○)」

選択項目	総計		常総市		取手市		守谷市		つくばみらい市		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
はい	574	72.7%	132	70.6%	141	68.8%	148	76.7%	152	74.9%	1	50.0%
いいえ	211	26.7%	53	28.3%	63	30.7%	44	22.8%	51	25.1%	0	0.0%
無回答	5	0.6%	2	1.1%	1	0.5%	1	0.5%	0	0.0%	1	50.0%
合計	790	100.0%	187	100.0%	205	100.0%	193	100.0%	203	100.0%	2	100.0%

問6「現在、灰などの「残渣」はどこで処分されているか、ご存知でしたか？(1つに○)」

選択項目	総計		常総市		取手市		守谷市		つくばみらい市		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
はい	71	9.0%	18	9.6%	21	10.2%	17	8.8%	15	7.4%	0	0.0%
いいえ	711	90.0%	167	89.3%	183	89.3%	175	90.7%	185	91.1%	1	50.0%
無回答	8	1.0%	2	1.1%	1	0.5%	1	0.5%	3	1.5%	1	50.0%
合計	790	100.0%	187	100.0%	205	100.0%	193	100.0%	203	100.0%	2	100.0%

問7「「残渣」がリサイクルできるのであれば、現在行っている埋立処分費以上の費用をかけてもリサイクルする方がよいと思いますか、それとも埋立処分が適切であると思いますか？(1つに○)」

選択項目	総計		常総市		取手市		守谷市		つくばみらい市		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする	147	18.6%	29	15.5%	45	22.0%	41	21.2%	32	15.8%	0	0.0%
埋立処分する	66	8.4%	21	11.2%	16	7.8%	15	7.8%	14	6.9%	0	0.0%
リサイクル費用に応じて可能な部分をリサイクルする	564	71.4%	132	70.6%	139	67.8%	136	70.5%	156	76.8%	1	50.0%
無回答	13	1.6%	5	2.7%	5	2.4%	1	0.5%	1	0.5%	1	50.0%
合計	790	100.0%	187	100.0%	205	100.0%	193	100.0%	203	100.0%	2	100.0%

問8「問7で「1. リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする」と答えた方も含めて全ての方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場は必要と思いますか？(1つに○)」

選択項目	総計		常総市		取手市		守谷市		つくばみらい市		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
必要と思う	486	61.5%	109	58.3%	130	63.4%	122	63.2%	124	61.1%	1	50.0%
必要と思わない	77	9.7%	19	10.2%	17	8.3%	17	8.8%	24	11.8%	0	0.0%
わからない	173	21.9%	43	23.0%	52	25.4%	40	20.7%	37	18.2%	1	50.0%
無回答	54	6.8%	16	8.6%	6	2.9%	14	7.3%	18	8.9%	0	0.0%
合計	790	100.0%	187	100.0%	205	100.0%	193	100.0%	203	100.0%	2	100.0%

問9「問8で「1. 必要と思う」とお答えになった方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場を必要と思う理由は何ですか？(○はいくつでも)」

選択項目	総計		常総市		取手市		守谷市		つくばみらい市		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
自分たちの地域内での処分が必要	390	80.2%	81	74.3%	111	85.4%	104	85.2%	93	75.0%	1	100.0%
最終処分場に支払う費用が高額となる	49	10.1%	15	13.8%	10	7.7%	12	9.8%	12	9.7%	0	0.0%
受入れが拒まれる可能性がある	156	32.1%	41	37.6%	39	30.0%	40	32.8%	36	29.0%	0	0.0%
その他	32	6.6%	6	5.5%	9	6.9%	10	8.2%	7	5.6%	0	0.0%
無回答	7	1.4%	0	0.0%	2	1.5%	0	0.0%	5	4.0%	0	0.0%
合計	634	130.5%	143	131.2%	171	131.5%	166	136.1%	153	123.4%	1	100.0%

問10「問8で「2. 必要と思わない」とお答えになった方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場を必要と思わない理由は何ですか？(○はいくつでも)」

選択項目	総計		常総市		取手市		守谷市		つくばみらい市		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
リサイクルするので埋め立てるものがない	26	33.8%	5	26.3%	6	35.3%	8	47.1%	7	29.2%	0	0.0%
迷惑施設なのでなくてもよい	13	16.9%	5	26.3%	2	11.8%	2	11.8%	4	16.7%	0	0.0%
費用を払って常総広域圏外に埋め立てた方がよい	37	48.1%	11	57.9%	9	52.9%	6	35.3%	11	45.8%	0	0.0%
その他	9	11.7%	2	10.5%	2	11.8%	2	11.8%	3	12.5%	0	0.0%
無回答	1	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.9%	0	0.0%	0	0.0%
合計	86	111.7%	23	121.1%	19	111.8%	19	111.8%	25	104.2%	0	0.0%

問11「家庭から出されるごみの焼却施設や最終処分場が、家の近くに建設されるとなる場合、受け入れることができますか？(1つに○)」

選択項目	総計		常総市		取手市		守谷市		つくばみらい市		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
受け入れることができる	209	26.5%	52	27.8%	53	25.9%	53	27.5%	50	24.6%	1	50.0%
受け入れることができない	225	28.5%	51	27.3%	53	25.9%	60	31.1%	61	30.0%	0	0.0%
わからない	346	43.8%	83	44.4%	94	45.9%	78	40.4%	91	44.8%	0	0.0%
無回答	10	1.3%	1	0.5%	5	2.4%	2	1.0%	1	0.5%	1	50.0%
合計	790	100.0%	187	100.0%	205	100.0%	193	100.0%	203	100.0%	2	100.0%

問12「問11で「2. 受け入れることができない」とお答えになった方にお聞きします。家庭から出されるごみの焼却施設や最終処分場が、家の近くに建設されるとなる場合、受け入れることができない理由は何ですか？(○はいくつでも)」

選択項目	総計		常総市		取手市		守谷市		つくばみらい市		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
景観が悪くなる	59	26.2%	16	31.4%	11	20.8%	14	23.3%	18	29.5%	0	0.0%
排ガスや水質の被害が出る	191	84.9%	47	92.2%	47	88.7%	49	81.7%	48	78.7%	0	0.0%
汚いなどの悪い噂がたつ	45	20.0%	15	29.4%	9	17.0%	11	18.3%	10	16.4%	0	0.0%
その他	40	17.8%	6	11.8%	11	20.8%	10	16.7%	13	21.3%	0	0.0%
無回答	2	0.9%	1	2.0%	0	0.0%	1	1.7%	0	0.0%	0	0.0%
合計	337	149.8%	85	166.7%	78	147.2%	85	141.7%	89	145.9%	0	0.0%

地域内の最終処分場のあり方に関するアンケート  
調査結果

<常総市>

## 【結 果】

地域内の最終処分場のあり方に関するアンケートの結果は、構成4市の2,000名中、790名の回答があり、常総市では500名中、187名、約37%の回答があった。

単純集計において、回答者の属性としては、男女別では男性約54%、女性約46%で、年代別では、70代以上の方々からの回答が約24%で最も多く、次いで60歳代が約22%であった。

回答の傾向としては、常総環境センターがどこの市にあるのか、また、焼却後にスラグ、飛灰固化物や溶融不適物の残渣が残ることについては、71~84%程度の方が理解されていたが、これらの残渣がどこで処分されているかまでを知っている方は10%に満たなかった。

また、スラグ、飛灰固化物や溶融不適物のリサイクルまたは埋立処分についての処理方法としては、全量または一部を合わせると約86%程度の方がリサイクルするを選択されたが、一方で、「自分たちの最終処分場は必要」を58%程度の方が選択された。最終処分場を必要と思う方は複数回答でその理由として、74%程度が、「自分たちの地域内での処分が必要」、38%程度が「受け入れを拒まれる可能性がある」と回答された。

「最終処分場を必要と思わない」を選択された方が複数回答で必要と思わない理由としては、58%程度が「費用を払って常総広域圏外に埋め立てた方がよい」を、26%程度が「リサイクルするので埋め立てるものがない」と「迷惑施設なのでなくてもよい」と回答された。

最終処分場などの施設が家の近くに建設される場合の受け入れについては、「わからない」が最も多かったものの、約28%の方が「受け入れることができる」との回答であった。ここで、受け入れることができない理由としては複数回答で、約92%が排ガスや水質被害の公害面を理由に挙げた。

次に、常総環境センターや残渣に関する住民の理解度をはじめ、スラグ、飛灰固化物や溶融不適物のリサイクル、埋立処分とする選択肢等について多面的な意向を分析するため、クロス集計を試みた。

常総環境センター及び残渣の知名度は、全体の9.1%にとどまった。ここで、スラグ、飛灰固化物や溶融不適物の残渣が残ることを理解されていた方を抽出したところ、全量または一部をリサイクルすると答えた方は62%に上った。また、「費用に応じて可能な部分をリサイクルする」を選択された方で「最終処分場は必要」と答える方が38%で、「リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする」を選択された中にも約14%の方が「最終処分場は必要」を選択された。さらに、全量または一部をリサイクルすると答えた方も含め、家の近くにごみ処理施設が建設される場合の反応としては、「わからない」が約44%、「受け入れることができない」が約27%であったが、約28%の方が「受け入れることができる」と答えられた。

最後に、自由意見では、他市とほぼ同様に、建設場所に係る意見をはじめ、最終処分の自区内処理に係る意見、各市の持ち回りとする意見、参考資料の提示を望む意見、リサイクルに係るもの等、幅広い意見が示された。

## 単純集計

## 問1 あなたの性別は？(1つに○)

	回答数	構成比
(1) 男	101	54.0%
(2) 女	85	45.5%
無回答	1	0.5%
計	187	100.0%

回答者は、男女別では、男性54.0%、女性45.5%で、男性からの回答が多かった。

## 問2 あなたの年齢は？(1つに○)

	回答数	構成比
(1) 20～29歳	20	10.7%
(2) 30～39歳	18	9.6%
(3) 40～49歳	27	14.4%
(4) 50～59歳	36	19.3%
(5) 60～69歳	41	21.9%
(6) 70歳以上	45	24.1%
無回答	0	0.0%
計	187	100.0%

年代別では、70歳以上が24.1%で最も多く、次いで、60～69歳が21.9%、50～59歳が19.3%で、各年代とも10%程度の回答があった。

## 問4 家庭から出された可燃ごみは、常総環境センターで焼却していますが、常総環境センターは、どこの市にあるかご存知でしたか？(1つに○)

	回答数	構成比
(1) はい	157	84.0%
(2) いいえ	30	16.0%
無回答	0	0.0%
計	187	100.0%

常総環境センターが守谷市に所在していることは、84.0%の住民が理解していた。

## 問5 最初に書きましたように、可燃ごみ等は焼却された後、最終的に灰などの「残渣」が残ることはご存知でしたか。(1つに○)

	回答数	構成比
(1) はい	132	70.6%
(2) いいえ	53	28.3%
無回答	2	1.1%
計	187	100.0%

ごみが焼却された後に灰などの残渣が発生することは、70.6%の住民が理解していた。

問6 現在、灰などの「残渣」はどこで処分されているか、ご存知でしたか？(1つに○)

		回答数	構成比
(1)	はい	18	9.6%
(2)	いいえ	167	89.3%
	無回答	2	1.1%
	計	187	100.0%

灰などの残渣の最終処分先を理解していた住民は、9.6%にとどまり、89.3%の住民に知られていなかった。

問7 「残渣」がリサイクルできるのであれば、現在行っている埋立処分費以上の費用をかけてもリサイクルする方がよいと思いますか、それとも埋立処分が適切であると思いますか？(1つに○)

		回答数	構成比
(1)	リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする	29	15.5%
(2)	埋立処分する	21	11.2%
(3)	リサイクル費用に応じて可能な部分をリサイクルする	132	70.6%
	無回答	5	2.7%
	計	187	100.0%

灰などの残渣のリサイクルは、費用に関わらず「全量リサイクルする」と答えた方は15.5%、「費用に応じて可能な部分をリサイクル」と答えた方が70.6%であった。一定額の範囲で可能な量はリサイクルすると答えた方が最も多く、「埋立処分」と答えた方は11.2%であった。

問8 問7で「1. リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする」と答えた方も含めて全ての方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場は必要と思いますか？(1つに○)

		回答数	構成比
(1)	必要と思う	109	58.3%
(2)	必要と思わない	19	10.2%
(3)	わからない	43	23.0%
	無回答	16	8.6%
	計	187	100.0%

圏域内に自分たちの最終処分場が「必要と思う」と答えた方が58.3%で最も多く、次いで「わからない」と答えた方が23.0%、「必要と思わない」と答えた方が10.2%であった。

問9 問8で「1. 必要と思う」とお答えになった方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場を必要と思う理由は何ですか？(○はいくつでも)

	回答数	割合
(1) 自分たちの地域内での処分が必要	81	74.3%
(2) 最終処分場に支払う費用が高額となる	15	13.8%
(3) 受入れが拒まれる可能性がある	41	37.6%
(4) その他	6	5.5%
無回答	0	0.0%
計	143	131.2%

最終処分場を必要と思う方はその理由として、「自分たちの地域内で処分することが必要」と答えた方が74.3%で最も多く、次いで「受け入れを拒まれる可能性がある」と答えた方が37.6%であった。

問10 問8で「2. 必要と思わない」とお答えになった方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場を必要と思わない理由は何ですか？(○はいくつでも)

	回答数	割合
(1) リサイクルするので埋め立てるものがない	5	26.3%
(2) 迷惑施設なのでなくてもよい	5	26.3%
(3) 費用を払って常総広域圏外に埋め立てた方がよい	11	57.9%
(4) その他	2	10.5%
無回答	0	0.0%
計	23	121.1%

最終処分場を必要と思わない方はその理由として、「費用を払って圏外に埋め立てた方がよい」が57.9%で最も多く、次いで「リサイクルするので埋め立てるものがない」「迷惑施設なのでなくてもよい」がともに26.3%であった。

問11 家庭から出されるごみの焼却施設や最終処分場が、家の近くに建設される場合、受け入れることができますか？(1つに○)

	回答数	構成比
(1) 受け入れることができる	52	27.8%
(2) 受け入れることができない	51	27.3%
(3) わからない	83	44.4%
無回答	1	0.5%
計	187	100.0%

焼却施設や最終処分場が家の近くへ作られることについては、「わからない」と答えた方が44.4%で最も多く、次いで「受け入れることができる」と答えた方は27.8%、「受け入れられない」と答えた方が27.3%であった。

問12 問11で「2. 受け入れることができない」とお答えになった方にお聞きします。家庭から出されるごみの焼却施設や最終処分場が、家の近くに建設されるとなる場合、受け入れることができない理由は何ですか？（○はいくつでも）

	回答数	割合
(1) 景観が悪くなる	16	31.4%
(2) 排ガスや水質の被害が出る	47	92.2%
(3) 汚いなどの悪いうわさがたつ	15	29.4%
(4) その他	6	11.8%
無回答	1	2.0%
計	85	166.7%

焼却施設や最終処分場が家の近くへ作られることが受け入れられない理由としては、「排ガスや水質の被害が出る」と答えた方が92.2%で最も多く、次いで、「景観が悪くなる」が31.4%、「汚いなどの悪いうわさがたつ」が29.4%であった。

問13 ごみ処理やリサイクルに関するあなたのご意見・ご要望などがありましたらお聞かせください。

自由記述集計表参照

問9、問10、問12の設問でその他を選択された方の記述集計表

設問	問9	問10	問12
その他を選択した方の回答 (常総市)	問8で「1. 必要と思う」とお答えになった方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場を必要と思う理由は何ですか？	問8で「2. 必要と思わない」とお答えになった方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場を必要と思わない理由は何ですか？	問11で「2. 受け入れることができない」とお答えになった方にお聞きします。家庭から出されるごみの焼却施設や最終処分場が、家の近くに建設されるとなる場合、受け入れることができない理由は何ですか？
	逆に受け入れる立場だったとしたらあまりいい気分ではないと思うから可能な限り自分のことは自分で		
			家の近くでは困る 生活環境が悪くなる
		環境に悪い	匂いが出ると困る
	自分たちが出したごみは自分たちで責任を持つべき		土地の価格が下がる
	最終処分場を造り雑収入を得る	悪いうわさ	資産価値が下がる、健康被害が出る
	地域内で処分することは当然と思いますが、その処分場がもし身近に建設となれば条件は変わってくると思います。		土地価格の下落
	地産地消的考え方が原則		

クロス集計表

「問4 家庭から出された可燃ごみは、常総環境センターで焼却していますが、常総環境センターは、どこの市にあるかご存知でしたか？(1つに○)」と「問6 現在、灰などの「残渣」はどこで処分されているか、ご存知でしたか？(1つに○)」の関係

		家庭から出された可燃ごみは、常総環境センターで焼却していますが、常総環境センターは、どこの市にあるかご存知でしたか？							
知こ現 でで在 し処、 た分灰 かさな かさな ？れど ての い「 る残 か渣 、」 ごは 存ど	選択項目	総計		はい		いいえ		無回答	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
	はい	18	9.6%	17	9.1%	1	0.5%	0	0.0%
	いいえ	167	89.3%	138	73.8%	29	15.5%	0	0.0%
	無回答	2	1.1%	2	1.1%	0	0.0%	0	0.0%
	合計	187	100.0%	157	84.0%	30	16.0%	0	0.0%

「問5 最初に書きましたように、可燃ごみ等は焼却された後、最終的に灰などの「残渣」が残ることはご存知でしたか。(1つに○)」と「問7 「残渣」がリサイクルできるのであれば、現在行っている埋立処分費以上の費用をかけてもリサイクルする方がよいと思いますか、それとも埋立処分が適切であると思いますか？(1つに○)」の関係

		最初に書きましたように、可燃ごみ等は焼却された後、最終的に灰などの「残渣」が残ることはご存知でしたか。							
処イ行 分クつ残 がルて渣 適すい 切るる で方埋リ あが立サ るよ処イ ると分ク とい分ク 思と費ル い思以 まい上 すまの かす費 ？か用 、を そかれ れば とて、 もも現 埋リ在 立サ	選択項目	総計		はい		いいえ		無回答	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
	リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする	29	15.5%	21	11.2%	8	4.3%	0	0.0%
	埋立処分する	21	11.2%	14	7.5%	7	3.7%	0	0.0%
	リサイクル費用に応じて可能な部分をリサイクルする	132	70.6%	95	50.8%	35	18.7%	2	1.1%
	無回答	5	2.7%	2	1.1%	3	1.6%	0	0.0%
	合計	187	100.0%	132	70.6%	53	28.3%	2	1.1%

「問7「残渣」がリサイクルできるのであれば、現在行っている埋立処分費以上の費用をかけてもリサイクルする方がよいと思いますか、それとも埋立処分が適切であると思いますか？(1つに○)」と「問8 問7で「1. リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする」と答えた方も含めて全ての方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場は必要と思いますか？(1つに○)」の関係

		「残渣」がリサイクルできるのであれば、現在行っている埋立処分費以上の費用をかけてもリサイクルする方がよいと思いますか、それとも埋立処分が適切であると思いますか？									
はち全 必の地 要の方 と域に 思にお い自 ま分 すた かち ？し す。最 終。自 処分 場た	選択項目	総計		リサイクル費用 が高額でも全量 リサイクルする		埋立処分する		リサイクル費用 に応じて可能な 部分をリサイク ルする		無回答	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
	必要と思う	109	58.3%	26	13.9%	11	5.9%	71	38.0%	1	0.5%
	必要と思わない	19	10.2%	3	1.6%	3	1.6%	12	6.4%	1	0.5%
	わからない	43	23.0%	0	0.0%	5	2.7%	35	18.7%	3	1.6%
	無回答	16	8.6%	0	0.0%	2	1.1%	14	7.5%	0	0.0%
	合計	187	100.0%	29	15.5%	21	11.2%	132	70.6%	5	2.7%

「問8 問7で「1. リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする」と答えた方も含めて全ての方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場は必要と思いますか？(1つに○)」と「問11 家庭から出されるごみの焼却施設や最終処分場が、家の近くに建設されるとなる場合、受け入れることができますか？(1つに○)」の関係

		問7で「1. リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする」と答えた方も含めて全ての方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場は必要と思いますか？									
場処家 合分庭 、場か 受ら け、出 入家さ れるの 近ご くに とみ が建 で設 でき焼 まされ す施 か設 ？と る最 終	選択項目	総計		必要と思う		必要と思わない		わからない		無回答	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
	受け入れることができる	52	27.8%	41	37.6%	0	0.0%	9	20.9%	2	12.5%
	受け入れることができない	51	27.3%	22	20.2%	17	89.5%	9	20.9%	3	18.8%
	わからない	83	44.4%	46	42.2%	2	10.5%	25	58.1%	10	62.5%
	無回答	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.3%
	合計	187	100.0%	109	100.0%	19	100.0%	43	100.0%	16	100.0%

## 最終処分場アンケート調査 問13自由記述 集計表

焼却処理施設が守谷にあるのだから、最終処分場は守谷以外の地区に作るべき。
公害の発生も心配だし、すごく悩みますが、自分たちの捨てるごみの残渣なので、なるべくごみを減らし自分たちの地域で処理も考えるべきだと思う。
リサイクル費用、最終処分場への支払い、市内に施設を作るとしてもどの位費用がかかり、実際自分たちが払う費用がどれくらいなのか、年金生活者には高額といわれても払いきれない額なのか、それがわからないと適切な解答ができません。
公害問題に力を注いでもらいたい。
問12の質問で「家の近くに建設されるとなる場合・・・」とありますが、なぜ民家の近くにわざわざ建設されることを前提とした質問をするのか、教えてください。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リサイクル設備と最終処分場設備は、当地域には絶対必要性があります。(将来的には必ず必要になります)</li> <li>・一時のぎではなく、回収～処分～リサイクル～最終処理と一貫した施設の見直しをしていただきたい。</li> <li>・必ず、用地の確保、取得の問題も出ると思うが、他の事業体にゆだね続けていく訳にはいかないとような気がします。</li> </ul>
焼却施設や最終処分場が、周辺に住宅が少ない立地条件の元、持ち回り建設がいいかと思います。例H24秋完成したのが守谷→H??はつくばみらい→H??取手→H??常総などというように長期プランを提示してはいかがでしょうか？
自分たちが出したごみ類は、自分たちの所で処分するのが生活していく上で一番いい方法です。
すべてのものが自給自足ができる方が良い。当然自分で出したごみは住んでいる地域で処分するべきと考えます。
リサイクルを積極的に行っている学校、職場、地区等の事例を紹介するとともに表彰をし意識の高揚に行政としても後押しすべきと思います。
自分たちのごみは自分地域内で処分するのが基本だからです。自分地域内に最終処分場は必要です。
ごみ処理場を建設した場合、風の流れ等により特定の地域が環境汚染される。
・リサイクルも大切だが体に影響がでないのかが一番心配。
公害の発生が一番心配です。
ごみ処理についてあまりよく知りませんが、家の近くに焼却施設+最終処分場が出来るのはイヤです。やはり健康面が心配になります。
残渣はどのようにリサイクルされるのか良く分からない。問7に対して予算はどの位必要とされているかもっと説明がほしい。
ごみに対してもっと考える場が必要だと思う。リサイクル社会こそが今後の地球上で生きる道であると思う。そのための技術と市民の心が向上していく必要がある。
どこの市町村でもごみの件で困っていると思います。国民はもっと本気で考える事です。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民がごみ処理に関心をもって決められたルールに従うのが良いと思う。ルールを守っていない人が多い。</li> <li>・自分のごみは自分たちで処理するのが良い。</li> </ul>
あちらこちらから煙を出す必要はない。
つくるのには、建物費用、人事、就職の人選び(新たな)職に就けなかった人のうらみ等々いらさないさわぎで仲良かった人たちが口がきかなくなったりしては子供たちに与える影響が多いにあるから悪いです。
自区内の処理が原則。自分ソの所だけよければという考えはすてるべきです。
このアンケートについての意見なのですが、現在の圏外にある最終処分場の公害問題などの参考資料もできれば同封していただき、少しでも理解してからこのアンケートを解答したかったと思います。私には申し訳ないのですが、少し非日常的な所があるので淡々と答えてしまう、あるいは、例えばですが、最終処分場を建てることに対してしっかりした意見を書くことができません。事実をもとにアンケートに答えたいと思いました。失礼なことを書いてしまい大変申し訳ありませんでした。
ごみに関しては、分別の方をもう少し細かく分けてしまった方が良いと思います。ごみ分別表を作成し各家庭に配布してほしいです。
残渣という物は、地域内で処分した場合、迷惑になるのかならないのか説明をお願いしたい。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつかやらなければならないことなので、未来へ先送りせずやってほしい。</li> <li>・お年寄りが分別しきれずに誤ったごみの出し方をしている現状もあるので実際難しい。</li> </ul>
ごみは自己責任で良く分別して出すのが良い。最終処分場は迷惑施設だからイヤとは身勝手すぎると思う。ごみを出さない家はないのだから、どんな迷惑でも自分で出したものは自分の責任を取る、これが高等人間だと思う。現代はイヤな物はどこかにもっていけ、良い物は自分の方にとの考え方が多いと思う。これでは何にも決まらないではないか、アンケートをとっても中々むずかしいと思います。
一般家庭でも焼却できるよう法を変えるべき。
家庭でごみ処理を多くする事により処分場での分量を少なくする。

自分たちのごみは自分たちの地域内で処分するのが望ましいと思うが、その場所が、住宅地の目の前であったり、地域の反対や生活に支障がある場合は、そこは避けるべき。
・残渣をブロックやレンガ、道路の舗装工事に使用できませんか？有価物にはならないのでしょうか？ ・可燃ごみ→食品→肥料 →紙類→焼却→残渣 に分別する。
最終処分場の決定については、圏内でやるべきだとは思いますが、決めるにしてもすべて公にして納得できるよう市民もメンバーに多数入りやるべきだと思います。
・高額なリサイクル費用も市民に負担があった場合も困ります。 ・焼却施設の安全性等もくわしく説明してほしい。 (必要か必要でないかといわれてもわからない)
有害にならない物は個人で一斗缶やドラム缶で近所で迷惑かからない様処分すれば税金面でも助かるのではないかと思います。
水質の被害
常総広域圏以外の茨城県の各地域ではどうしているのか知りたい。そういう事を分かった上でもう1回アンケートをとってみたいと思う。 自分たちの地域で出したごみなので自分たちの地域で何とかすべきだとは思いますが、公害なども気になる。いきなり必要か、と聞かれても正直何を言ってよいか答えに迷う。
最終処分場の中でも安定型、管理型色々あるかと思いますが、そのあたりをもっと詳しく知りたい。安全の確認を知りたい。
処理場は必要。方法は当局におまかせする。
出来る限りリサイクルを実施する事が良いと思います。
衣類などはかなりリサイクルが出来ると聞いています。どんどん再利用出来たら良いと思います。
残渣は一切動かしてはいけない。搬出、搬入しない。
問11の答えとして①の受け入れることができるを選びましたが、勿論さけられればそれに越したことはありません。ですから出来る限り受け入れる側のことを考えてもらいたい。現在、私のとこのごみ集積所は我が家のとなりの家の1m程度弱しかはなれていません。私が住み始めてから40年近くなりますが夏など臭いも際策で一時は出し方も粗雑でカラスが悪さしたり最悪でした。私が住む前に住んでいた方は保護を受けていた方で敷地内の奥には瀬戸物やガラスの破片が埋められてたりして(最初は山積みになっていました)今も植物を植えようとすとその破片が出てきます。
最終処分場は民家から離れたところをお願いします。プラスチックはわざわざ洗ってまで分別するのは面倒で不燃に入れてしまうことが多い。
ダイオキシンが飛散しない様、しっかりした設備をして欲しい。
可能な限り、細かく分別した方がよりリサイクルしやすく、公害も抑えられる。
最終処分場がないために最近のごみの分別は色々細かく困難状況にあると思います。 分別の中に色々入っているものの置かれている物が多い。
守谷市に最終処分場を作った方が一番よいと思う。 交通の便がよい。環境センターに近いから。
リサイクルが出来ないなら最終処分場を市内に1ヶ所といわず、集落に1ヶ所ずつ作ったりして地域の人たちにごみを減らす、努力をしてもらうよう個人個人が意識するように促していく必要があると思います。そのためには安全と景観を考慮して作る事が出来ますし、どこの集落にもあるものとして認識されることでしょ。
ごみ処理後、なるべくリサイクルした方が良いと思う。
リサイクル事業はさらに重要になってくると思います。イニシャルコスト、ランニングコストいずれもかかるとは思いますが、市の財政の一助にすることはできないのでしょうか。
地球環境を守るために必要です。
総論賛成各論反対では物事問題解決出来ないでは？地道な説得が必要。決定した事を説得出来るだけの理由がある事。
施設や処分場の建設については、地域、方法等十分検討が必要と思う。

地域内の最終処分場のあり方に関するアンケート  
調査結果

<取手市>

## 【結果】

地域内の最終処分場のあり方に関するアンケートの結果は、構成4市の2,000名中、790名の回答があり、取手市では500名中、205名、41%の回答があった。

単純集計において、回答者の属性としては、男女別では男性約45%、女性約55%で、年代別では、60代以上の方々からの回答が半数を超えた。

回答の傾向としては、常総環境センターがどこの市にあるのか、また、焼却後にスラグ、飛灰固化物や溶融不適物の残渣が残ることについては、69~78%程度の方が理解されていたが、これらの残渣がどこで処分されているかまでを知っている方は10%程度にとどまった。

また、スラグ、飛灰固化物や溶融不適物のリサイクルまたは埋立処分についての処理方法としては、全量または一部を合わせると90%程度の方がリサイクルするを選択されたが、一方で、「自分たちの最終処分場は必要」を63%程度の方が選択された。最終処分場を必要と思う方は複数回答でその理由として、85%程度が、「自分たちの地域内での処分が必要」または「受入れを拒まれる可能性がある」と回答された。

「最終処分場を必要と思わない」を選択された方が複数回答で必要と思わない理由としては、35%程度が「費用を払って常総広域圏外に埋め立てた方がよい」を、53%程度が「リサイクルするので埋め立てるものがない」と回答された。

最終処分場などの施設が家の近くに建設される場合の受入れについては、「わからない」が最も多かったものの26%程度の方が受入れることができるとの回答であった。一方、受入れることができない理由としては複数回答で、排ガスや水質被害の公害面を理由に挙げたのが多かった。

ここで、常総環境センターや残渣に関する住民の理解度をはじめ、スラグ、飛灰固化物や溶融不適物のリサイクル、埋立処分とする選択肢等について多面的な意向を分析するため、クロス集計を試みた。

常総環境センター及び残渣の知名度は、全体の10.2%にとどまった。次に、スラグ、飛灰固化物や溶融不適物の残渣が残ることを理解されていた方を抽出したところ、全量または一部をリサイクルすると答えた方は約64%に上った。また、リサイクルを重視、優先と答えた方にも最終処分場は必要と答える方が約42%に上った。一方で、「リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする」を選択された中にも約17%の方が「最終処分場は必要」を選択された。さらに、全量または一部をリサイクルすると答えた方も含め、家の近くにごみ処理施設が建設される場合の反応としては、「わからない」が46%を占めたが、「受け入れることができる」「受け入れることができない」とも約26%であった。

最後に、自由意見では、他市とほぼ同様に、自区内処理に係る意見をはじめ、残渣のリサイクルに係る意見、迷惑料の負担、情報発信、放射性物質に係る意見等、幅広い意見が示された。

## 単純集計

## 問1 あなたの性別は？(1つに○)

	回答数	構成比
(1) 男	92	44.9%
(2) 女	112	54.6%
無回答	1	0.5%
計	205	100.0%

回答者は、男女別では、男性44.9%、女性54.6%で女性からの回答が多かった。

## 問2 あなたの年齢は？(1つに○)

	回答数	構成比
(1) 20～29歳	12	5.9%
(2) 30～39歳	24	11.7%
(3) 40～49歳	20	9.8%
(4) 50～59歳	33	16.1%
(5) 60～69歳	55	26.8%
(6) 70歳以上	61	29.8%
無回答	0	0.0%
計	205	100.0%

年代別では、70歳以上が29.8%で最も多く、次いで、60～69歳が26.8%、50～59歳が16.1%で、20～29歳を除き、約10%以上の回答であった。

## 問4 家庭から出された可燃ごみは、常総環境センターで焼却していますが、常総環境センターは、どこの市にあるかご存知でしたか？(1つに○)

	回答数	構成比
(1) はい	159	77.6%
(2) いいえ	46	22.4%
無回答	0	0.0%
計	205	100.0%

常総環境センターが守谷市に所在していることは、77.6%の住民が理解していた。

## 問5 最初に書きましたように、可燃ごみ等は焼却された後、最終的に灰などの「残渣」が残ることはご存知でしたか。(1つに○)

	回答数	構成比
(1) はい	141	68.8%
(2) いいえ	63	30.7%
無回答	1	0.5%
計	205	100.0%

ごみが焼却された後に灰などの残渣が発生することは、68.8%の住民が理解していた。

問6 現在、灰などの「残渣」はどこで処分されているか、ご存知でしたか？(1つに○)

		回答数	構成比
(1)	はい	21	10.2%
(2)	いいえ	183	89.3%
	無回答	1	0.5%
	計	205	100.0%

灰などの残渣の最終処分先を理解していた住民は、10.2%にとどまり、89.3%の住民に知られていなかった。

問7 「残渣」がリサイクルできるのであれば、現在行っている埋立処分費以上の費用をかけてもリサイクルする方がよいと思いますか、それとも埋立処分が適切であると思いますか？(1つに○)

		回答数	構成比
(1)	リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする	45	22.0%
(2)	埋立処分する	16	7.8%
(3)	リサイクル費用に応じて可能な部分をリサイクルする	139	67.8%
	無回答	5	2.4%
	計	205	100.0%

灰などの残渣のリサイクルは、費用に関わらず「全量リサイクルする」と答えた方は22.0%、「費用に応じて可能な部分をリサイクル」と答えた方が67.8%であった。一定額の範囲で可能な量はリサイクルすると答えた方が最も多く、「埋立処分」と答えた方は7.8%であった。

問8 問7で「1. リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする」と答えた方も含めて全ての方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場は必要と思いますか？(1つに○)

		回答数	構成比
(1)	必要と思う	130	63.4%
(2)	必要と思わない	17	8.3%
(3)	わからない	52	25.4%
	無回答	6	2.9%
	計	205	100.0%

圏域内に自分たちの最終処分場が「必要と思う」と答えた方が63.4%で最も多く、次いで「わからない」と答えた方が25.4%、「必要と思わない」と答えた方が8.3%であった。

問9 問8で「1. 必要と思う」とお答えになった方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場を必要と思う理由は何ですか？(○はいくつでも)

	回答数	割合
(1) 自分たちの地域内での処分が必要	111	85.4%
(2) 最終処分場に支払う費用が高額となる	10	7.7%
(3) 受入れが拒まれる可能性がある	39	30.0%
(4) その他	9	6.9%
無回答	2	1.5%
計	171	131.5%

最終処分場を必要と思う方はその理由として、「自分たちの地域内で処分することが必要」と答えた方が85.4%で最も多く、次いで「受け入れを拒まれる可能性がある」と答えた方が30.0%であった。

問10 問8で「2. 必要と思わない」とお答えになった方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場を必要と思わない理由は何ですか？(○はいくつでも)

	回答数	割合
(1) リサイクルするので埋め立てるものがない	6	35.3%
(2) 迷惑施設なのでなくてもよい	2	11.8%
(3) 費用を払って常総広域圏外に埋め立てた方がよい	9	52.9%
(4) その他	2	11.8%
無回答	0	0.0%
計	19	111.8%

最終処分場を必要と思わない方はその理由として、「費用を払って圏外に埋め立てた方がよい」が52.9%で最も多く、次いで「リサイクルするので埋め立てるものがない」が35.3%であった。

問11 家庭から出されるごみの焼却施設や最終処分場が、家の近くに建設される場合、受け入れることができますか？(1つに○)

	回答数	構成比
(1) 受け入れることができる	53	25.9%
(2) 受け入れることができない	53	25.9%
(3) わからない	94	45.9%
無回答	5	2.4%
計	205	100.0%

焼却施設や最終処分場が家の近くへ作られることについては、「わからない」と答えた方が45.9%で最も多く、「受け入れられない」、「受け入れることができる」とも25.9%であった。

問12 問11で「2. 受け入れることができない」とお答えになった方にお聞きします。家庭から出されるごみの焼却施設や最終処分場が、家の近くに建設されるとなる場合、受け入れることができない理由は何ですか？（○はいくつでも）

	回答数	割合
(1) 景観が悪くなる	11	20.8%
(2) 排ガスや水質の被害が出る	47	88.7%
(3) 汚いなどの悪いうわさがたつ	9	17.0%
(4) その他	11	20.8%
無回答	0	0.0%
計	78	147.2%

焼却施設や最終処分場が家の近くへ作られることが受け入れられない理由としては、「排ガスや水質の被害が出る」と答えた方が88.7%で最も多く、次いで、「景観が悪くなる」「その他」がともに20.8%で、「その他」の理由として、健康被害との関係、住環境、地価への影響等の回答であった。

問13 ごみ処理やリサイクルに関するあなたのご意見・ご要望などがありましたらお聞かせください。

自由記述集計表参照

問9、問10、問12の設問でその他を選択された方の記述集計表

設問	問9	問10	問12
その他を選択した方の回答 (取手市)	問8で「1. 必要と思う」とお答えになった方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場を必要と思う理由は何ですか？	問8で「2. 必要と思わない」とお答えになった方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場を必要と思わない理由は何ですか？	問11で「2. 受け入れることができない」とお答えになった方にお聞きします。家庭から出されるごみの焼却施設や最終処分場が、家の近くに建設されるとなる場合、受け入れることができない理由は何ですか？
	あくまで自己完結		健康被害が出るのではないかと心配
	関係4市の財政が逼迫する		
		他で処理できるのならわざわざ作らなくても良い	車の出入りなどの騒音
	自区内処理		小中学校もあり、住宅密集地なので、環境(健康)によくない
			住宅地近く以外の場所もあるのでは
			被害への対策について信用できない
		新たに作る必要はないと思う	匂い
	ごみを減らす気持ちが強くなると思う		住宅地より離れているなど場所による
	持ち込まれるのはどこでも反対である		
	自分たちのことは自分たちで処理する		
	適度の場所が無いときは地域外を検討		
	どこかには必要なため		場所と規模による 土地価格の下落
			放射能の問題 においが気になる
	不公平ではいけないと思う		土地価格の低下

クロス集計表

「問4 家庭から出された可燃ごみは、常総環境センターで焼却していますが、常総環境センターは、どこの市にあるかご存知でしたか？(1つに○)」と「問6 現在、灰などの「残渣」はどこで処分されているか、ご存知でしたか？(1つに○)」の関係

		家庭から出された可燃ごみは、常総環境センターで焼却していますが、常総環境センターは、どこの市にあるかご存知でしたか？							
知こ現 でで在 し処、 た分灰 かさな かさな れど ての い「 る残 か渣 、」 ごは 存ど	選択項目	総計		はい		いいえ		無回答	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
	はい	21	10.2%	21	10.2%	0	0.0%	0	0.0%
	いいえ	183	89.3%	137	66.8%	46	22.4%	0	0.0%
	無回答	1	0.5%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%
	合計	205	100.0%	159	77.6%	46	22.4%	0	0.0%

「問5 最初に書きましたように、可燃ごみ等は焼却された後、最終的に灰などの「残渣」が残ることはご存知でしたか。(1つに○)」と「問7 「残渣」がリサイクルできるのであれば、現在行っている埋立処分費以上の費用をかけてもリサイクルする方がよいと思いますか、それとも埋立処分が適切であると思いますか？(1つに○)」の関係

		最初に書きましたように、可燃ごみ等は焼却された後、最終的に灰などの「残渣」が残ることはご存知でしたか。							
処イ行 分クつ がル残 適すい 「 切るる で方埋 があ立 るよ処 とい分 と思ク い思ル ま以 すの かすで ？か用 、を そか れれば とて、 もも現 埋リ在 立サ	選択項目	総計		はい		いいえ		無回答	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
	リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする	45	22.0%	28	13.7%	16	7.8%	1	0.5%
	埋立処分する	16	7.8%	5	2.4%	11	5.4%	0	0.0%
	リサイクル費用に応じて可能な部分をリサイクルする	139	67.8%	103	50.2%	36	17.6%	0	0.0%
	無回答	5	2.4%	5	2.4%	0	0.0%	0	0.0%
	合計	205	100.0%	141	68.8%	63	30.7%	1	0.5%

「問7「残渣」がリサイクルできるのであれば、現在行っている埋立処分費以上の費用をかけてもリサイクルする方がよいと思いますか、それとも埋立処分が適切であると思いますか？(1つに○)」と「問8 問7で「1. リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする」と答えた方も含めて全ての方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場は必要と思いますか？(1つに○)」の関係

		「残渣」がリサイクルできるのであれば、現在行っている埋立処分費以上の費用をかけてもリサイクルする方がよいと思いますか、それとも埋立処分が適切であると思いますか？									
はち全 必の地 要の方 地思 域に 方にお 思ま い分 ます かた ？ち の最 終す 。自 分 分 場 た	選択項目	総計		リサイクル費用 が高額でも全量 リサイクルする		埋立処分する		リサイクル費用 に応じて可能な 部分をリサイク ルする		無回答	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
	必要と思う	130	63.4%	34	16.6%	7	3.4%	86	42.0%	3	1.5%
	必要と思わない	17	8.3%	3	1.5%	2	1.0%	12	5.9%	0	0.0%
	わからない	52	25.4%	8	3.9%	5	2.4%	39	19.0%	0	0.0%
	無回答	6	2.9%	0	0.0%	2	1.0%	2	1.0%	2	1.0%
	合計	205	100.0%	45	22.0%	16	7.8%	139	67.8%	5	2.4%

「問8 問7で「1. リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする」と答えた方も含めて全ての方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場は必要と思いますか？(1つに○)」と「問11 家庭から出されるごみの焼却施設や最終処分場が、家の近くに建設されるとなる場合、受け入れることができますか？(1つに○)」の関係

		問7で「1. リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする」と答えた方も含めて全ての方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場は必要と思いますか？									
場処家 合分庭 、場か 受がら け、出 入家さ れられ る近 くご とにみ が建 で設 できさ まれ施 すか ？と なる 最終	選択項目	総計		必要と思う		必要と思わない		わからない		無回答	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
	受け入れることができる	53	25.9%	46	35.4%	1	5.9%	5	9.6%	1	16.7%
	受け入れることができない	53	25.9%	18	13.8%	15	88.2%	19	36.5%	1	16.7%
	わからない	94	45.9%	65	50.0%	1	5.9%	26	50.0%	2	33.3%
	無回答	5	2.4%	1	0.8%	0	0.0%	2	3.8%	2	33.3%
	合計	205	100.0%	130	100.0%	17	100.0%	52	100.0%	6	100.0%

## 最終処分場アンケート調査 問13自由記述 集計表

<p>焼却施設や最終処分場を受け入れる場合は、事前に時間をかけて説明し考えられる問題をすべて明らかにすべきだと思う。</p>
<p>焼却施設とか最終処分場(リサイクル場)の具体的な事が分からないのですが、公害的な発生がどの位なのかによって賛否が違ってくるでしょう。 これらのごみが何かと利用出来る様に皆で良い案を出せるようにしたいですネ。</p>
<p>残渣はリサイクルすべきだろうし、その技術の開発が必要。</p>
<p>先々残渣が多くなり埋め立てできなくなることも。 地域で皆が協力し合い少しでも(今よりも)ごみを少なくする方向にしたい。 自分の近くは誰もが「いや」なのだから。 集積所の近くに住んでいるので当番があってもちらかっている時は、いつも掃除しています。</p>
<p>放射能が特に心配。 体に害がないのなら近くに来てでも認められるが・・・多小、費用があがっても将来的にその方がよいのならやるべきです。</p>
<p>自分たちの出したもの、しっかり処分すること、費用負担を各項目毎にそしてトータル認識し対応することが、今を生きる人の努めだと思う。 最終処分施設近隣の人たちには必要経費で迷惑料を補助すべき。</p>
<p>ごみの分別を十分に、リサイクルに回す量を増やし、焼却分や埋立分を減らすことが必要。 焼却場所は都市の中にあっても焼却の高度化、焼却熱の利用を十分考えた施設とすればよい。</p>
<p>可能なら自分の地域で発生する「残渣」は自分の地域内で処理する。</p>
<p>リサイクル費用がどの程度で処分場がある場合のメリット、デメリットを良く説明が必要と思います。今回のアンケートだけでは全く判断出来ないと思います。</p>
<p>分別は大変だが自分たちが出したごみなので、当たり前だと思う。 「残渣」のこと、最終処分場が圏外であることを初めて知った。もっと早く知る機会があると良かった。 自分たちのごみは自分たちの地域内の処分が望ましいし、その為であれば景観、排ガス被害等のリスクは誰かが背負わなければならないので、圏内にせざるを得ないと思う。</p>
<p>我が家から出るごみだけでも、毎回こんなことと思っています。ごみ問題は大変な事だと思います。 最終処分場に支払う費用が高くなっても仕方がないと思います。</p>
<p>公害が心配 もっと分別した方がよいと云うことはわかっているのですが、どの様にすればよいのか他に何か方法は無いのかと考えてしまいます。</p>
<p>・公害のごみが心配です。 ・国をあげて過剰包装をやめて、みんなができるだけごみを減らす努力をしてもらい、意識を持って過ごすようにすることが大切です。</p>
<p>指定ごみ袋について不満あり。袋のたたみ方について一つ一つ取り出すことを考えてほしい。袋一つ取り出すことが出来なくなってしまっている。(以前の方は一つ一つ取り出せた。)袋のたたみ方をかえてほしい。現状はたいへん不便。また、今度の袋は取っ手ができた分、容量が小さくなって困っている。とりわけ、燃えないごみの袋がたいへん小さくなっている。 上記アンケートの趣旨は「各市各地域にごみ処理場、最終処分場を建設したいが何か問題ありますか？」ということか。質問が誘導的で意図的。この質問のしかたと回答を集めて役に立つ結論を得られると思えない。たとえば問7「現在行っている埋立費以上の費用はいくらなのか？残渣は具体的に何かリサイクルできるのか？無意味なアンケートである。</p>
<p>ごみはどこのご家庭でも出るものです。本来自分で処分すべき所出来ないから行政にお願いしています。人間はエゴを捨て皆で協力すべきである。それが自分の家の近くであってもやむを得ない。</p>
<p>残渣が残らないよう区分はしているよう心がけている。</p>
<p>良く分別して出して居るので残渣は少ないと思っていた。</p>
<p>リサイクル可能なものはすべてリサイクルした方が今後のためにもした方がよいと思う。</p>
<p>自分たちの地域で出した物は自分たちの地域で処理するのが当然である。</p>
<p>ごみの出す量を少なくし、リサイクルできる物はリサイクルする。自然にやさしい生活をするべきだと思います。</p>
<p>自分たちで出したごみの責任を各自が自覚し責任を持って考えていって欲しいと私は思っています。無責任に他県まかせにしているといつかは困ったことになると思うべきです。</p>
<p>排ガスや水質の被害がないような処分場を作り、ていねいに住民に説明すれば受け入れざるを得ないと思う。 景観が悪くなる、悪いうわさ等は住民エゴで論外。 処分場周辺住民(例 200m以内?)の住民税免除等も考えたらと思います。</p>

<p>最終処分場が身近にある事で、ごみを出さない意識やリサイクルしようという意識も高くなると思います。また、意識を高めるように情報発信していくことも必要だと思います。</p> <p>また、最終処分場が近くに建設される事で、負の要因になり得る事は事前に対策しておく事が必須です。(地下水汚泥、臭気、トラック騒音など) 景観を損なわないよう工夫する事も重要。</p> <p>最終処分場のイメージアップを図ってください。</p>
<p>極力リサイクルして残渣を少なくして、それぞれの市が埋立て処分を検討するべきだ。</p>
<p>十分分別はしていますが、独身者や忙しい人、男性などに分担させている家庭など、守りきれていない人もいると思う。</p> <p>完璧な分別は無理かと思う。残渣の出るのはやむを得ないことだし、処分場は建設すべきで、必ず、適地はみつかると思う。</p>
<p>ごみの分別はした方良いと思います。可能な限りリサイクル出来る物はする、処分場は身近にあるものは誰でもいやがると思います。でも、今の時代いやいやばかり言うてはいられないと思います。自分で出したごみは自分の所で処分するのはやむを得ない事だと思います。</p>
<p>1金、非金属に分類が必要であろうし 2セメントやれんがの原料として、お金を支払って引き取ってもらう 3排出ごみ量の減量を考える</p>
<p>家庭内の生活ごみも余り細かく分別するのは困難ですが、公害の発生しない焼却場、最新の施設(多小コストが掛っても)を作るのは当然です。</p> <p>又、余談になるが火葬場を建設する時も何れ自分自身もお世話に成る所であり、..迷惑施設として反対する事と同様で(利己的)である。</p>
<p>「残渣」は最終処分場で埋立てられるとの事ですが、そこから発ガン性などの物質が発生する事はないでしょうか。</p>
<p>新しい焼却場で今回のような問題はおこらない、あるいは軽減されるのだと思っていたので大変残念です。公害の発生が一番気になります。子育てには不安は一つでも不要です。協力できることはするべきだと思います。</p>
<p>ごみを減らす、リサイクルをすすめる活動は今以上に取り組みが必要だと思う。</p> <p>公害の問題については難しいとおもうが、できるだけ住民の気持ちを考え、初期投資がかかっても最善の施設を作って対処してほしい。</p>
<p>金額や労力ある程度考慮する必要はあると思いますが、環境や人への影響をと長期的に見た判断が第一であると考えます。</p>
<p>もっと分別して残渣を減らす。</p>
<p>焼却炉を変える時にどうせ高い金額を払うのなら、最新のものを取り入れてい今の様な分別をしなくても良いので考えるべきだったのではないかな。残渣が残るのはわかりきっている事、今頃、変、焼却炉を変える時にすでに考えることではなかったのか疑問、ごみが出ない家庭などないのだから、ごみだ問題は大事。</p>
<p>他県、他市町村に比べると分別の意識が低いと思いました。細分化された地区毎の、特に集合、賃貸住宅近辺の意識を高める事、また、指導が必要ではないでしょうか？</p>
<p>残渣の件ですが、気になるのは放射能です。放射性廃棄物は別管理するべきで最終処分場には保管しないものと考えています。</p> <p>また、数年後に最終処分場の上に人が住むことが出来るくらいに残渣を処理しておくべきです。</p> <p>ごみの分別はなるべく細かくやるべきで「混ぜればごみ、分ければ資源」です。</p>
<p>常総地区には人が住んでいないスペースが他県の市町村に比べてあると思います。(個人のう所有スペースも含めて)</p> <p>施設を作る時には、住宅の近くに建てないことを条件にすることかと思えます。いつの時代も施設を建てた後に、移り住んだ住民がクレームを入れることがほとんどです。</p> <p>排ガスや水質の被害が出ない施設であればOK。</p>
<p>先ずスラグはセメントコンクリート、アスファルト混合物の細骨材としてリサイクル可能。粒度調整が必要であるが品質試験も必要。0.074mm以下のフィルターもリサイクル可。コンクリートはあらゆる道路構造物(トンネル、橋梁、ダム、高速道路、外、コンクリートブロック、テトラポット等)</p> <p>生ごみは分別して発酵、メタンガスの家庭燃料用として利用。</p>
<p>個々にこれだけ分別にがんばっているのに残渣がどれ位出るものか実感がない。</p>
<p>ごみは自分たちが出すのだから、一人一人がきちんと責任をもって分別すべきだと思う。もっと私たち一人一人が分別することで残渣を減らすことができるならば、もっと分別をしていきたい。</p>
<p>ニュースでも家庭ごみ処理場が満杯になっているが処理場の受入れを自分のことばかり考えて、NOと云う人が私の周りにもいることは非常に悲しいことだと思う。</p> <p>みんなの話し合いの場を役所の方々はもっともっと作って欲しい。困るのは私一人ではないし市全体のことだから...</p>
<p>最終処分場とは埋立処分場を言っているのでしょうか？同じと考えてお答えしています。</p> <p>家の近くに建設される場合は、いろいろな条件が必要と考えます。(保障も含めて)</p>

<p>このたびの原発事故による放射能汚染物処理でさえ自県分の処理分でも北茨城が反対しています。もっともと思いますが、だったら他の地域になった時は賛成するのでしょうか？この際、みんなで協力し合い野積みになっているのを早く処分すべきと考えます。未来の子供たちのに負の遺産は残して行きたくない。自分が出したごみの最終的にどうなっているのか、良く考えるべきだと思います。今まで、お世話になったお礼をこめ。でも技術が発達し、無に近い状態、リサイクル出来たら良いですね。</p>
<p>放射性物質が心配。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな都市計画を定め、ごみ処理区域を設定し、設定区域内のすべての住家を移転させる。(設定区域は約20～40ha程度)(区画整理による強制移転化)</li> <li>・工業専用区域内を定め、関連使用専用による地区計画を定める。</li> </ul>
<p>むずかしい問題ですが、自分たちのごみはその地区で責任を持ち処分出来る様になれば、他の地区へ迷惑がかからなくなると思います。焼却施設等、誰も近くにあるのはイヤなものです。</p>
<p>①家の近くに来た場合の公害はないのか？(分からない)  ②圏内処分場を作った場合のメリット・デメリット(変わらない)  ③圏外の処分場に関わる費用は現在どの位なのか、また、圏内に処分場を作った場合の費用は安くなるのか、費用の削減が出来た場合、削減された費用は何に使われるのか？</p> <p>疑問が多い。もっと住民に説明する必要があると思う。</p>
<p>・ごみ処理はやはり圏外に頼らずやるべきだと思うが、いざ、その処理場が自宅の付近にできるとなると色々考えてしまいます。でも安全(色々な面で)であれば仕方ないとも思う。</p>
<p>今回のアンケートにより焼却の際に残渣が出るということ、また、その残渣が圏外へ埋立てしていることを初めて知りました。深刻なごみに対する危機管理を、貴組合のご協力のもと、地域住民が広く周知していただき、ごみに対して一人一人の意識が向上することを願います。</p>
<p>残渣の安全性(例えばダイオキシンや重金属が入っていない)ことが十分に保障されるならば、最終処分場を地域内に設けてもよいと思います。</p> <p>ただ、現状では残渣が安全なのかどうか不明なので、何とも言えません。残渣が安全であるなら、そこで広く知らせる広報活動が必要だと思います。また、残渣の安全性と定期的にチェックするしくみも必要だと思います。</p>
<p>商品化の段階で分別しやすくする工夫、リサイクル化しやすい工夫、商品化の段階、消費者の工夫、最終処分の仕方等で改善の余地はあるのでは？</p>
<p>以前、取手焼却場が近くにあったので常総広域圏外にしてほしい。</p>
<p>最終処分場も一つの市町村が場所を提供するのではなく、それぞれの市町村が自分の市町村の残渣を埋立処分の場所を考えたら良いのでは？</p>
<p>ごみを出さない！これが基本 もっと一人一人がごみ対策に意識を持つべき。</p> <p>ごみの処分場がなかったら、あなたの家はごみ屋敷、ごみの町ですよ。自分がよければいい！でなく、子供たちの未来、町の未来、地域の未来、市の未来、県の未来、国の未来、世界の未来を考えてほしい！</p>
<p>現実的にごみは必ずどここの過程でも出されるものでその量は計り知れないほどです。施設や処分場の建設は行政側である程度は強制的な部分も必要かと思います。</p> <p>何事も全員が賛成する事はあり得ないので、説得するより他に法歩はないのではないかと思います。</p>
<p>不公平ではいけないと思うが、いざ、家の近くとなると思いがぶれる。</p>

地域内の最終処分場のあり方に関するアンケート  
調査結果

<守谷市>

## 【結 果】

地域内の最終処分場のあり方に関するアンケートの結果は、構成4市の2,000名中、790名の回答があり、守谷市では500名中、193名、38.6%の回答があった。

単純集計において、回答者の属性としては、男女別では共に50%程度で、年代別では、60歳代以上の方々からの回答が最も多く、次いで40歳代、30歳代であった。

回答の傾向としては、常総環境センターがどこの市にあるのか、また、焼却後にスラグ、飛灰固化物や溶融不適物の残渣が残ることについては、77~88%程度の方が理解されていたが、これらの残渣がどこで処分されているかまでを知っている方は9%程度にとどまった。

また、スラグ、飛灰固化物や溶融不適物のリサイクルまたは埋立処分についての処理方法としては、全量または一部を合わせると92%程度の方がリサイクルするを選択されたが、一方で、「自分たちの最終処分場は必要」を63%程度の方が選択された。最終処分場を必要と思う方は複数回答でその理由として、86%程度が、「自分たちの地域内での処分が必要」、33%程度が「受入れを拒まれる可能性がある」と回答された。

「最終処分場を必要と思わない」を選択された方が複数回答で必要と思わない理由としては、47%程度が「リサイクルするので埋め立てるものがない」を、35%程度が「費用を払って常総広域圏外に埋め立てた方がよい」と回答された。

最終処分場などの施設が家の近くに建設される場合の受入れについては、「わからない」が最も多かったものの28%程度の方が受入れることができるとの回答であった。一方、受入れることができない理由としては複数回答で、排ガスや水質被害の公害面を理由に挙げたのが多かった。

ここで、常総環境センターや残渣に関する住民の理解度をはじめ、スラグ、飛灰固化物や溶融不適物のリサイクル、埋立処分とする選択肢等について多面的な意向を分析するため、クロス集計を試みた。

常総環境センター及び残渣の知名度は、全体の8.8%にとどまった。次に、スラグ、飛灰固化物や溶融不適物の残渣が残ることを理解されていた方を抽出したところ、全量または一部をリサイクルすると答えた方は約69%に上った。また、リサイクルを重視、優先と答えた方にも最終処分場は必要と答える方が約39%に上った。一方で、「リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする」を選択された中にも約19%の方が「最終処分場は必要」を選択された。さらに、全量または一部をリサイクルすると答えた方も含め、家の近くにごみ処理施設が建設される場合の反応としては、「わからない」が約40%を占めたが、約31%の方が「受け入れられない」であったが、約28%の方が「受け入れることができる」と答えられた。

最後に、自由意見では、他市とほぼ同様に、自区内処理に係る意見をはじめ、建設場所に係るもの、公害に係るもの、リサイクルに係るもの、情報発信の意見等、幅広い意見が示された。

## 単純集計

## 問1 あなたの性別は？(1つに○)

	回答数	構成比
(1) 男	95	49.2%
(2) 女	97	50.3%
無回答	1	0.5%
計	193	100.0%

回答者は、男女別では、男性49.2%、女性50.3%でほぼ同じ割合であった。

## 問2 あなたの年齢は？(1つに○)

	回答数	構成比
(1) 20～29歳	26	13.5%
(2) 30～39歳	34	17.6%
(3) 40～49歳	44	22.8%
(4) 50～59歳	26	13.5%
(5) 60～69歳	46	23.8%
(6) 70歳以上	17	8.8%
無回答	0	0.0%
計	193	100.0%

年代別では、60～69歳が23.8%で最も多く、次いで40～49歳が22.8%、30～39歳が17.6%で、70歳以上を除き、10%以上の回答があった。

## 問4 家庭から出された可燃ごみは、常総環境センターで焼却していますが、常総環境センターは、どこの市にあるかご存知でしたか？(1つに○)

	回答数	構成比
(1) はい	167	86.5%
(2) いいえ	25	13.0%
無回答	1	0.5%
計	193	100.0%

常総環境センターが守谷市に所在していることは、86.5%の住民が理解していた。

## 問5 最初に書きましたように、可燃ごみ等は焼却された後、最終的に灰などの「残渣」が残ることはご存知でしたか。(1つに○)

	回答数	構成比
(1) はい	148	76.7%
(2) いいえ	44	22.8%
無回答	1	0.5%
計	193	100.0%

ごみが焼却された後に灰などの残渣が発生することは、76.7%の住民が理解していた。

問6 現在、灰などの「残渣」はどこで処分されているか、ご存知でしたか？(1つに○)

		回答数	構成比
(1)	はい	17	8.8%
(2)	いいえ	175	90.7%
	無回答	1	0.5%
	計	193	100.0%

灰などの残渣の最終処分先を理解していた住民は、8.8%にとどまり、90.7%の住民に知られていなかった。

問7 「残渣」がリサイクルできるのであれば、現在行っている埋立処分費以上の費用をかけてもリサイクルする方がよいと思いますか、それとも埋立処分が適切であると思いますか？(1つに○)

		回答数	構成比
(1)	リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする	41	21.2%
(2)	埋立処分する	15	7.8%
(3)	リサイクル費用に応じて可能な部分をリサイクルする	136	70.5%
	無回答	1	0.5%
	計	193	100.0%

灰などの残渣のリサイクルは、費用に関わらず「全量リサイクルする」と答えた方は21.2%、「費用に応じて可能な部分をリサイクル」と答えた方が70.5%であった。一定額の範囲で可能な量はリサイクルすると答えた方が最も多く、「埋立処分」と答えた方は7.8%であった。

問8 問7で「1. リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする」と答えた方も含めて全ての方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場は必要と思いますか？(1つに○)

		回答数	構成比
(1)	必要と思う	122	63.2%
(2)	必要と思わない	17	8.8%
(3)	わからない	40	20.7%
	無回答	14	7.3%
	計	193	100.0%

圏域内に自分たちの最終処分場が「必要と思う」と答えた方が63.2%で最も多く、次いで「わからない」と答えた方が20.7%、「必要と思わない」と答えた方が8.8%であった。

問9 問8で「1. 必要と思う」とお答えになった方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場を必要と思う理由は何ですか？(○はいくつでも)

	回答数	割合
(1) 自分たちの地域内での処分が必要	104	85.2%
(2) 最終処分場に支払う費用が高額となる	12	9.8%
(3) 受入れが拒まれる可能性がある	40	32.8%
(4) その他	10	8.2%
無回答	0	0.0%
計	166	136.1%

最終処分場を必要と思う方はその理由として、「自分たちの地域内で処分することが必要」と答えた方が85.2%で最も多く、次いで「受け入れを拒まれる可能性がある」と答えた方が32.8%であった。

問10 問8で「2. 必要と思わない」とお答えになった方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場を必要と思わない理由は何ですか？(○はいくつでも)

	回答数	割合
(1) リサイクルするので埋め立てるものがない	8	47.1%
(2) 迷惑施設なのでなくてもよい	2	11.8%
(3) 費用を払って常総広域圏外に埋め立てた方がよい	6	35.3%
(4) その他	2	11.8%
無回答	1	5.9%
計	19	111.8%

最終処分場を必要と思わない方はその理由として、「リサイクルするので埋め立てるものがない」が47.1%で最も多く、次いで「費用を払って圏外に埋め立てた方がよい」が35.3%であった。

問11 家庭から出されるごみの焼却施設や最終処分場が、家の近くに建設されるとなる場合、受け入れることができますか？(1つに○)

	回答数	構成比
(1) 受け入れることができる	53	27.5%
(2) 受け入れることができない	60	31.1%
(3) わからない	78	40.4%
無回答	2	1.0%
計	193	100.0%

焼却施設や最終処分場が家の近くへ作られることについては、「わからない」と答えた方が40.4%で最も多く、次いで「受け入れられない」と答えた方が31.1%、「受け入れることができる」と答えた方は27.5%であった。

問12 問11で「2. 受け入れることができない」とお答えになった方にお聞きします。家庭から出されるごみの焼却施設や最終処分場が、家の近くに建設される場合、受け入れることができない理由は何ですか？（○はいくつでも）

	回答数	割合
(1) 景観が悪くなる	14	23.3%
(2) 排ガスや水質の被害が出る	49	81.7%
(3) 汚いなどの悪いうわさがたつ	11	18.3%
(4) その他	10	16.7%
無回答	1	1.7%
計	85	141.7%

焼却施設や最終処分場が家の近くへ作られることが受け入れられない理由としては、「排ガスや水質の被害が出る」と答えた方が81.7%で最も多く、次いで、「景観が悪くなる」が23.3%、「汚いなどの悪いうわさがたつ」が18.3%であった。

問13 ごみ処理やリサイクルに関するあなたのご意見・ご要望などがありましたらお聞かせください。

自由記述集計表参照

問9、問10、問12の設問でその他を選択された方の記述集計表

設問	問9	問10	問12
その他を選択した方の回答 (守谷市)	問8で「1. 必要と思う」とお答えになった方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場を必要と思う理由は何ですか？	問8で「2. 必要と思わない」とお答えになった方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場を必要と思わない理由は何ですか？	問11で「2. 受け入れることができない」とお答えになった方にお聞きします。家庭から出されるごみの焼却施設や最終処分場が、家の近くに建設されるとなる場合、受け入れることができない理由は何ですか？
	自分たちが排出したものに責任を持つべきだと思う。他に依存してはいけない。		現在の焼却施設が既に家の近くにあるため、広域圏内で公平にごみに責任を持つべき
	他の地域が犠牲になればいいという考え方は争いのもと		
	自分たちで出したごみの処分は最終まで自分たちで行うべき		
			守谷市には焼却施設があり、常総・取手・つくばみらいのごみを処理していますので、処分場は守谷市を除く3市のどこかに造るべきです。
			家の近くに最終処分場用地が見当たらないため
			処分場へ運ぶトラック等の排ガス・騒音・振動が出る
			不動産価値の下落
	他の自治体からのごみを受け入れることで市の収益につながり、また市民雇用促進にもつながると思います。		
	自分の物は自分で解決することが大切		
	自分の所で出したごみは地元で処分すべき		
		もっと広い地域をカバーする大規模な処理場を作った方がよい	
		そんなに土地がない	
	人が住むには自給自足が原則であると思う。他に頼るのは良くない。		
			交通の便の良い都市・住宅密集地に造るメリットがない
	自分の出したごみは自分たちエリアでの処分が必要		
	雇用ができる		他にまだ土地がある
		風評被害や悪臭など	
		問12の状況にならないようにする	
		子供が心配です	
最終的に自分に返ってくると思えば、無駄を減らしごみを少なくしようとするはず			

クロス集計表

「問4 家庭から出された可燃ごみは、常総環境センターで焼却していますが、常総環境センターは、どこの市にあるかご存知でしたか？(1つに○)」と「問6 現在、灰などの「残渣」はどこで処分されているか、ご存知でしたか？(1つに○)」の関係

		家庭から出された可燃ごみは、常総環境センターで焼却していますが、常総環境センターは、どこの市にあるかご存知でしたか？							
知こ現 でで在 し処、 た分灰 かさな かさな れど ての い「 る残 か渣 、」 ごは 存ど	選択項目	総計		はい		いいえ		無回答	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
	はい	17	8.8%	17	8.8%	0	0.0%	0	0.0%
	いいえ	175	90.7%	149	77.2%	25	13.0%	1	0.5%
	無回答	1	0.5%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%
	合計	193	100.0%	167	86.5%	25	13.0%	1	0.5%

「問5 最初に書きましたように、可燃ごみ等は焼却された後、最終的に灰などの「残渣」が残ることはご存知でしたか。(1つに○)」と「問7 「残渣」がリサイクルできるのであれば、現在行っている埋立処分費以上の費用をかけてもリサイクルする方がよいと思いますか、それとも埋立処分が適切であると思いますか？(1つに○)」の関係

		最初に書きましたように、可燃ごみ等は焼却された後、最終的に灰などの「残渣」が残ることはご存知でしたか。							
処イ行 分クつ がル残 適すい 「 切るる で方埋 あが立 るよ処 ると分 といク 思と費 い思以 ま上 すの かす か費用 、を そか れれば とて、 もも現 埋リ在 立サ	選択項目	総計		はい		いいえ		無回答	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
	リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする	41	21.2%	33	17.1%	8	4.1%	0	0.0%
	埋立処分する	15	7.8%	13	6.7%	2	1.0%	0	0.0%
	リサイクル費用に応じて可能な部分をリサイクルする	136	70.5%	101	52.3%	34	17.6%	1	0.5%
	無回答	1	0.5%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%
	合計	193	100.0%	148	76.7%	44	22.8%	1	0.5%

「問7「残渣」がリサイクルできるのであれば、現在行っている埋立処分費以上の費用をかけてもリサイクルする方がよいと思いますか、それとも埋立処分が適切であると思いますか？(1つに○)」と「問8 問7で「1. リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする」と答えた方も含めて全ての方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場は必要と思いますか？(1つに○)」の関係

		「残渣」がリサイクルできるのであれば、現在行っている埋立処分費以上の費用をかけてもリサイクルする方がよいと思いますか、それとも埋立処分が適切であると思いますか？									
はち全 必の地 要の方 地思 域に 方にお 思ま い分 ます かた ？ち の最 終 処 分 場 た	選択項目	総計		リサイクル費用 が高額でも全量 リサイクルする		埋立処分する		リサイクル費用 に応じて可能な 部分をリサイク ルする		無回答	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
	必要と思う	122	63.2%	36	18.7%	10	5.2%	76	39.4%	0	0.0%
	必要と思わない	17	8.8%	3	1.6%	4	2.1%	10	5.2%	0	0.0%
	わからない	40	20.7%	2	1.0%	0	0.0%	38	19.7%	0	0.0%
	無回答	14	7.3%	0	0.0%	1	0.5%	12	6.2%	1	0.5%
	合計	193	100.0%	41	21.2%	15	7.8%	136	70.5%	1	0.5%

「問8 問7で「1. リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする」と答えた方も含めて全ての方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場は必要と思いますか？(1つに○)」と「問11 家庭から出されるごみの焼却施設や最終処分場が、家の近くに建設されるとなる場合、受け入れることができますか？(1つに○)」の関係

		問7で「1. リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする」と答えた方も含めて全ての方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場は必要と思いますか？									
場処家 合分庭 、場か 受がら け、出 入家さ れられ る近 くご とにみ が建 設焼 き却 され ます か ？ と な る 最 終	選択項目	総計		必要と思う		必要と思わない		わからない		無回答	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
	受け入れることができる	53	27.5%	47	38.5%	1	5.9%	2	5.0%	3	21.4%
	受け入れることができない	60	31.1%	21	17.2%	16	94.1%	19	47.5%	4	28.6%
	わからない	78	40.4%	52	42.6%	0	0.0%	19	47.5%	7	50.0%
	無回答	2	1.0%	2	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	合計	193	100.0%	122	100.0%	17	100.0%	40	100.0%	14	100.0%

## 最終処分場アンケート調査 問13自由記述 集計表

<p>残渣がどんなものかわからない。</p> <p>半世紀以上、煙突からの煙と時に匂いを感じて生活しています。広域処理すべき「ごみ」がなぜ、こんなに長い間同じ所に一箇所に集中して焼却しなくてはいけないのか疑問は消えません。次の焼却施設は守谷以外に建設してほしいと強く思っています。</p> <p>また、家庭での分別は当然の義務であると思いますし、できればリサイクル率をさらに高めていただきたいと思っています。H24年度からの分別には心から賛成しています。本当に長間が経過したものです。生ごみの堆肥化もさらに拡大し全域に広げていただきたいと思っています。その際の施設も守谷に固定することなく生ごみは各自治体というような考え方もあるのではないのでしょうか？</p> <p>今回のアンケートの目的である「最終処分場」については、広域圏内で守谷以外の3市に設置すべきと思います。(3市で公平な持ち回り式にしてもよいと思います。)</p> <p>みんなで自分たちの生活から排出されたものを身近に感じ最後まで責任を持つべきです。</p> <p>焼却施設、最終処分場の具体的なイメージがないと近所に受入可能か判断できない。美観、周囲環境への放出物等が、がまん出来る範囲のものなら、そして、それが他地域への依頼するより(できるとして)経済的であるなら、施設を受け入れてもよいと思う。ただし、その決定過程がオープンであること。</p> <p>問7の費用について具体的なレベルだ不明なので判断し難い。</p> <p>自己責任意識をもっと持つべき。その為、分別の徹底、リサイクル(残渣)を進める事が必要。高額負担もやむをえない。</p> <p>守谷市は住民税が高めの場所ですし、その分、リサイクル関係の開発、研究をつくば市と協力して行えばいいのではないのでしょうか。</p> <p>開発された良いものは後々、特許とるなり国に売るなりして日本中に貢献できるような市になってほしいです。もちろん、住民としての協力は惜しみません。素人意見ですいません。</p> <p>この狭い日本国土の中で自分で出したごみは最後まで自分たちで処分するという気持ちが大事です。他の所に迷惑をかけてはいけない、誰でも自分の家の近くに建設されるとなると反対する人々の姿をよく目にするが身勝手すぎる。</p> <p>・各市で出たごみの残渣を自分の市に埋める等の最終処分は必要。但し、各市のごみの量を把握する事は困難と思われる為、最終処分についての取り決めが必要と思う。</p> <p>守谷市に有る常総環境センターで焼却するのであれば、煙等の環境への影響が考えられる為、最終処分に対する守谷市の割合は少なくする等の配慮が必要。それが出来ないのであれば各市で焼却すべき、基本的には他で受け入れてもらえる場合は他に依頼する方がよい。多小お金がかかっても納得する人が多いと思う。</p> <p>ごみ処理が今後の環境問題に置いて重大なことと思います。最終処分を何処にするか誰でも迷うと思います。願わくは今の原発問題のように事が起きてから想定外とか、遺憾に思うと、軽く扱わず最善の処置を願ってほしい。</p> <p>ごみは生活している限り、無くなるものではない。昨年の震災で発生したごみも含め、安全が確保されることが保証されれば、迷惑な物と言わずそれぞれが身に置きかえてみて負担は分かち合う世の中が当然であってほしい。</p> <p>自分たちのごみは他市町村に迷惑をかけず住まい近くで処分するのが、理想の姿だと思います。</p> <p>ごみの分別がごみ処理に大きく役立っているとは思えない。例えば、不燃、可燃の別ではごみ焼却(燃焼)には不必要と考えられる。その他の不燃ごみ、石材、鋼材などは違うと思われる。分別の仕方に考慮すべきである。</p> <p>現在、行っているリサイクル(資源ごみ)の様に手間がかかるものでは実行性がなくなってしまうだろう。いずれにしてもごみ処理は今後も大きなものとなってしまおうと考えられるので最適な方法を構築すべきであると思う。最後にごみは自分の問題であり自分の地域内で処分することは皆賛同すべきだ。</p> <p>リサイクルの効果が出てきているのかどうか、何か具体的にわかるように分別、リサイクルの効果について市民に情報発信してほしい。</p> <p>最終処分場問題は1地区1市町村の単位で考えないで、国として考えるべきものであると思います。(例えば、東京都が実施している東京湾の埋立地を確保する等)国に働きかけをすべきと思います。</p> <p>自分たちの出したごみは自分たちの地域で処分するのが当たり前 出すだけ出すが処分は嫌や、これは道義上、権利と義務を忘れてる。自分勝手の主張だけでなく自分たちの義務も忘れず、それを指導しとうて。</p> <p>残渣がなぜでるのか？調査が必要と思う。それからまたアンケート等で是非を問う。残渣を調査すると時に専門分野の担当者に依頼する。</p>
--

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全量リサイクルが良いと思いますが、どのような手段や方法ができるのか全くわかりません。(バイオとか建築資材とか)技術的な問題があります。</li> <li>・先ずどのような方式があり、設備はどのような形となり、住環境にどのような影響があるのかをお示し願いたい。</li> <li>・費用面では、国、県、4市、住民等幅広く分担を求めることになると思いますが費用対効果も大切なことと思えますし、今後はある程度の情報が不可欠と思えます。将来に対して心配をあおるだけです。</li> </ul>
<p>1海岸線に接する市町村以外、全国的に共通の課題である。議員は市町村を視察しているが、他の地域はどのように処理されているか情報を公開してほしい。</p> <p>2リサイクル方法として残渣は道路敷くコンクリートなどに出来ないか検討したらどうか。</p> <p>3費用が高額でも景観が悪くなるのであれば他の地域の引き受けを検討すべき</p>
<p>焼却施設や最終処分場が圏内にあろうと圏外にあろうと排ガスや水質汚濁等のすべての公害を惹起することは厳に避けるべき。完全に無公害でリサイクルできるのであれば圏内であろうと圏外であろうとこだわりはない。行政としては圏内外の一般市民生活の安心安全を担保する姿勢が肝要。</p>
<p>リサイクル費用が高額でも今後リサイクルは必要となっていくでしょう。我々の世代でなく、将来を見据え自分で出したごみは自分の地域で、という責任意識があっても良いと思う。</p> <p>これから育ってゆく子供達のために環境を整えていきたいと思う。</p>
<p>現在、自分たちの年齢では細かいごみの分別は可能ですがお年寄りのひとり暮らしの方などは大変なようです。</p> <p>家庭で出るごみの処分については、理想を申しますと自分たちが出したごみは自分たちの地域で責任を持つという事なのだと思います。</p> <p>景観を工夫し排ガスや水質の被害が出ないようにするなどしてできれば他に持っていくのではなく、自分たちの地域でできたらと思います。</p> <p>ごみの出し方についてもマナーが守られていない事も多く感じます。地域の皆さんでもっと話し合いができれば良いかと思えます。</p>
<p>最終処分場は自分たちの地域内に建設する場合でも宅地近辺でない方がよいと思う。</p> <p>残渣(HP参照しました。H24. 12.29)＝放射性物質であるということが記載されていないのはアンケートとして不公平なのではないでしょうか？</p> <p>次に何をしたいのか？ということが大体想像できます。→放射性物質を含んだ「灰」の最終処分場を作ろうということと想像できます。</p>
<p>常総環境センターは守谷市にあります。4つの市がここを利用しているので最終処分場は必ずしも守谷市と決めるのではなく、利用している4つの市が場所を検討していただいて最終的に決まった場所で受け入れるのはどうでしょうか？不可能ですか？</p>
<p>リサイクルの技術開発(コスト削減含め)を支援することも必要なのではないか。</p> <p>環境保全、資源の有効活用の為にもリサイクル可能なごみは極力リサイクルすべきと考える。ごみの分別収集を可能な限り推進願いたい。しかしながら残渣は必ず生じるのでその最終処分は自前で行うべきと考える。住民の意識改革に努力願いたい。</p>
<p>最終処分場は必要不可欠なもの。ただ出来れば近くにあってほしくないもの。これが世間一般の気持ちだと思います。であればこそ自分たちの場域内での処分が原則、妥当だと思います。</p> <p>環境アセスメントを十二分に行うことなど大方が納得できる適地があるのであれば受け入れるべきではないかと思えます。</p>
<p>現在の温度より上げて灰を少なくなるようにお願いしたい。</p> <p>地球を大切に。自分の物は自分で処理する。この考え方がおすすめです。</p>
<p>どうしても自分たちの地域で自分たちの最終処分場を作らなければならなくなったら広域でなく守谷市は守谷市で処分、リサイクル、埋立処分をするようにして欲しい。(広域を受け入れることで守谷にできた。常総の様々な施設など絶対にいらぬ。施設を利用する守谷市民はごくごく一部の人だと思う。我が近所でも多忙で利湯しない人がほとんどである。有料のジョイフルを利用する人が多数である。</p>
<p>最終処分場にしても継続的に安全性が確保されることがきちんと担保されなければ地域住民は不安。責任感を作るからには2重3重の安全対策を確保して自然や住みやすい地域を未来に残さなければならぬと思えます。</p>
<p>最終処分まで責任をその地区内でおうのは、どこの場所でも同じだと思うので、デメリットはあってもそうすべき。</p>
<p>今でも分別は大変、しかし、毎日出るごみ何とかしなければならぬのも事実です。何とかリサイクルする方法ですこしでも減らせる事を願います。</p>
<p>各家庭の努力によってごみが減らせるのであれば今以上に手間がかかっても分別を細分化する必要があると分別は今程度で良い。</p>
<p>処分場云々は自分で出したごみは自分で処理すべきと思うので近くに処分場があっても構わない。</p>
<p>市の財政の悪いところは、焼却施設や処分場を作り、まわりの市町村はごみ量に合うお金を出すといいと思えます。</p>

<p>自分さえよければ良いという人が多く悲しいです。 ごみ処理場も景観が良く焼却熱でスパセンターを作ったりすれば役に立つ。火葬場等も同様で人間生まれて死ぬまで施設は必要なのだから受け入れなければならぬと思います。</p>
<p>常総市、取手市、つくばみらい市にお願い致します(常総環境センターあり) 住所は取手でも、やすらぎ苑の例もある。</p>
<p>自分たちが出したごみは基本的に地域内で最終処分まで行う事が責任だと思う。ただ、処分場付近の環境が悪くなる事には反対である。</p>
<p>可燃、不燃のごみ袋が大変使いづらくて困っています。友人同士でも同じ意見がでます。改良して欲しいと思います。できれば、以前に戻してほしいです。 また、最終処分場は守谷市野木崎以外にお願いします。第1次～第3次まで焼却してこれ以上は孫たちの代まで不公平です。</p>
<p>分別は必要性を理解してなれるだけなので分別した場合のメリットを十分に周知させる必要があると思います。また、最終処理施設は、住宅地から離し、現在利用されていない土地をさがしてみる。雇用は必ず当該地域から行う。</p>
<p>ごみ問題は昔からの課題です。東京都は江戸時代から問題を先送りした結果、埋立地がなくなりそうな状況で、今回のアンケートのような問題が社会問題になるのは近いことだと思います。「汚い」のは皆、嫌なのは解りますが将来に先送りする様なことは出来る限りなくすべきだと思います。お金よりも環境を大切にしたい案を実行することを希望します。</p>
<p>もっと分別をし、出来るだけ処分費用を高額にならないように家庭から出す時に対策をする。</p>
<p>自区内処理は原則と思います。立地と周辺環境へ配慮の上で設定すべきだと思います。</p>
<p>最終処分場はどの地方にも頭をかかえている問題ですね。自分たちで出したごみは自分たちの地域で処理を考えないといけなと思います。常総地域も広いですし、住んでいる人の影響にない所とかはないんでしょうか・・・牛久市のように・・・。ごくろうさまです。</p>
<p>常総地区は守谷市のみでのごみ処理場で守谷市の負担が大きい。常総地区で分担しながら処分場は必要。また、現状の最終処分場はどこにどれだけあるんでしょうか。</p>
<p>どうせ処分場を作るなら、最先端の物を作りましょう。対外的に(マスメディア)に大きく発表しましょう。</p>
<p>残渣のリサイクルにどのようなものがあるのか知りたかったです。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・常総環境センターの近い所に住んでいるので、最終処分場ができるのであれば他の市に作ってほしい。焼却も最終処分場も同じ市では不公平だと思う。できないのなら各市がそれぞれにその2つの施設を作るべきだ。</li> <li>・原発事故以来、焼却場のごみについても気になっている。取手や守谷は県内でも放射能線量が高い所なのにそのごみが1ヶ所で焼却しているのが大丈夫なのだろうか。ちゃんとルールは守られているのか。(ちなみに守谷市の放射能に対する考え方はビックリする程あまい)</li> <li>・プラ容器の分別について「きれいにして」出すことになっているが、その基準(どの位きれいにすれば良いの)が分からない。</li> </ul>
<p>分別しているが実施どこまでリサイクルなど活用されているかが分からないので実態を明確にした上で決めてごみ処理場が新しくなってから分別が増え、ごみ箱も増やさなくてはならなくなり大変です。キッチンがごみ箱でいっぱいです。 他の市では、分別は少なくほとんど焼却できると聞きました。常総広域では分別が大変な処理場にしたのですか？</p>
<p>末代の子孫のことを考えると、環境を守ることは大切だと思います。環境を守る為には、コストがかかるのは当然です。自分たちで出したごみは、自分たちでお金を支払い、リサイクルできるようにしてほしいです。埋立処分して後の代に迷惑かけるのは悲しいです。 ごみの分別も全ての人に徹底するのは難しいです。 中国でペットボトルがポイントカードでポイントになる機械を設置することで環境を守るニュースを最近見ました。日本もそうしたらいいのになと思います。</p>
<p>1ごみ分別及びリサイクルを強化した後の変化は、どの様な状況か見えていない。(環境、費用等がどうなのか？)</p>
<p>ごみ処理やリサイクル、残渣の最終処分場など幅広い意味での安全性やメリット、デメリットなどが分かりやすく説明して頂けたらと思います。知識がないため、判断材料がなくお答えできない間がいくつかあります。 市民住民に分かりやすく伝えられる場をもっと提供してほしいです。</p>
<p>残渣を減らすことができ、環境のため、また自治体のために役に立てるのであれば、さらなる分別など、家庭でできることの協力は惜しまないつもりでいます。</p>
<p>現在の埋立地はどんな場所にあるのか？住宅地の近くに建てても人体に影響はないのか？具体的な説明が不十分だと思う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・問12の質問(アンケート)記述の方法が大変おかしいです。最終処分場の設置方法で悪い印象のみ誇張しています！</li> <li>・分別がこまかすぎます！設備の改良等で人的労力をカバーする様にすべきです。(健全な投資です)</li> </ul>
<p>地域内での処分と思うが、一番に公害発生が心配です。</p>

<p>自然が比較的豊かな守谷の自然が壊れてしまわないよう、水質汚染等人体健康被害のない様、願います。</p>
<p>ごみ処理問題は自治体にとってとても大きな課題だと思うので、市民一人一人の意識改革が必要だと思う。しかし、問11では2を選択してしまう現実にジレンマを感じています。</p>
<p>公害の発生が心配</p>
<p>残渣を地域内で処分することになった場合、焼却場は守谷にあるけど、処分場は他3市にも同じように処分し平等にしてほしいです。</p>

地域内の最終処分場のあり方に関するアンケート  
調査結果

<つくばみらい市>

## 【結果】

地域内の最終処分場のあり方に関するアンケートの結果は、構成4市の2,000名中、790名の回答があり、守谷市では500名中、203名、40.6%の回答があった。

単純集計において、回答者の属性としては、男女別では男性約55%、女性約44%で、年代別では、60歳代が約25%、次いで70歳以上の方々であった。

回答の傾向としては、常総環境センターがどこの市にあるのか、また、焼却後にスラグ、飛灰固化物や溶融不適物の残渣が残ることについては、75%程度の方が理解されていたが、これらの残渣がどこで処分されているかまでを知っている方は7%程度にとどまった。

また、スラグ、飛灰固化物や溶融不適物のリサイクルまたは埋立処分についての処理方法としては、全量または一部を合わせると93%程度の方がリサイクルするを選択されたが、一方で、「自分たちの最終処分場は必要」を61%程度の方が選択された。最終処分場を必要と思う方は複数回答でその理由として、75%が「自分たちの地域内での処分が必要」を、29%が「受入れを拒まれる可能性がある」と回答された。

「最終処分場を必要と思わない」を選択された方が複数回答で必要と思わない理由としては、46%程度が「費用を払って常総広域圏外に埋め立てた方がよい」を、29%程度が「リサイクルするので埋め立てるものがない」と回答された。

最終処分場などの施設が家の近くに建設される場合の受入れについては、「わからない」が最も多かったものの25%程度の方が受入れることができるとの回答であった。一方、受入れることができない理由としては複数回答で、排ガスや水質被害の公害面を理由に挙げたのが多かった。

ここで、常総環境センターや残渣に関する住民の理解度をはじめ、スラグ、飛灰固化物や溶融不適物のリサイクル、埋立処分とする選択肢等について多面的な意向を分析するため、クロス集計を試みた。

常総環境センター及び残渣の知名度は、全体の6.9%にとどまった。次に、スラグ、飛灰固化物や溶融不適物の残渣が残ることを理解されていた方を抽出したところ、全量または一部をリサイクルすると答えた方は約68%に上った。また、リサイクルを重視、優先と答えた方にも最終処分場は必要と答える方が約45%に上った。一方で、「リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする」を選択された中にも約12%の方が「最終処分場は必要」を選択された。さらに、全量または一部をリサイクルすると答えた方も含め、家の近くにごみ処理施設が建設される場合の反応としては、「わからない」が約45%を占め、約30%の方が「受け入れられない」であったが、約25%の方が「受け入れることができる」と答えられた。

最後に、自由意見では、他市とほぼ同様に、自区内(地域内)処理に係る意見をはじめ、建設場所に係るもの、公害に係るもの、リサイクルに係る意見等、幅広い意見が示された。

## 単純集計

## 問1 あなたの性別は？(1つに○)

	回答数	構成比
(1) 男	90	44.3%
(2) 女	111	54.7%
無回答	2	1.0%
計	203	100.0%

回答者は、男女別では、男性44.3%、女性54.7%で女性からの回答が多かった。

## 問2 あなたの年齢は？(1つに○)

	回答数	構成比
(1) 20～29歳	24	11.8%
(2) 30～39歳	27	13.3%
(3) 40～49歳	31	15.3%
(4) 50～59歳	32	15.8%
(5) 60～69歳	51	25.1%
(6) 70歳以上	37	18.2%
無回答	1	0.5%
計	203	100.0%

年代別では、60～69歳が25.1%で最も多く、次いで70歳以上が18.2%、50～59歳が15.8%で、各年代とも10%以上の回答があった。

## 問4 家庭から出された可燃ごみは、常総環境センターで焼却していますが、常総環境センターは、どこの市にあるかご存知でしたか？(1つに○)

	回答数	構成比
(1) はい	153	75.4%
(2) いいえ	47	23.2%
無回答	3	1.5%
計	203	100.0%

常総環境センターが守谷市に所在していることは、75.4%の住民が理解していた。

## 問5 最初に書きましたように、可燃ごみ等は焼却された後、最終的に灰などの「残渣」が残ることはご存知でしたか。(1つに○)

	回答数	構成比
(1) はい	152	74.9%
(2) いいえ	51	25.1%
無回答	0	0.0%
計	203	100.0%

ごみが焼却された後に灰などの残渣が発生することは、74.9%の住民が理解していた。

問6 現在、灰などの「残渣」はどこで処分されているか、ご存知でしたか？(1つに○)

		回答数	構成比
(1)	はい	15	7.4%
(2)	いいえ	185	91.1%
	無回答	3	1.5%
	計	203	100.0%

灰などの残渣の最終処分先を理解していた住民は、7.4%にとどまり、91.1%の住民に知られていなかった。

問7 「残渣」がリサイクルできるのであれば、現在行っている埋立処分費以上の費用をかけてもリサイクルする方がよいと思いますか、それとも埋立処分が適切であると思いますか？(1つに○)

		回答数	構成比
(1)	リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする	32	15.8%
(2)	埋立処分する	14	6.9%
(3)	リサイクル費用に応じて可能な部分をリサイクルする	156	76.8%
	無回答	1	0.5%
	計	203	100.0%

灰などの残渣のリサイクルは、費用に関わらず「全量リサイクルする」と答えた方は15.8%、「費用に応じて可能な部分をリサイクル」と答えた方が76.8%であった。一定額の範囲で可能な量はリサイクルすると答えた方が最も多く、「埋立処分」と答えた方は6.9%であった。

問8 問7で「1. リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする」と答えた方も含めて全ての方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場は必要だと思いますか？(1つに○)

		回答数	構成比
(1)	必要と思う	124	61.1%
(2)	必要と思わない	24	11.8%
(3)	わからない	37	18.2%
	無回答	18	8.9%
	計	203	100.0%

圏域内に自分たちの最終処分場が「必要と思う」と答えた方が61.1%で最も多く、次いで「わからない」と答えた方が18.2%、「必要と思わない」と答えた方が11.8%であった。

問9 問8で「1. 必要と思う」とお答えになった方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場を必要と思う理由は何ですか？(○はいくつでも)

	回答数	割合
(1) 自分たちの地域内での処分が必要	93	75.0%
(2) 最終処分場に支払う費用が高額となる	12	9.7%
(3) 受入れが拒まれる可能性がある	36	29.0%
(4) その他	7	5.6%
無回答	5	4.0%
計	153	123.4%

最終処分場を必要と思う方はその理由として、「自分たちの地域内で処分することが必要」と答えた方が75.0%で最も多く、次いで「受け入れを拒まれる可能性がある」と答えた方が29.0%であった。

問10 問8で「2. 必要と思わない」とお答えになった方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場を必要と思わない理由は何ですか？(○はいくつでも)

	回答数	割合
(1) リサイクルするので埋め立てるものがない	7	29.2%
(2) 迷惑施設なのでなくてもよい	4	16.7%
(3) 費用を払って常総広域圏外に埋め立てた方がよい	11	45.8%
(4) その他	3	12.5%
無回答	0	0.0%
計	25	104.2%

最終処分場を必要と思わない方はその理由として、「費用を払って圏外に埋め立てた方がよい」が45.8%で最も多く、次いで「リサイクルするので埋め立てるものがない」が29.2%であった。

問11 家庭から出されるごみの焼却施設や最終処分場が、家の近くに建設される場合、受け入れることができますか？(1つに○)

	回答数	構成比
(1) 受け入れることができる	50	24.6%
(2) 受け入れることができない	61	30.0%
(3) わからない	91	44.8%
無回答	1	0.5%
計	203	100.0%

焼却施設や最終処分場が家の近くへ作られることについては、「わからない」と答えた方が44.8%で最も多く、次いで「受け入れられない」と答えた方が30.0%、「受け入れることができる」と答えた方は24.6%であった。

問12 問11で「2. 受け入れることができない」とお答えになった方にお聞きします。家庭から出されるごみの焼却施設や最終処分場が、家の近くに建設されるとなる場合、受け入れることができない理由は何ですか？（〇はいくつでも）

	回答数	割合
(1) 景観が悪くなる	18	29.5%
(2) 排ガスや水質の被害が出る	48	78.7%
(3) 汚いなどの悪いうわさがたつ	10	16.4%
(4) その他	13	21.3%
無回答	0	0.0%
計	89	145.9%

焼却施設や最終処分場が家の近くへ作られることが受け入れられない理由としては、「排ガスや水質の被害が出る」と答えた方が78.7%で最も多く、次いで、「景観が悪くなる」が29.5%、「その他」が21.3%で、「その他」の理由として、健康問題との関係、住環境、地価への影響等の回答であった。

問13 ごみ処理やリサイクルに関するあなたのご意見・ご要望などがありましたらお聞かせください。

自由記述集計表参照

問9、問10、問12の設問でその他を選択された方の記述集計表

設問	問9 問8で「1. 必要と思う」とお答えになった方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場を必要と思う理由は何ですか？	問10 問8で「2. 必要と思わない」とお答えになった方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場を必要と思わない理由は何ですか？	問12 問11で「2. 受け入れることができない」とお答えになった方にお聞きします。家庭から出されるごみの焼却施設や最終処分場が、家の近くに建設されるとなる場合、受け入れることができない理由は何ですか？
その他を選択した方の回答 (つくばみらい市)			地価が下がる可能性がある
			住宅地及びゴルフ場有
		各地が持つものではない	
		土地が余っているなら良い	
			風評被害
			家が売買しにくくなり、空き家が増える
			臭そう、うるさそう
	税金が下がる		
	コストの問題やたまる量が違うため		田んぼに害が出る可能性があるため
	自分たちで出したごみだから		道路事情の改善が必要
	土地はたくさんある		駅前なので不適切
	自分が住んでいる地域で出たごみは地域内で処理するのが当然の義務		
		処分場の場所のあるところをお願いした方がよい	
	自己責任の意識を持つ必要がある		農地への土壌汚染が心配である
			健康問題等
			健康問題に不安を感じる
		地域外処理場の能力が十分であれば建設しなくても良いと思う	
		住宅が多すぎる	
他域から受け入れて費用を徴収して財源とする			
		においが出る	

## クロス集計表

「問4 家庭から出された可燃ごみは、常総環境センターで焼却していますが、常総環境センターは、どこの市にあるかご存知でしたか？(1つに○)」と「問6 現在、灰などの「残渣」はどこで処分されているか、ご存知でしたか？(1つに○)」の関係

		家庭から出された可燃ごみは、常総環境センターで焼却していますが、常総環境センターは、どこの市にあるかご存知でしたか？							
知こ現 でで在 し処、 た分灰 かさな かさな れど ての い「 る残 か渣 、」 ごは 存ど	選択項目	総計		はい		いいえ		無回答	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
	はい	15	7.4%	14	6.9%	1	0.5%	0	0.0%
	いいえ	185	91.1%	136	67.0%	46	22.7%	3	1.5%
	無回答	3	1.5%	3	1.5%	0	0.0%	0	0.0%
	合計	203	100.0%	153	75.4%	47	23.2%	3	1.5%

「問5 最初に書きましたように、可燃ごみ等は焼却された後、最終的に灰などの「残渣」が残ることはご存知でしたか。(1つに○)」と「問7 「残渣」がリサイクルできるのであれば、現在行っている埋立処分費以上の費用をかけてもリサイクルする方がよいと思いますか、それとも埋立処分が適切であると思いますか？(1つに○)」の関係

		最初に書きましたように、可燃ごみ等は焼却された後、最終的に灰などの「残渣」が残ることはご存知でしたか。							
処イ行 分クつ残 がルて渣 適すい 切るる で方埋リ あが立サ るよ処イ ると分ク とい分ク 思と費ル い思以 まい上 すまの かす費 か用で 、を そかれ れば とて、 もも現 埋リ在 立サ	選択項目	総計		はい		いいえ		無回答	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
	リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする	32	15.8%	24	11.8%	8	3.9%	0	0.0%
	埋立処分する	14	6.9%	12	5.9%	2	1.0%	0	0.0%
	リサイクル費用に応じて可能な部分をリサイクルする	156	76.8%	115	56.7%	41	20.2%	0	0.0%
	無回答	1	0.5%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%
	合計	203	100.0%	152	74.9%	51	25.1%	0	0.0%

「問7「残渣」がリサイクルできるのであれば、現在行っている埋立処分費以上の費用をかけてもリサイクルする方がよいと思いますか、それとも埋立処分が適切であると思いますか？(1つに○)」と「問8 問7で「1. リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする」と答えた方も含めて全ての方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場は必要と思いますか？(1つに○)」の関係

		「残渣」がリサイクルできるのであれば、現在行っている埋立処分費以上の費用をかけてもリサイクルする方がよいと思いますか、それとも埋立処分が適切であると思いますか？									
はち全 必の地 要の方 地思 域に 方にお 思ま い分 ます かた ちの 最 終 処 分 場 に 自 分 た ち の 最 終 処 分 場 は 必 要 と 思 い ま す か ？ ( 1 つ に ○ ))	選択項目	総計		リサイクル費用 が高額でも全量 リサイクルする		埋立処分する		リサイクル費用 に応じて可能な 部分をリサイク ルする		無回答	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
	必要と思う	124	61.1%	24	11.8%	8	3.9%	92	45.3%	0	0.0%
	必要と思わない	24	11.8%	8	3.9%	3	1.5%	13	6.4%	0	0.0%
	わからない	37	18.2%	0	0.0%	1	0.5%	35	17.2%	1	0.5%
	無回答	18	8.9%	0	0.0%	2	1.0%	16	7.9%	0	0.0%
	合計	203	100.0%	32	15.8%	14	6.9%	156	76.8%	1	0.5%

「問8 問7で「1. リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする」と答えた方も含めて全ての方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場は必要と思いますか？(1つに○)」と「問11 家庭から出されるごみの焼却施設や最終処分場が、家の近くに建設されるとなる場合、受け入れることができますか？(1つに○)」の関係

		問7で「1. リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする」と答えた方も含めて全ての方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場は必要と思いますか？									
場処家 合分庭 、場か 受がら け、出 入家さ れられ る近 くご とに み が建 設焼 却施 設や 最終 処分 場は 必 要 と 思 い ま す か ？ ( 1 つ に ○ ))	選択項目	総計		必要と思う		必要と思わない		わからない		無回答	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
	受け入れることができる	50	24.6%	41	33.1%	2	8.3%	4	10.8%	3	16.7%
	受け入れることができない	61	30.0%	23	18.5%	22	91.7%	11	29.7%	5	27.8%
	わからない	91	44.8%	59	47.6%	0	0.0%	22	59.5%	10	55.6%
	無回答	1	0.5%	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	合計	203	100.0%	124	100.0%	24	100.0%	37	100.0%	18	100.0%

## 最終処分場アンケート調査 問13自由記述 集計表

<p>残渣処分はリサイクルの方法を考えてお願いします。</p> <p>リサイクルできるのであれば全てリサイクルするのが良いと思います。</p> <p>リサイクルコストが安くなる様すすめていただきたい。</p> <p>自分たちが出した残渣は、自分たちの地域で処理するのが基本で、他の地に依頼して自分だけ良ければ考えるのは良くない。</p> <p>なるべく衛生面も良く、お金も使わずに処理できるようにしていただきたい。</p> <p>ごみの残渣を埋め立てしているとは知らず、知識がなかったため、アンケートに答えることが難しかったです。圏内では他の地域に埋め立てしているとのことでしたが、他の茨城県内の地域ではどうしているのか、残渣のリサイクルを委託することでいくらお金がかかるのか、埋め立て地を作るとしたらいくら位かかるのか、分かるアンケートに答えやすかったかなと思います。</p> <p>・ごみの発生を抑える工夫を積極的に研究する行政が必要・・・頭の良い学者がたくさんいるのに活用されていない。</p> <p>自分のごみは自分の所で処分すべきと考えます。</p> <p>しかし、身勝手でしょうが、家の近くに処分場となるとさでどうでしょう。処分場は人家から離れた所に作ることは出来ないのでしょうか。</p> <p>自分たちの出したごみ処理は各地域とも考えるべきです。</p> <p>人間が生きていく為には避けて通れない「ごみ」の問題は永遠のテーマこれ迄からこれより多くなる一方で自分この問題に対して関心が殆んどなく今回のアンケートで初めて残渣の事を知りこれから尚一層資源回収に協力したいと思いました。問題は残渣の処理だが現在は他地域に依頼しているとの事現況はそれで凌いでいても将来は他力依存でなく自分たちで処理英知を絞って残渣の最適処分方法を考案する事が出来れば問題は解決すると思います。</p> <p>公害の発生が心配ですが、最終処分場を地域内に必要だと思う。</p> <p>・少々お金がかかってもリサイクルできるものはすべてリサイクルすることが大事。</p> <p>リサイクルと言う名のもとに、一部の利益を得ることがゆるせない。</p> <p>・分別は今の仕方よい。</p> <p>・受入れは良いと思う人は少ないと思うが、自分もいやな事はだれも好まないのではないかな。そうした場合は最終的には市でやるしかないと思う。安全に住民に害が無いように。</p> <p>最近、自己責任、自己負担の気持ちが少なくなっている気がします。(自助→共助→公助)の考え方が大切ではないでしょうか。</p> <p>当市でも最終処分場が圏外にあったこともあり関心が薄かった気がします。</p> <p>ごみを減らす政策目標を明確にし、その為の手段を消費者、生産者に展開すべきと思う。基本にごみを減らすことで費用負担が軽減するようにごみの収集料金を設定する。企業の生産コストにごみ処理費用が含まれるように国レベルでの制度を導入する。(家電リサイクル法の適用範囲をTV、PCより拡大させる。)</p> <p>広域内の休耕地(谷津田)に処分場を建設し地主に費用を払うようにすれば良いと思います。</p> <p>東京から転居してきたが、分別はとても厳密に規定され、すばらしいと思う。</p> <p>将来のことを考えると、いつかはリサイクルを推進しなければいけない日がくると思う。</p> <p>圏外の最終処分場を持つ地域から見たら、最終処分場のない常総広域圏はズルイのかもしれないが、関東、日本、地球という大きな単位で考えた時、果たして最終処分場を増やすのは適した事なのか？お金をかけてやるなら新しく作るのではなく、リサイクルすることや従来の最終処分場へ資金援助する等もっと違う考え方もあるのではないかな。</p> <p>リサイクル工場を作る。(失業対策)</p> <p>処分場ではなく将来を見越したリサイクル設備の工場を作る(失業対策にもなる)</p> <p>自分たちの事ばかり考えずに協力して行きたいです。</p> <p>あと粗大ごみは出来たら安くなりませんか。</p> <p>リサイクルには力を入れてもらいたいです。(教育も含めて)</p> <p>焼却施設は作るとなるとあまり家の近くでなく目立たない所に人家から遠い所が良いと思います。</p> <p>基本的には自分で出したごみは自分たちの地域で処理すべきで自分の嫌なものを他所に出すべきではないと思うが、質問が具体的でないのだからわからないにした。受益者負担が原則。</p> <p>どの自治体でも同じ様な対応の仕方をしないと「自分だけ」という被害者意識が必ず生まれます。</p> <p>処理についての安全性などの細かい説明を根気よく地域の住民にして行く必要がある。</p> <p>自分が生活する為のごみは自分の地域内で処分する必要がある。</p> <p>今回のアンケートで知らないことが多く、処分場とは、どの位の土地が必要で、周辺にどのような影響があるのかもわからないです。</p> <p>もっとくわしい情報があれば、もっと、きちんと考えられます。ごみの問題は個人の問題でもあり、考えなければいけない身近な問題でもあります。一人ひとりごみを意識していくことが必要と思います。</p>
---

問7の解答については、2埋立処分すると迷うところである。なぜなら、問11の解答では2番(受け入れることができない)を選んでるから。
自分たちのごみは本来自分たちと地域での処理が普通と思います。是非その方向で進めてもらいたい。
ごみ処理、リサイクルには高額費用がかかるのは仕方ないと思います。その費用は、税金から使われるのですから内訳を明確にしてほしいと思います。 リサイクルはとても大切な事だと思います。 今後も推進して戴きたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ焼却、リサイクル、埋立処分等々、処理方法は沢山ありますが、すべて徹底してほしい。</li> <li>・分別することで複合汚染の危険性が少なくなる(公害)</li> <li>・リサイクルできる物、肥料にできるもの。</li> <li>・市民一人一人、ごみの分別に協力することが大切。</li> </ul>
1問11で「受け入れることができる」と答えたのは、排ガスや水質の影響等、公害問題のない事を前提にしたものです。 2ごみ処理問題だけを考えないで、ごみがでない社会の仕組み作りを考えることが最も重要ではないですか？ 国も行政も真剣に取り組んでほしいです。分別も以前より細かくなり非常に大変です。
現状で、ごみの分別には相当なコストがかかっていると認識しています。(各家庭での労力、複数のごみ箱の準備、分別したごみの家庭内での保管場所の確保など)分別の成果がコストにも見合うものかどうか、明らかにすべく情報公開していただきたいです。具体的には、分別にかかっているコストの調査、分別後の処分方法(例えばプラスチックはどれだけリサイクルされているか)、ごみの低減量、処理費用などを明らかにし、最終処分場の要否、及び、どれだけ分別すべきか、の判断材料とすることが必要だと思います。
分別などその有効性がきちんと理解できれば意識の高い人が多いので、協力を得られると思う。
常総広域内にて住宅のない地域を早い時期に確保する。
埋立処分により異臭などの被害が出るのは不安。体に害がでるのではないかと、思うので近くには住みたくない。(特に子供がいるので)できるだけリサイクルした方がよい。
最終処分場は自分たちの土地にあるべきだと思う。常総地域にそのような土地はあるのですか？リサイクルに高額な費用がかかるとありますが、いくらなのか、まず市民に現状やシュミレーションを知らせるべきだと思う。
最終処分場(焼却施設を含む)は分別を少なくとも、高熱で処理可能な新施設とし、水質、公害の出ない処理場、場所は人里の少ない所とする。他の市町村に任せるのでは決してはない。 自分の市は(市民の雇用も生まれ)私たちが処理することが大切に思います。責任を持つことが重要であります。
最終処分場がない事は知っていました。私自身ができる事はきちんと分別を行って出す事だと思います。分別が多すぎて台所が狭くなり、大変ですがこれからも続けていきます。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「残渣」をなるべく少なくする方法はないのですか？</li> <li>・高温で処理できると分別が少なくて良いと聞きました。そうすると「残渣」も減るのですか？</li> <li>・もっとしっかり分別する様にしたいと思います。</li> </ul>
自分の出したごみは自分の地域で処分するのが原則と思います。 ただし、交通とか排ガスや水質など整備が必要。
・お互い誰かが受け入れなければ社会は成り立たないでしょう。

地域内の最終処分場のあり方に関するアンケート  
調査結果

<全 市>

## 【結 果】

地域内の最終処分場のあり方に関するアンケートの結果は、2,000名中、790名の回答があった。

単純集計において、回答者の属性としては、男女別では50%程度で、年代別では、60歳代～70歳以上の方々からの回答がほぼ半数を占め、年代が下がるにつれ構成比が低下した。構成市別では500名中、187～205名、37～41%の回答があった。

回答の全市的な傾向としては、常総環境センターがどこの市にあるのか、また、焼却後に灰などの残渣が残ることについては、73～81%程度の方が理解されていたが、これらの残渣がどこで処分されているかまでを知っている方は9%にとどまった。

また、スラグ、飛灰固化物や溶融不適物のリサイクルまたは埋立処分についての処理方法としては、全量または一部を合わせると90%の方がリサイクルするを選択されたが、一方で、「自分たちの最終処分場は必要」を60%を超える方が選択された。最終処分場を必要と思う方は複数回答でその理由として、80%程度が、「自分たちの地域内での処分が必要」を、32%程度が「受入れを拒まれる可能性がある」を選択された。

「最終処分場を必要と思わない」を選択された方が複数回答で必要と思わない理由としては、全体では48%程度が「費用を払って常総広域圏外に埋め立てた方がよい」を、34%程度が「リサイクルするので埋め立てるものがない」を選択された。

最終処分場などの施設が家の近くに建設される場合の受入れについては、「わからない」が最も多かったものの27%程度の方が受け入れることができるとの回答であった。ここで、受け入れることができない理由としては複数回答で、約85%が排ガスや水質被害の公害面を理由に挙げた。

次に、常総環境センターや残渣に関する住民の理解度をはじめ、スラグ、飛灰固化物や溶融不適物のリサイクル、埋立処分とする選択肢等について多面的な意向を分析するため、クロス集計を試みた。

常総環境センター及び残渣の知名度は、全体の8.7%にとどまった。ここで、スラグ、飛灰固化物や溶融不適物の残渣が残ることを理解されていた方を抽出したところ、全量または一部をリサイクルすると答えた方は約66%に上った。また、「費用に応じて可能な部分をリサイクルする」を選択された方で、「最終処分場は必要」と答える方が約41%で、「リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする」を選択された中にも約15%の方が「最終処分場は必要」を選択された。さらに、全量または一部をリサイクルすると答えた方も含め、全ての方の、家の近くにごみ処理施設が建設される場合の反応としては、「わからない」が約44%、「受け入れることができない」が約29%であったが、約27%の方が「受け入れることができる」と答えられた。

最後に、自由意見では、最終処分の自区内処理に係る意見をはじめ、建設場所に係るもの、最終処分場の公害に係るもの、残渣のリサイクルに係るもの等、幅広い意見が示された。

これらから、全体的には残渣はコスト面を踏まえリサイクルを優先させながらも、自分たちのごみは自分たちの地域で行なえるように最終処分場は必要と思う一方で、家の近くにはあってほしくないことを望んでいることがうかがえた。

単純集計(全体)

問1 あなたの性別は？(1つに○)

	回答数	構成比
(1) 男	378	47.8%
(2) 女	406	51.4%
無回答	6	0.8%
計	790	100.0%

回答者は、男女別では、男性47.8%、女性51.4%でほぼ同じ割合であった。

問2 あなたの年齢は？(1つに○)

	回答数	構成比
(1) 20～29歳	82	10.4%
(2) 30～39歳	103	13.0%
(3) 40～49歳	122	15.4%
(4) 50～59歳	127	16.1%
(5) 60～69歳	193	24.4%
(6) 70歳以上	161	20.4%
無回答	2	0.3%
計	790	100.0%

年代別では、60～69歳が24.4%で最も多く、次いで70歳以上が20.4%、50～59歳が16.1%、各年代とも10%以上であった。

問3 お住まいは、常総市、取手市、守谷市、つくばみらい市のどちらですか？(1つに○)

	回答数	回答率
(1) 常総市	187	37.5%
(2) 取手市	205	41.2%
(3) 守谷市	193	38.6%
(4) つくばみらい市	203	40.8%
無回答	2	-
計	790	39.6%

市別回答は、37.5～41.2%であった。

問4 家庭から出された可燃ごみは、常総環境センターで焼却していますが、常総環境センターは、どこの市にあるかご存知でしたか？(1つに○)

	回答数	構成比
(1) はい	637	80.6%
(2) いいえ	148	18.7%
無回答	5	0.6%
計	790	100.0%

常総環境センターが守谷市に所在していることは、80.6%の住民が理解していた。

問5 最初に書きましたように、可燃ごみ等は焼却された後、最終的に灰などの「残渣」が残ることはご存知でしたか。(1つに○)

	回答数	構成比
(1) はい	574	72.7%
(2) いいえ	211	26.7%
無回答	5	0.6%
計	790	100.0%

ごみが焼却された後に灰などの残渣が発生することは、72.7%の住民が理解していた。

問6 現在、灰などの「残渣」はどこで処分されているか、ご存知でしたか？(1つに○)

	回答数	構成比
(1) はい	71	9.0%
(2) いいえ	711	90.0%
無回答	8	1.0%
計	790	100.0%

灰などの残渣の最終処分先を理解していた住民は、9%にとどまり、90%の住民に知られていなかった。

問7 「残渣」がリサイクルできるのであれば、現在行っている埋立処分費以上の費用をかけてもリサイクルする方がよいと思いますか、それとも埋立処分が適切であると思いますか？(1つに○)

	回答数	構成比
(1) リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする	147	18.6%
(2) 埋立処分する	66	8.4%
(3) リサイクル費用に応じて可能な部分をリサイクルする	564	71.4%
無回答	13	1.6%
計	790	100.0%

灰などの残渣のリサイクルは、費用に関わらず「全量リサイクルする」と答えた方は18.6%、「費用に応じて可能な部分をリサイクル」と答えた方が71.4%であった。一定額の範囲で可能な量はリサイクルすると答えた方が最も多く、「埋立処分」と答えた方は8.4%であった。

問8 問7で「1. リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする」と答えた方も含めて全ての方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場は必要だと思いますか？(1つに○)

	回答数	構成比
(1) 必要と思う	486	61.5%
(2) 必要と思わない	77	9.7%
(3) わからない	173	21.9%
無回答	54	6.8%
計	790	100.0%

圏域内に自分たちの最終処分場が「必要と思う」と答えた方が61.5%で最も多く、次いで「わからない」と答えた方が21.9%、「必要と思わない」と答えた方が9.7%であった。

問9 問8で「1. 必要と思う」とお答えになった方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場を必要と思う理由は何ですか？(○はいくつでも)

	回答数	割合
(1) 自分たちの地域内での処分が必要	390	80.2%
(2) 最終処分場に支払う費用が高額となる	49	10.1%
(3) 受入れが拒まれる可能性がある	156	32.1%
(4) その他	32	6.6%
無回答	7	1.4%
計	634	130.5%

最終処分場を必要と思う方はその理由として、「自分たちの地域内で処分することが必要」と答えた方が80.2%で最も多く、次いで「受け入れを拒まれる可能性がある」と答えた方が32.1%であった。

問10 問8で「2. 必要と思わない」とお答えになった方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場を必要と思わない理由は何ですか？(○はいくつでも)

	回答数	割合
(1) リサイクルするので埋め立てるものがない	26	33.8%
(2) 迷惑施設なのでなくてもよい	13	16.9%
(3) 費用を払って常総広域圏外に埋め立てた方がよい	37	48.1%
(4) その他	9	11.7%
無回答	1	1.3%
計	86	111.7%

最終処分場を必要と思わない方はその理由として、「費用を払って圏外に埋め立てた方がよい」が48.1%で最も多く、次いで「リサイクルするので埋め立てるものがない」が33.8%であった。

問11 家庭から出されるごみの焼却施設や最終処分場が、家の近くに建設されるとなる場合、受け入れることができますか？(1つに○)

	回答数	構成比
(1) 受け入れることができる	209	26.5%
(2) 受け入れることができない	225	28.5%
(3) わからない	346	43.8%
無回答	10	1.3%
計	790	100.0%

焼却施設や最終処分場が家の近くへ作られることについては、「わからない」と答えた方が43.8%で最も多く、次いで「受け入れられない」と答えた方が28.5%、「受け入れることができる」と答えた方は26.5%であった。

問12 問11で「2. 受け入れることができない」とお答えになった方にお聞きします。家庭から出されるごみの焼却施設や最終処分場が、家の近くに建設されるとなる場合、受け入れることができない理由は何ですか？（〇はいくつでも）

	回答数	割合
(1) 景観が悪くなる	59	26.2%
(2) 排ガスや水質の被害が出る	191	84.9%
(3) 汚いなどの悪いうわさがたつ	45	20.0%
(4) その他	40	17.8%
無回答	2	0.9%
計	337	149.8%

焼却施設や最終処分場が家の近くへ作られることが受け入れられない理由としては、「排ガスや水質の被害が出る」と答えた方が84.9%で最も多く、次いで、「景観が悪くなる」が26.2%、「汚いなどの悪いうわさがたつ」が20.0%であった。

問13 ごみ処理やリサイクルに関するあなたのご意見・ご要望などがありましたらお聞かせください。

自由記述集計表参照

ごみ処理等に関する意見・要望は、458件の回答があり、最終処分に係る自区内処理に係る意見をはじめ、建設場所、公害に対するもの、残渣のリサイクル、ごみ処理に係る周知、残渣等の減量、ごみ減量の対策、残渣及び最終処分場の安全性にわたる多種多様な意見があった。

問9、問10、問12の設問でその他を選択された方の記述集計表

設問	問9	問10	問12
その他を選択した方の回答	問8で「1. 必要と思う」とお答えになった方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場を必要と思う理由は何ですか？	問8で「2. 必要と思わない」とお答えになった方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場を必要と思わない理由は何ですか？	問11で「2. 受け入れることができない」とお答えになった方にお聞きします。家庭から出されるごみの焼却施設や最終処分場が、家の近くに建設されるとなる場合、受け入れることができない理由は何ですか？
	逆に受け入れる立場だったとしたらあまりいい気分ではないと思うから	他で処理できるのならわざわざ作らなくても良い	地価が下がる可能性がある
	自分たちが排出したものに責任を持つべきだと思う。他に依存してはいけない。	各地が持つものではない	現在の焼却施設が既に家の近くにあるため、広域圏内で公平にごみに責任を持つべき
	あくまで自己完結	土地が余っているなら良い	健康被害が出るのではないかと心配
	可能な限り自分のことは自分で	環境に悪い	住宅地及びゴルフ場有
	関係4市の財政が逼迫する	もっと広い地域をカバーする大規模な処理場を作った方がよい	家の近くでは困る
	他の地域が犠牲になればいいという考え方は争いのもと	新たに作る必要はないと思う	生活環境が悪くなる
	自分たちで出したごみの処分は最終まで自分たちで行うべき	そんなに土地がない	車の出入りなどの騒音
	自区内処理	処分場の場所のあるところをお願いした方がよい	小中学校もあり、住宅密集地なので、環境(健康)によくない
	税収が下がる	地域外処理場の能力が十分であれば建設しなくても良いと思う	住宅地近く以外の場所もあるのでは
	コストの問題やたまる量が違うため	悪いうわさ	被害への対策について信用できない
	他の自治体からのごみを受け入れることで市の収益につながり、また市民雇用促進にもつながると思います。	/	守谷市には焼却施設があり、常総・取手・つくばみらいのごみを処理していますので、処分場は守谷市を除く3市のどこかに造るべきです。
	自分の物は自分で解決することが大切		家の近くに最終処分場用地が見当たらないため
	自分の所で出したごみは地元で処分すべき		処分場へ運ぶトラック等の排ガス・騒音・振動が出る
	自分たちで出したごみだから		風評被害
	土地はたくさんある		家が売りにくくなり、空き家が増える
持ち込まれるのはどこでも反対であろう	不動産価値の下落		
人が住むには自給自足が原則であると思う。他に頼るのは良くない。	/		臭そう、うるさそう

設問	問9 問8で「1. 必要と思う」とお答えになった方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場を必要と思う理由は何ですか？	問10 問8で「2. 必要と思わない」とお答えになった方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場を必要と思わない理由は何ですか？	問12 問11で「2. 受け入れることができない」とお答えになった方にお聞きします。家庭から出されるごみの焼却施設や最終処分場が、家の近くに建設されるとなる場合、受け入れることができない理由は何ですか？
その他を選択した方の回答	ごみを減らす気持ちが強くなると思う		田んぼに害が出る可能性があるため
	自分が住んでいる地域で出たごみは地域内で処理するのが当然の義務		匂い
	自分たちのことは自分たちで処理する		道路事情の改善が必要
	適度の場所が無いときは地域外を検討		住宅地より離れているなど場所による
	自分たちが出したごみは自分たちで責任を持つべき		駅前なので不適切
	自己責任の意識を持つ必要がある		匂いが出ると困る
	最終処分場を造り雑収入を得る		農地への土壌汚染が心配である
	どこかには必要なため		健康問題等
	自分の出したごみは自分たちエリアでの処分が必要		健康問題に不安を感じる
	雇用ができる		土地の価格が下がる
	地域内で処分することは当然と思いますが、その処分場がもし身近に建設となれば条件は変わってくると思います。		住宅が多すぎる
	他域から受け入れて費用を徴収して財源とする		場所と規模による
	最終的に自分に返ってくると思えば、無駄を減らしごみを少なくしようとするはず		土地価格の下落
	地産地消的考え方が原則		交通の便の良い都市・住宅密集地に造るメリットがない
	不公平ではないかと思う		他にまだ土地がある
			資産価値が下がる、健康被害が出る
			放射能の問題
			風評被害や悪臭など
			問12の状況にならないようにする
			子供が心配です
		においが出る	
		においが気になる	
		土地価格の下落	
		土地価格の低下	

クロス集計表

注)在住市不明者(2名)を含む

問4「家庭から出された可燃ごみは、常総環境センターで焼却していますが、常総環境センターは、どこの市にあるかご存知でしたか？(1つに○)」と問6「現在、灰などの「残渣」はどこで処分されているか、ご存知でしたか？(1つに○)」の関係

		家庭から出された可燃ごみは、常総環境センターで焼却していますが、常総環境センターは、どこの市にあるかご存知でしたか？								
		総計		はい		いいえ		無回答		
知こ現 でで在 し処、 た分灰 かさな ど れど の い「 る残 か渣 」 ごは 存ど	選択項目	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	
		はい	71	9.0%	69	8.7%	2	0.3%	0	0.0%
		いいえ	711	90.0%	561	71.0%	146	18.5%	4	0.5%
		無回答	8	1.0%	7	0.9%	0	0.0%	1	0.1%
		合計	790	100.0%	637	80.6%	148	18.7%	5	0.6%

常総環境センターの位置を知っていた方の中で、残渣の処分先を知っていた方は全体の8.7%に過ぎず、知らない方は71.0%に上った。また、位置も残渣の処分先も知らない方は、全体の18.5%に上った。

問5「最初に書きましたように、可燃ごみ等は焼却された後、最終的に灰などの「残渣」が残ることはご存知でしたか。(1つに○)」と問7「「残渣」がリサイクルできるのであれば、現在行っている埋立処分費以上の費用をかけてもリサイクルの方がよいと思いますか、それとも埋立処分が適切であると思いますか？(1つに○)」の関係

		最初に書きましたように、可燃ごみ等は焼却された後、最終的に灰などの「残渣」が残ることはご存知でしたか。								
		総計		はい		いいえ		無回答		
埋サ行 立イっ 処ク残 分ル渣 がする が 適る埋 切方立 でが処 あよ分 るい費 とと以 思思上 まの すす用 かかを かかを それ、 れとも も現 リ在	選択項目	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	
		リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする	147	18.6%	106	13.4%	40	5.1%	1	0.1%
		埋立処分する	66	8.4%	44	5.6%	22	2.8%	0	0.0%
		リサイクル費用に応じて可能な部分をリサイクルする	564	71.4%	415	52.5%	146	18.5%	3	0.4%
		無回答	13	1.6%	9	1.1%	3	0.4%	1	0.1%
	合計	790	100.0%	574	72.7%	211	26.7%	5	0.6%	

残渣が残ることを知っている方で、「リサイクル費用が高額でも全量リサイクル」または「リサイクル費用に応じて可能な部分をリサイクルする」を選択した方を合わせると65.9%に上った。  
残渣が残ることを知らない方では、同様23.6%の方がリサイクルを選択した。

問7「残渣」がリサイクルできるのであれば、現在行っている埋立処分費以上の費用をかけてもリサイクルする方がよいと思いますか、それとも埋立処分が適切であると思いますか？(1つに○)」と問8「問7で「1. リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする」と答えた方も含めて全ての方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場は必要と思いますか？(1つに○)」の関係

		「残渣」がリサイクルできるのであれば、現在行っている埋立処分費以上の費用をかけてもリサイクルする方がよいと思いますか、それとも埋立処分が適切であると思いますか？									
はち全 必の要 地の と域 方 思 に い 自 分 聞 き か ち の 最 終 。 自 分 場 た	選択項目	総計		リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする		埋立処分する		リサイクル費用に応じて可能な部分をリサイクルする		無回答	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
	必要と思う	486	61.5%	120	15.2%	36	4.6%	326	41.3%	4	0.5%
	必要と思わない	77	9.7%	17	2.2%	12	1.5%	47	5.9%	1	0.1%
	わからない	173	21.9%	10	1.3%	11	1.4%	147	18.6%	5	0.6%
	無回答	54	6.8%	0	0.0%	7	0.9%	44	5.6%	3	0.4%
	合計	790	100.0%	147	18.6%	66	8.4%	564	71.4%	13	1.6%

「リサイクル費用に応じて可能な部分をリサイクルする」を選択した方で「自分たちの地域に自分たちの最終処分場を必要と思う」を選択した方が41.3%を占め、「リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする」を選択した方も、15.2%の方が「自分たちの地域に自分たちの最終処分場を必要と思う」を選択した。  
また、「リサイクル費用に応じて可能な部分をリサイクルする」を選んだ方の19.9%が「わからない」を選択した。

問8「問7で「1. リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする」と答えた方も含めて全ての方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場は必要と思いますか？(1つに○)」と問11「家庭から出されるごみの焼却施設や最終処分場が、家の近くに建設されるとなる場合、受け入れることができますか？(1つに○)」の関係

		問7で「1. リサイクル費用が高額でも全量リサイクルする」と答えた方も含めて全ての方にお聞きします。自分たちの地域に自分たちの最終処分場は必要と思いますか？									
場処家 合分庭 、場 か 受 が ら け 、 出 入 家 さ れ る 近 く に ご み の 建 設 焼 却 施 設 や 最 終 ？ な る 最 終	選択項目	総計		必要と思う		必要と思わない		わからない		無回答	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
	受け入れることができる	209	26.5%	176	36.2%	4	5.2%	20	11.6%	9	16.7%
	受け入れることができない	225	28.5%	84	17.3%	70	90.9%	58	33.5%	13	24.1%
	わからない	346	43.8%	222	45.7%	3	3.9%	92	53.2%	29	53.7%
	無回答	10	1.3%	4	0.8%	0	0.0%	3	1.7%	3	5.6%
	合計	790	100.0%	486	100.0%	77	100.0%	173	100.0%	54	100.0%

「自分たちの地域に自分たちの最終処分場を必要と思う」を選択した方の、45.7%が「わからない」を選択したが、36.2%の方が「家の近くに建設される受け入れることができる」を選択した。

最終処分場アンケート調査問13自由記述 区分別集計表

最終処分の自区内処理
公害の発生も心配だし、すごく悩みますが、自分たちの捨てるごみの残渣なので、なるべくごみを減らし自分たちの地域で処理も考えるべきだと思う。
可能なら自分の地域で発生する「残渣」は自分の地域内で処理する。
分別は大変だが自分たちが出したごみなので、当たり前だと思う。 「残渣」のこと、最終処分場が圏外であることを初めて知った。もっと早く知る機会があると良かった。 自分たちのごみは自分たちの地域内の処分が望ましいし、その為であれば景観、排ガス被害等のリスクは誰かが背負わなければならないので、圏内にせざるを得ないと思う。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リサイクル設備と最終処分場設備は、当地域には絶対必要性があります。(将来的には必ず必要になります)</li> <li>・一時のぎではなく、回収～処分～リサイクル～最終処理と一貫した施設の見直しをしていただきたい。</li> <li>・必ず、用地の確保、取得の問題も出ると思うが、他の事業体にゆだね続けていく訳にはいかないような気がします。</li> </ul>
自分たちが出した残渣は、自分たちの地域で処理するのが基本で、他の地に依頼して自分だけ良ければ考えるのは良くない。
自己責任意識をもっと持つべき。その為、分別の徹底、リサイクル(残渣)を進める事が必要。高額負担もやむをえない。
この狭い日本国土の中で自分で出したごみは最後まで自分たちで処分するという気持ちが大事です。 他の所に迷惑をかけてはいけない、誰でも自分の家の近くに建設されるとなると反対する人々の姿をよく目にするが身勝手すぎる。
ごみは生活している限り、無くなるものではない。昨年の震災で発生したごみも含め、安全が確保されることが保証されれば、迷惑な物と言わずそれぞれが身に置きかえてみて負担は分かち合う世の中が当然であってほしい。
自分たちのごみは他市町村に迷惑をかけず住まい近くで処分するのが、理想の姿だと思います。
自分たちが出したごみ類は、自分たちの所で処分するのが生活していく上で一番いい方法です。
自分たちの出したごみは自分たちの地域で処分するのが当たり前 出すだけ出すが処分は嫌や、これは道義上、権利と義務を忘れてる。自分勝手の主張だけでなく自分たちの義務も忘れず、それを指導しとうて。
自分のごみは自分の所で処分すべきと考えます。 しかし、身勝手でしょうが、家の近くに処分場となるとさてどうでしょう。処分場は人家から離れた所に作ることは出来ないのでしょうか。
自分たちの出したごみ処理は各地域とも考えるべきです。
自分たちの地域で出した物は自分たちの地域で処理するのが当然である。 ごみの出す量を少なくし、リサイクルできる物はリサイクルする。自然にやさしい生活をするべきと思います。
現在、自分たちの年齢では細かいごみの分別は可能ですがお年寄りのひとり暮らしの方などは大変なようです。 家庭で出るごみの処分については、理想を申しますと自分たちが出したごみは自分たちの地域で責任を持つという事なのだと思います。 景観を工夫し排ガスや水質の被害が出ないようにするなどしてできれば他に持っていくのではなく、自分たちの地域でできたらと思います。 ごみの出し方についてもマナーが守られていない事も多く感じます。地域の皆さんでもっと話し合いができればいいかと思えます。
自分たちで出したごみの責任を各自が自覚し責任を持って考えていって欲しいと私は思っています。無責任に他県まかせにしているといつかは困ったことになると思うべきです。
すべてのものが自給自足ができる方が良い。当然自分で出したごみは住んでいる地域で処分するべきと考えます。
自分たちのごみは自分地域内で処分するのが基本だからです。自分地域内に最終処分場は必要です。
環境保全、資源の有効活用の為にもリサイクル可能なごみは極力リサイクルすべきと考える。ごみの分別収集を可能な限り推進願いたい。しかしながら残渣は必ず生じるのでその最終処分は自前で行うべきと考える。住民の意識改革に努力願いたい。
最終処分場は必要不可欠なもの。ただ出来れば近くにあってほしくないもの。これが世間一般の気持ちだと思います。であればこそ自分たちの場域内での処分が原則、妥当だと思います。 環境アセスメントを十二分に行うことなど大方が納得できる適地があるのであれば受け入れるべきではないかと思えます。
地球を大切に。自分の物は自分で処理する。この考え方ですすめていくことが大切。

最終処分場アンケート調査問13自由記述 区別集計表

<p>最近、自己責任、自己負担の気持ちが少なくなっている気がします。(自助→共助→公助)の考え方が大切ではないでしょうか。</p> <p>当市でも最終処分場が圏外にあったこともあり関心が薄かった気がします。</p>
<p>最終処分まで責任をその地区内でおうのは、どの場所でも同じだと思うので、デメリットはあってもそうすべき。ごみを減らす工夫も地域で協力して提唱すべき。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民がごみ処理に関心をもって決められたルールに従うのが良いと思う。ルールを守っていない人が多い。</li> <li>・自分のごみは自分たちで処理するのが良い。</li> </ul>
<p>ごみの分別はした方良いと思います。可能な限りリサイクル出来る物はする、処分場は身近にあるものは誰でもいやがると思います。でも、今の時代いやいやばかり言うてはいられないと思います。自分で出したごみは自分の所で処分するのはやむを得ない事だと思います。</p>
<p>自分さえよければ良いという人が多く悲しいです。</p> <p>ごみ処理場も景観が良く焼却熱でスパセンターを作ったりすれば役に立つ。火葬場等も同様で人間生まれて死ぬまで施設は必要なのだから受け入れなければならないと思います。</p>
<p>基本的には自分で出したごみは自分たちの地域で処理すべきで自分の嫌なものを他所に出すべきではないと思うが、質問が具体的でないのでわからないにした。受益者負担が原則。</p>
<p>自分が生活する為のごみは自分の地域内で処分する必要がある。</p>
<p>自区内の処理が原則。自分達の所だけよければという考えはすてるべきです。</p>
<p>自分たちが出したごみは基本的に地域内で最終処分まで行う事が責任だと思う。ただ、処分場付近の環境が悪くなる事には反対である。</p>
<p>ごみは自己責任で良く分別して出すのが良い。最終処分場は迷惑施設だからイヤとは身勝手すぎると思う。ごみを出さない家はないのだから、どんな迷惑でも自分で出したものは自分の責任を取る、これが高等人間だと思う。現代はイヤな物はどこかにもっていけ、良い物は自分の方にとの考え方が多いと思う。これでは何にも決まらないではないか、アンケートをとっても中々むずかしいと思います。</p>
<p>自分たちのごみは本来自分たちと地域での処理が普通と思います。是非その方向で進めてもらいたい。</p>
<p>このたびの原発事故による放射能汚染物処理でさえ自県分の処理分でも北茨城が反対しています。もっともと思いますが、だったら他の地域になった時は賛成するのでしょうか？この際、みんなで協力し合い野積みになっているのを早く処分すべきと考えます。未来の子供たちのに負の遺産は残して行きたくない。自分が出したごみの最終的にどうなっているのか、良く考えるべきだと思います。今まで、お世話になったお礼をこめ。でも技術が発達し、無に近い状態、リサイクル出来たら良いですね。</p>
<p>最終処分場はどの地方にも頭をかかえている問題ですね。自分たちで出したごみは自分たちの地域で処理を考えないといけません。常総地域も広いですし、住んでいる人の影響にない所とかはないのでしょうか・・・牛久市のように・・・ごくろさまです。</p>
<p>末代の子孫のことを考えると、環境を守ることは大切だと思います。環境を守る為には、コストがかかるのは当然です。自分たちで出したごみは、自分たちでお金を支払い、リサイクルできるようにしてほしいです。埋立処分して後の代に迷惑かけるのは悲しいです。</p> <p>ごみの分別も全ての人に徹底するのは難しいです。</p> <p>中国でペットボトルがポイントカードでポイントになる機械を設置することで環境を守るニュースを最近見ました。日本もそうしたらいいのになと思います。</p>
<p>自分の出したごみは自分の地域で処分するのが原則と思います。</p> <p>ただし、交通とか排ガスや水質など整備が必要。</p>

最終処分場アンケート調査問13自由記述 区分別集計表

最終処分場の建設場所
焼却処理施設が守谷にあるのだから、最終処分場は守谷以外の地区に作るべき。
半世紀以上、煙突からの煙と時に匂いを感じて生活しています。広域処理すべき「ごみ」がなぜ、こんなに長い間同じ所に一箇所に集中して焼却しなくてはいけないのか疑問は消えません。次の焼却施設は守谷以外に建設してほしいと強く思っています。 また、家庭での分別は当然の義務であると思いますし、できればリサイクル率をさらに高めていただきたいと思っています。H24年度からの分別には心から賛成しています。本当に長間が経過したものです。生ごみの堆肥化もさらに拡大し全域に広げていただきたいと思います。その際の施設も守谷に固定することなく生ごみは各自治体というような考え方もあるのではないのでしょうか？ 今回のアンケートの目的である「最終処分場」については、広域圏内で守谷以外の3市に設置すべきと思います。(3市で公平な持ち回り式にしてもよいと思います。) みんなで自分たちの生活から排出されたものを身近に感じ最後まで責任を持つべきです。
問12の質問で「家の近くに建設されるとなる場合・・・」とありますが、なぜ民家の近くにわざわざ建設されることを前提とした質問をするのか、教えてください。
・各市で出たごみの残渣を自分の市に埋める等の最終処分は必要。但し、各市のごみの量を把握する事は困難と思われる為、最終処分についての取り決めが必要と思う。 守谷市に有る常総環境センターで焼却するのであれば、煙等の環境への影響が考えられる為、最終処分に対する守谷市の割合は少なくする等の配慮が必要。それが出来ないのであれば各市で焼却すべき、基本的には他で受け入れしてもらえる場合は他に依頼する方がよい。多小お金がかかっても納得する人が多いと思う。
ごみ処理が今後の環境問題に置いて重大なことと思います。最終処分を何処にするか誰でも迷うと思います。願わくは今の原発問題のように事が起きてから想定外とか、遺憾に思うと、軽く扱わず最善の処置を願っています。
ごみはどこの家庭でも出るものです。本来自分で処分すべき所出来ないから行政にお願いしています。人間はエゴを捨て皆で協力すべきである。それが自分の家の近くであってもやむを得ない。
焼却施設や最終処分場が、周辺に住宅が少ない立地条件の元、持ち回り建設がいいかと思います。 例H24秋完成したのが守谷→H??はつくばみらい→H??取手→H??常総などというように長期プランを提示してはいいかがでしょうか？
最終処分場は自分たちの地域内に建設する場合でも宅地近辺でない方がよいと思う。
常総環境センターは守谷市にあります。4つの市がここを利用しているので最終処分場は必ずしも守谷市と決めるのではなく、利用している4つの市が場所を検討していただいて最終的に決まった場所で受け入れるのはどうでしょうか？不可能ですか？
どうしても自分たちの地域で自分たちの最終処分場を作らなければならなくなったら広域でなく守谷市は守谷市で処分、リサイクル、埋立処分をするようにして欲しい。(広域を受け入れることで守谷にできた。常総の様々な施設など絶対にいらない。施設を利用する守谷市民はごくごく一部の人だと思う。我が近所でも多忙で利湯しない人がほとんどである。有料のジョイフルを利用する人が多数である。
広域内の休耕地※1(谷津田)に処分場を建設し地主に費用を払うようにすれば良いと思います。
極力リサイクルして残渣を少なくして、それぞれの市が埋立て処分を検討するべきだ。
十分分別はしていますが、独身者や忙しい人、男性などに分担させている家庭など、守りきれていない人もいると思う。完璧な分別は無理かと思う。残渣の出るのはやむを得ないことだし、処分場は建設すべきで、必ず、適地はみつかると思う。
分別は今程度で良い。 処分場云々は自分で出したごみは自分で処理すべきと思うので近くに処分場があっても構わない。
焼却施設は作るとなるとあまり家の近くでなく目立たない所に人家から遠い所が良いと思います。
あちらこちらから煙を出す必要はない。 つくるのには、建物費用、人事、就職の人選び(新たな)職に就けなかった人のうらみ等々いらないさわざで仲良かった人たちが口がきかなくなったりしては子供たちに与える影響が多いにあるから悪いです。
常総地区には人が住んでいないスペースが他県の市町村に比べてあると思います。(個人のうう所有スペースも含めて) 施設を作る時には、住宅の近くに建てないことを条件にすることかと思えます。いつの時代も施設を建てた後に、移り住んだ住民がクレームを入れることがほとんどです。 排ガスや水質の被害が出ない施設であればOK。
常総市、取手市、つくばみらい市にお願い致します(常総環境センターあり) 住所は取手でも、※2 やすらぎ苑の例もある。
問7の解答については、2埋立処分すると迷うところである。なぜなら、問11の解答では2番(受け入れることができない)を選んでいるから。

## 最終処分場アンケート調査問13自由記述 区分別集計表

自分たちのごみは自分たちの地域内で処分するのが望ましいと思うが、その場所が、住宅地の目の前であったり、地域の反対や生活に支障がある場合は、そこは避けるべき。
最終処分場とは埋立処分場を言っているのでしょうか？同じと考えてお答えしています。 家の近くに建設される場合は、いろいろな条件が必要と考えます。(保障も含めて)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな都市計画を定め、ごみ処理区域を設定し、設定区域内のすべての住家を移転させる。(設定区域は約20～40ha程度)(区画整理による強制移転化)</li> <li>・工業専用区域内を定め、関連使用専用による地区計画を定める。</li> </ul>
可燃、不燃のごみ袋が大変使いづらくて困っています。友人同士でも同じ意見がでます。改良して欲しいと思います。できれば、以前に戻してほしいです。 また、最終処分場は守谷市野木崎以外にお願いします。第1次～第3次まで焼却していてこれ以上は孫たちの代まで不公平です。
分別は必要性を理解してなれるだけなので分別した場合のメリットを十分に周知させる必要があると思います。 また、最終処理施設は、住宅地から離し、現在利用されていない土地をさがしてみる。雇用は必ず当該地域から行う。
むずかしい問題ですが、自分たちのごみはその地区で責任を持ち処分出来る様になれば、他の地区へ迷惑がかからなくなると思います。焼却施設等、誰も近くにあるのはイヤなものです。
自区内処理は原則と思います。立地と周辺環境へ配慮の上で設定すべきと思います。
常総地区は守谷市のみでのごみ処理場で守谷市の負担が大きい。常総地区で分担しながら処分場は必要。また、現状の最終処分場はどこにどれだけあるのでしょうか。
どうせ処分場を作るなら、最先端の物を作りましょう。対外的に(マスメディア)に大きく発表しましょう。
常総広域内にて住宅のない地域を早い時期に確保する。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ処理はやはり圏外に頼らずやるべきだと思うが、いざ、その処理場が自宅の付近にできるとなると色々考えてしまいますかも。でも安全(色々な面で)であれば仕方ないとも思う。</li> </ul>
以前、取手焼却場が近くにあったので常総広域圏外にしてほしい。
最終処分場も一つの市町村が場所を提供するのではなく、それぞれの市町村が自分の市町村の残渣を埋立処分の場所を考えたら良いのでは？
<ul style="list-style-type: none"> <li>・常総環境センターの近い所に住んでいるので、最終処分場ができるのであれば他の市に作ってほしい。焼却も最終処分場も同じ市では不公平だと思う。できないのなら各市がそれぞれにその2つの施設を作るべきだ。</li> <li>・原発事故以来、焼却場のごみについても気になっている。取手や守谷は県内でも放射能線量が高い所なのにそのごみが1ヶ所で焼却しているが大丈夫なのだろうか。ちゃんとルールは守られているのか。(ちなみに守谷市の放射能に対する考え方はビックリする程あまい)</li> <li>・プラ容器の分別について「きれいにして」出すことになっているが、その基準(どの位きれいにすれば良いのが)が分からない。</li> </ul>
最終処分場は民家から離れたところをお願いします。プラスチックはわざわざ洗ってまで分別するのは面倒で不燃に入れてしまうことが多い。
守谷市に最終処分場を作った方が一番よいと思う。 交通の便がよい。環境センターに近いから。
現実的にごみは必ずどの過程でも出されるものでその量は計り知れないほどです。施設や処分場の建設は行政側である程度は強制的な部分も必要かと思います。 何事も全員が賛成する事はあり得ないので、説得するより他に法歩はないのではないかと思います。
総論賛成各論反対では物事問題解決出来ないでは？地道な説得が必要。決定した事を説得出来るだけの理由がある事。
施設や処分場の建設については、地域、方法等十分検討が必要と思う。
ごみ処理問題は自治体にとってとても大きな課題だと思うので、市民一人一人の意識改革が必要だと思う。しかし、問11では2を選択してしまう現実にはジレンマを感じています。
不公平ではいけないと思うが、いざ、家の近くとなると思いがぶれる。
リサイクルが出来ないなら最終処分場を市内に1ヶ所といわず、集落に1ヶ所づつ作ったりして地域の人たちにごみを減らす、努力をしてもらうよう個人個人が意識するように促していく必要があると思います。そのためには安全と景観を考慮して作る事が出来ますし、どこの集落にもあるものとして認識されることでしょ。
残渣を地域内で処分することになった場合、焼却場は守谷にあるけど、処分場は他3市にも同じように処分し平等にしてほしいです。

最終処分場アンケート調査問13自由記述 区分別集計表

最終処分場の公害
焼却施設とか最終処分場(リサイクル場)の具体的な事が分からないのですが、公害的な発生がどの位なのかによって賛否が違ってくるでしょう。 これらのごみが何かと利用出来る様に皆で良い案を出せるようしたいですネ。
焼却施設、最終処分場の具体的なイメージがないと近所に受入可能か判断できない。美観、周囲環境への放出物等が、がまん出来る範囲のものなら、そして、それが他地域への依頼するより(できるとして)経済的であるなら、施設を受け入れてもよいと思う。ただし、その決定過程がオープンであること。
放射能が特に心配。 体に害がないのなら近くにできても認められるが・・・多小、費用があがっても将来的にその方がよいのならやるべきです。
公害問題に力を注いでもらいたい。
公害が心配 もっと分別した方がよいと云うことはわかっているのですが、どの様にすればよいのか他に何か方法はないのかと考えてしまいます。
・公害のごみが心配です。 ・国をあげて過剰包装をやめて、みんなができるだけごみを減らす努力をしてもらい、意識を持って過ごすようにすることが大切です。
焼却施設や最終処分場が圏内であろうと圏外であろうと排ガスや水質汚濁等のすべての公害を惹起することは厳に避けるべき。完全に無公害でリサイクルできるのであれば圏内であろうと圏外であろうとこだわりはない。 行政としては圏内外の一般市民生活の安心安全を担保する姿勢が肝要。
排ガスや水質の被害がないような処分場を作り、ていねいに住民に説明すれば受け入れざるを得ないと思う。 景観が悪くなる、悪いうわさ等は住民エゴで論外。 処分場周辺住民(例 200m以内?)の住民税免除等も考えたらと思います。
ごみ処理場を建設した場合、風の流れ等により特定の地域が環境汚染される。
公害の発生が心配ですが、最終処分場を地域内に必要だと思う。
・リサイクルも大切だが体に影響がでないのかが一番心配。
公害の発生が一番心配です。
ごみ処理についてあまりよく知りませんが、家の近くに焼却施設+最終処分場が出来るのはイヤです。やはり健康面が心配になります。
家庭内の生活ごみも余り細かく分別するのは困難ですが、公害の発生しない焼却場、最新の施設(多小コストが掛っても)を作るのは当然です。 又、余談になるが火葬場を建設する時も何れ自分自身もお世話になる所であり、・・迷惑施設として反対する事と同様で(利己的)である。
「残渣」は最終処分場で埋立てられるとの事ですが、そこから発ガン性などの物質が発生する事はないでしょうか。
新しい焼却場で今回のような問題はおこらない、あるいは軽減されるのだと思っていたので大変残念です。 公害の発生が一番気になります。子育てには不安は一つでも不要です。協力できることはするべきだと思います。
ごみを減らす、リサイクルをすすめる活動は今以上に取り組みが必要だと思う。 公害の問題については難しいとおもうが、できるだけ住民の気持ちを考え、初期投資がかかっても最善の施設を作って対処してほしい。
金額や労力をある程度考慮する必要はあると思いますが、環境や人への影響をと長期的に見た判断が第一であると考えます。
放射性物質が心配。
水質の被害
埋立処分により異臭などの被害が出るのは不安。体に害がでるのではないかと、思うので近くには住みたくない。(特に子供がいるので)できるだけリサイクルした方がよい。
ダイオキシンが飛散しない様、しっかりした設備をして欲しい。
地域内での処分と思うが、一番に公害発生が心配です。
自然が比較的豊かな守谷の自然が壊れてしまわないよう、水質汚染等人体健康被害のない様、願います。
公害の発生が心配

最終処分場アンケート調査問13自由記述 区分別集計表

残渣のリサイクル
リサイクルできるのであれば全てリサイクルするのが良いと思います。 リサイクルコストが安くなる様すすめていただきたい。
守谷市は住民税が高めの場所ですし、その分、リサイクル関係の開発、研究をつくば市と協力して行えばいいのではないのでしょうか。 開発された良いものは後々、特許とるなり国に売るなりして日本中に貢献できるような市になってほしいです。もちろん、住民としての協力は惜しみません。素人意見ですいません。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全量リサイクルが良いと思いますが、どのような手段や方法ができるのか全くわかりません。(バイオとか建築資材とか)技術的な問題があります。</li> <li>・先ずどのような方式があり、設備はどのような形となり、住環境にどのような影響があるのかをお示し願いたい。</li> <li>・費用面では、国、県、4市、住民等幅広く分担を求めることになると思いますが費用対効果も大切なことと思いますし、今後はある程度の情報が不可欠だと思います。将来に対して心配をあおるだけです。</li> </ul>
リサイクル可能なものはすべてリサイクルした方が今後のためにもした方が良くと思う。
リサイクル費用が高額でも今後リサイクルは必要となっていくでしょう。我々の世代でなく、将来を見据え自分で出したごみは自分の地域で、という責任意識があっても良いと思う。 これから育てゆく子供達のために環境を整えていきたいと思う。
リサイクルを積極的に行っている学校、職場、地区等の事例を紹介するとともに表彰をし意識の高揚に行政としても後押しすべきと思います。
リサイクルの技術開発(コスト削減含め)を支援することも必要なのではないかな。
・少々お金がかかってもリサイクルできるものはすべてリサイクルすることが大事。
東京から転居してきたが、分別はとても厳密に規定され、素晴らしいと思う。 将来のことを考えると、いつかはリサイクルを推進しなければいけない日がくると思う。
圏外の最終処分場を持つ地域から見たら、最終処分場のない常総広域圏はズルイのかもしれないが、関東、日本、地球という大きな単位で考えた時、果たして最終処分場を増やすのは適した事なのか？お金をかけてやるなら新しく作るのではなく、リサイクルすることや従来の最終処分場へ資金援助する等もっと違う考え方もあるのではないかな。
リサイクル工場を作る。(失業対策)
処分場ではなく将来を見越したリサイクル設備の工場を作る(失業対策にもなる)
ごみに対してもっと考える場が必要だと思う。リサイクル社会こそが今後の地球上で生きる道であると思う。そのための技術と市民の心が向上していく必要がある。 今でも分別は大変、しかし、毎日出るごみ何とかしなければならぬのも事実です。何とかリサイクルする方法ですこしでも減らせる事を願います。
リサイクルには力を入れてもらいたいです。(教育も含めて)
先ずスラグはセメントコンクリート、アスファルト混合物の細骨材としてリサイクル可能。粒度調整が必要であるが品質試験も必要。0.074mm以下のファイバーもリサイクル可。コンクリートはあらゆる道路構造物(トンネル、橋梁、ダム、高速道路、外、コンクリートブロック、テラポット等) 生ごみは分別して発酵、メタンガスの家庭燃料用として利用。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・残渣をブロックやレンガ、道路の舗装工事に使用できませんか？有価物にはならないのでしょうか？</li> <li>・可燃ごみ→食品→肥料 →紙類→焼却→残渣</li> </ul> に分別する。
出来る限りリサイクルを実施する事が良いと思います。
衣類などはかなりリサイクルが出来ると聞いています。どんどん再利用出来たら良いと思います。
ごみ処理後、なるべくリサイクルした方が良くと思う。

最終処分場アンケート調査問13自由記述 区別集計表

ごみ処理の周知
焼却施設や最終処分場を受け入れる場合は、事前に時間をかけて説明し考えられる問題をすべて明らかにすべきだと思う。
ごみの残渣を埋め立てしているとは知らず、知識がなかったため、アンケートに答えることが難しかったです。圏内では他の地域に埋め立てしているとのことでしたが、他の茨城県内の地域ではどうしているのか、残渣のリサイクルを委託することでいくらお金がかかるのか、埋め立て地を作るとしたらいくら位かかるのか、分かるアンケートに答えやすかったかなと思います。
リサイクルの効果が出てきているのかどうか、何か具体的にわかるように分別、リサイクルの効果について市民に情報発信してほしい。
1海岸線に接する市町村以外、全国的に共通の課題である。議員は市町村を視察しているが、他の地域はどのように処理されているか情報を公開してほしい。 2リサイクル方法として残渣は道路敷くコンクリートなどに出来ないか検討したらどうか。 3費用が高額でも景観が悪くなるのであれば他の地域の引き受けを検討すべき
最終処分場が身近にある事で、ごみを出さない意識やリサイクルしようという意識も高くなると思います。また、意識を高めるように情報発信していくことも必要だと思います。 また、最終処分場が近くに建設される事で、負の要因になり得る事は事前に対策しておく事が必須です。(地下水汚泥、臭気、トラック騒音など)景観を損なわないよう工夫する事も重要。 最終処分場のイメージアップを図ってください。
残渣はどのようにリサイクルされるのか良く分からない。問7に対して予算はどの位必要とされているかもっと説明がほしい。
このアンケートについての意見なのですが、現在の圏外にある最終処分場の公害問題などの参考資料もできれば同封していただき、少しでも理解してからこのアンケートを解答したかったと思います。私には申し訳ないのですが、少し非日常的な所があるので淡々と答えてしまう、あるいは、例えばですが、最終処分場を建てることに対してしっかりした意見を書くことができません。事実をもとにアンケートに答えたいと思いました。失礼なことを書いてしまい大変申し訳ありませんでした。 ごみに関しては、分別の方をもう少し細かく分けてしまった方が良いと思います。ごみ分別表を作成し各家庭に配布してほしいです。
残渣という物は、地域内で処分した場合、迷惑になるのかならないのか説明をお願いしたい。
今回のアンケートで知らないことが多く、処分場とは、どの位の土地が必要で、周辺にどのような影響があるのかもわからないです。 もっとくわしい情報があれば、もっと、きちんと考えられます。ごみの問題は個人の問題でもあり、考えなければいけない身近な問題でもあります。一人ひとりごみを意識していくことが必要と思います。
最終処分場の決定については、圏内でやるべきだとは思いますが、決めるにしてもすべて公にして納得できるよう市民もメンバーに多数入りやるべきだと思います。
ごみ処理、リサイクルには高額費用がかかるのは仕方ないと思います。その費用は、税金から使われるのですから内訳を明確にしてほしいと思います。 リサイクルはとても大切な事だと思います。 今後も推進して戴きたいと思います。
個々にこれだけ分別にがんばっているのに残渣がどれ位出るものか実感が無い。
ニュースでも家庭ごみ処理場が満杯になっているのが処理場の受入れを自分のことばかり考えて、NOと云う人が私の周りにもいることは非常に悲しいことだと思う。 みんなの話合いの場を役所の方々ももっともっと作って欲しい。困るのは私一人ではないし市全体のことだから・・・。
現状で、ごみの分別には相当なコストがかかっていると認識しています。(各家庭での労力、複数のごみ箱の準備、分別したごみの家庭内での保管場所の確保など)分別の成果がコストにも見合うものかどうか、明らかにすべく情報公開していただきたいです。具体的には、分別にかかっているコストの調査、分別後の処分方法(例えばプラスチックはどれだけリサイクルされているか)、ごみの低減量、処理費用などを明らかにし、最終処分場の要否、及び、どれだけ分別すべきか、の判断材料とすることが必要だと思います。

最終処分場アンケート調査問13自由記述 区別集計表

常総広域圏以外の茨城県の各地域ではどうしているのか知りたい。そういう事を分かった上でもう1回アンケートをとってみたいかどうかと思う。

自分たちの地域で出したごみなので自分たちの地域で何とかすべきだとは思いますが、公害なども気になる。いきなり必要か、と聞かれても正直何を言ってよいか答えに迷う。

- ①家の近くに出来た場合の公害はないのか？(分からない)
  - ②圏内処分場を作った場合のメリット・デメリット(変わらない)
  - ③圏外の処分場に関わる費用は現在どの位なのか、また、圏内に処分場を作った場合の費用は安くなるのか、費用の削減が出来た場合、削減された費用は何に使われるのか？
- 疑問が多い。もっと住民に説明する必要があると思う。

今回のアンケートにより焼却の際に残渣が出るということ、また、その残渣が圏外へ埋立していることを初めて知りました。深刻なごみに対する危機管理を、貴組合のご協力のもと、地域住民が広く周知していただき、ごみに対して一人一人の意識が向上することを願います。

残渣のリサイクルにどのようなものがあるのか知りたかったです。

分別しているが実施どこまでリサイクルなど活用されているかが分からないので実態を明確にした上で決めてほしい。

最終処分場は自分たちの土地にあるべきだと思う。常総地域にそのような土地はあるのですか？リサイクルに高額な費用がかかるとありますが、いくらなのか、まず市民に現状やシュミレーションを知らせるべきだと思う。

- 1ごみ分別及びリサイクルを強化した後の変化は、どの様な状況か見えていない。(環境、費用等がどうなのか？)
- 2最終処分場について 環境、景観などハイレベルの対策等を実現ができるのか？など。

ごみ処理やリサイクル、残渣の最終処分場など幅広い意味での安全性やメリット、デメリットなどが分かりやすく説明して頂けたらと思います。知識がないため、判断材料がなくお答えできない間がいくつかあります。市民住民に分かりやすく伝えられる場をもっと提供してほしいです。

現在の埋立地はどんな場所にあるのか？住宅地の近くに建てても人体に影響はないのか？具体的な説明が不十分だと思う。

最終処分場アンケート調査問13自由記述 区分別集計表

残渣等の減量
<p>先々残渣が多くなり埋め立てできなくなることも。 地域で皆が協力し合い少しでも(今よりも)ごみを少なくする方向にしたい。 自分の近くは誰もが「いや」なのだから。 集積所の近くに住んでいるので当番があってもちらかっている時は、いつも掃除しています。</p>
<p>ごみの分別を十分にして、リサイクルに回す量を増やし、焼却分や埋立分を減らすことが必要。 焼却場所は都市の中にあっても焼却の高度化、焼却熱の利用を十分考えた施設とすればよい。</p>
<p>残渣が残らないよう区分はしているよう心がけている。</p>
<p>良く分別して出して居るので残渣は少ないと思っていた。</p>
<p>人間が生きていく為には避けて通れない「ごみ」の問題は永遠のテーマこれ迄からこれより多くなる一方で自分この問題に対して関心が殆んどなく今回のアンケートで初めて残渣の事を知りこれから尚一層資源回収に協力したいと思いました。問題は残渣の処理だが現在は他地域に依頼しているとの事現況はそれで凌いでいても将来は他力依存でなく自分たちで処理英知を絞って残渣の最適な処分方法を考案する事が出来れば問題は解決すると思います。</p>
<p>現在の温度を上げて灰を少なくなるようにお願いしたい。</p>
<p>各家庭の努力によってごみが減らせるのであれば今以上に手間がかかっても分別を細分化する必要があると思う。</p>
<p>1金、非金属に分類が必要であろうし 2セメントやれんがの原料として、お金を支払って引き取ってもら 3排出ごみ量の減量を考える</p>
<p>もっと分別して残渣を減らす。</p>
<p>有害にならない物は個人で一斗缶やドラム缶で近所で迷惑かからない様処分すれば税金面でも助かるのではないかと思います。</p>
<p>ごみは自分たちが出すのだから、一人一人がきちんと責任をもって分別すべきだと思う。もっと私たち一人一人が分別することで残渣を減らすことができるならば、もっと分別をしていきたい。</p>
<p>残渣を減らすことができ、環境のため、また自治体のために役に立てるのであれば、さらなる分別など、家庭でできることの協力は惜しまないつもりです。</p>

最終処分場アンケート調査問13自由記述 区分別集計表

リサイクル等の費用
リサイクル費用、最終処分場への支払い、市内に施設を作るとしてもどの位費用がかかり、実際自分たちが払う費用がどれくらいなのか、年金生活者には高額といわれても払いきれない額なのか、それがわからないと適切な解答ができません。
自分たちの出したもの、しっかり処分すること、費用負担を各項目毎にそしてトータル認識し対応することが、今を生きる人の努めだと思う。 最終処分施設近隣の人たちには必要経費で迷惑料を補助すべき。
リサイクル費用がどの程度で処分場がある場合のメリット、デメリットを良く説明が必要と思います。今回のアンケートだけでは全く判断出来ないと思います。
我が家から出るごみだけでも、毎回こんなことと思っています。ごみ問題は大変な事だと思います。 最終処分場に支払う費用が高くなっても仕方がないと思います。
問7の費用について具体的なレベルだ不明なので判断し難い。
なるべく衛生面も良く、お金も使わずに処理できるようにしていただきたい。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高額なリサイクル費用も市民に負担があった場合も困ります。</li> <li>・焼却施設の安全性等もくわしく説明してほしい。</li> </ul> (必要か必要でないかといわれてもわからない)
もっと分別をし、出来るだけ処分費用を高額にならないように家庭から出す時に対策をする。
リサイクル事業はさらに重要になってくると思います。イニシャルコスト、ランニングコストいずれもかかるとは思いますが、市の財政の一助にすることはできないのでしょうか。

最終処分場アンケート調査問13自由記述 区分別集計表

ごみ減量等の対策
<p>最終処分場問題は1地区1市町村の単位で考えないで、国として考えるべきものであると思います。(例えば、東京都が実施している東京湾の埋立地を確保する等)国に働きかけをすべきと思います。</p>
<p>ごみを減らす政策目標を明確にし、その為の手段を消費者、生産者に展開すべきと思う。基本のごみを減らすことで費用負担が軽減するようにごみの収集料金を設定する。企業の生産コストにごみ処理費用が含まれるように国レベルでの制度を導入する。(家電リサイクル法の適用範囲をTV、PCより拡大させる。)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつかやらなければならないことなので、未来へ先送りせずやってほしい。</li> <li>・お年寄りが分別しきれずに誤ったごみの出し方をしている現状もあるので実際難しい。</li> </ul>
<p>一般家庭でも焼却できるよう法を変えるべき。 家庭でごみ処理を多くする事により処分場での分量を少なくする。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ焼却、リサイクル、埋立処分等々、処理方法は沢山ありますが、すべて徹底してほしい。</li> <li>・分別することで複合汚染の危険性が少なくなる(公害)</li> <li>・リサイクルできる物、肥料にできるもの。</li> <li>・市民一人一人、ごみの分別に協力することが大切。</li> </ul>
<p>1問11で「受け入れることができる」と答えたのは、排ガスや水質の影響等、公害問題のない事を前提にしたものです。 2ごみ処理問題だけを考えないで、ごみがでない社会の仕組み作りを考えることが最も重要ではないですか？国も行政も真剣に取り組んでほしいです。分別も以前より細かくなり非常に大変です。</p>
<p>分別などその有効性がきちんと理解できれば意識の高い人が多いので、協力を得られると思う。</p>
<p>商品化の段階で分別しやすくする工夫、リサイクル化しやすい工夫、商品化の段階、消費者の工夫、最終処分の仕方等で改善の余地はあるのでは？</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互い誰かが受け入れなければ社会は成り立たないでしょう。</li> </ul>
<p>処理場は必要。方法は当局におまかせする。</p>
<p>ごみを出さない！これが基本 もっと一人一人がごみ対策に意識を持つべき。 ごみの処分場がなかったら、あなたの家はごみ屋敷、ごみの町ですよ。自分がよければいい！でなく、子供たちの未来、町の未来、地域の未来、市の未来、県の未来、国の未来、世界の未来を考えてほしい！</p>
<p>最終処分場(焼却施設を含む)は分別を少なくとも、高熱で処理可能な際新施設とし、水質、公害の出ない処理場、場所は人里の少ない所とする。他の市町村に任せるのでは決してはない。 自分の市は(市民の雇用も生まれ)私たちが処理することが大切に思います。責任を持つことが重要であります。</p>

最終処分場アンケート調査問13自由記述 区分別集計表

残渣及び最終処分場の安全性
最終処分場にしても継続的に安全性が確保されることがきちんと担保されなければ地域住民は不安。責任感を作るからには2重3重の安全対策を確保して自然や住みやすい地域を未来に残さなければならないと思います。
・分別は今の仕方でよい。 ・受入れは良いと思う人は少ないと思うが、自分もいやな事はだれも好まないのではないか。そうした場合は最終的には市でやるしかないと思う。安全に住民に害が無いように。
どの自治体でも同じ様な対応の仕方をしないと「自分だけ」という被害者意識が必ず生まれます。 処理についての安全性などの細かい説明を根気よく地域の住民にして行く必要がある。
残渣の安全性(例えばダイオキシンや重金属が入っていない)ことが十分に保障されるならば、最終処分場を地域内に設けてもよいと思います。 ただ、現状では残渣が安全なのかどうか不明なので、何とも言えません。残渣が安全であるなら、そこで広く知らせる広報活動が必要と思います。また、残渣の安全性と定期的にチェックするしくみも必要と思います。
最終処分場の中でも安定型、管理型色々あるかと思いますが、そのあたりをもっと詳しく知りたい。安全の確認を知りたい。

注)

※1 谷津田:谷地にある水気の多い湿田で、比較的狭隘な平地部の農地を指す。

※2 やすらぎ苑:取手市市之台に所在し、取手市、守谷市、つくばみらい市の3市で運営される公営の火葬場、斎場併設の施設。